

項目別業務実績評価			＜評価凡例＞ S 計画に対し十分に取り組み、顕著な成果が得られている。 B 計画に対し十分に取り組んでいる。			A 計画に対し十分に取り組み、成果が得られている。 C 計画に対する取組みは十分ではない。			＜県評価区分（年度評価）＞ ☆ 「○」のうち、特に着目する状況であるもの。 △ より一層の取組を期待するもの。			○ 良好な状況であるもの。 ▼ 取組の改善を強く求めるもの。			令和３年度 第２回評価委員会			資料２－４		議題２・３																																																		
中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令３、中期期間）				令和３年度実績（暫定） 自己評価		県評価 （R3年度暫定評価）		重点	数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 （第3期暫定評価）																																																				
									説明							説明																																																						
第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する事項	第2 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	第1 県民に対して提供する医療サービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置																																																																				
1 医療の提供 医療機関として求められる基本的な診療理念や県立病院が担う医療を明確にし、他の医療機関との機能分担や連携のもと、医療の質の向上に努め、患者や家族、地域から信頼される医療を提供すること。	1 医療の提供 県立病院機構の職員は、県立病院が担う役割と責任を認識するとともに、医療機関に求められる基本的な診療理念を理解し、医療の提供に当たってはそれを実践する。	1 医療の提供																																																																				
(I) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者が最良の治療効果を得られるよう、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく最適な医療を患者への十分な説明と同意のもとに安全に提供すること。	(I) 基本的な診療理念 診療に当たっては、患者自らが選択し納得できるよう、患者への十分な説明など、患者との信頼関係の構築に努め、科学的根拠に基づく医療を安全に提供するため、医療技術の向上、チーム医療の推進、医療安全対策の充実などに取り組む。	(I) 基本的な診療理念 各県立病院は、患者が選択し納得できる最良の医療を提供するため、次の事項等に取り組む。 ①患者への十分な説明と同意の徹底 ②医療技術の向上 ③チーム医療の推進 ④医療安全対策の充実 ⑤患者満足の向上	－	－	－	セカンドオピニオン数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>総 合</td><td>114</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td><td>52</td><td>103</td></tr><tr><td>こころ</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>39</td><td>58</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td><td>30</td><td>60</td></tr></table> セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>診療情報提供料(Ⅱ)</td><td>121</td><td>145</td><td>150</td><td>116</td><td>116</td><td>66</td><td>121</td></tr></table>				区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	総 合	114	115	90	112	114	52	103	こころ	－	－	－	－	－	－	－	こども	39	58	58	48	74	30	60	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	診療情報提供料(Ⅱ)	121	145	150	116	116	66	121	－	－											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
総 合	114	115	90	112	114	52	103																																																															
こころ	－	－	－	－	－	－	－																																																															
こども	39	58	58	48	74	30	60																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
診療情報提供料(Ⅱ)	121	145	150	116	116	66	121																																																															
			1	各病院 ①患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施する。	セカンドオピニオン件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>総 合</td><td>114</td><td>115</td><td>90</td><td>112</td><td>114</td><td>52</td><td>103</td></tr><tr><td>こころ</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td><td>－</td></tr><tr><td>こども</td><td>39</td><td>58</td><td>58</td><td>48</td><td>74</td><td>30</td><td>60</td></tr></table> セカンドオピニオン用情報提供料算定件数 (総合) (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>診療情報提供料(Ⅱ)</td><td>121</td><td>145</td><td>150</td><td>116</td><td>116</td><td>66</td><td>121</td></tr></table>				区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	総 合	114	115	90	112	114	52	103	こころ	－	－	－	－	－	－	－	こども	39	58	58	48	74	30	60	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	診療情報提供料(Ⅱ)	121	145	150	116	116	66	121	A			A 令和3年度についても、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施している。	・総合病院、こども病院ともに、セカンドオピニオン件数(他医療機関から紹介された件数)及び、情報提供料算定件数(他医療機関へ紹介した件数)は減少する見込みであるが、患者からの求めに適切に対応するとともに、他医療機関との信頼関係も構築できている。 ・今後も引き続き、患者への十分な説明と同意のもと、信頼関係に基づく安全・最適な医療を提供することが求められる。	第3期中期目標期間中は、患者の適切な医療が受けられる権利を尊重し、セカンドオピニオンを実施しており、令和元年以降 実施回数は計150件/年を超えて推移している。	・セカンドオピニオン件数、情報提供料算定件数ともに堅調に推移しており、患者からの求めに適切に対応するとともに、他医療機関との信頼関係も構築できている。 ・こども病院においては、令和2年度からオンラインセカンドオピニオンを実施しており、患者のニーズに対応している。 ・今後も引き続き、患者への十分な説明と同意のもと、信頼関係に基づく安全・最適な医療を提供することが求められる。							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
総 合	114	115	90	112	114	52	103																																																															
こころ	－	－	－	－	－	－	－																																																															
こども	39	58	58	48	74	30	60																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
診療情報提供料(Ⅱ)	121	145	150	116	116	66	121																																																															
			2	①②③運用実績などのエビデンスに基づくクリニカルパスの新規作成や見直しを行う。	クリニカルパス管理委員会において、新規作成及び修正に係る審議、承認を行った。 クリニカルパスの新規作成、適用率等実績 <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>新規作成（件）</td><td>16</td><td>15</td><td>34</td><td>9</td><td>23</td><td>7</td><td>14</td></tr><tr><td>修正（件）</td><td>224</td><td>130</td><td>253</td><td>103</td><td>225</td><td>36</td><td>72</td></tr><tr><td>適用率(%)</td><td>66.3</td><td>62.6</td><td>63.3</td><td>63.9</td><td>68.3</td><td>69.5</td><td>69.5</td></tr></table>				区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	新規作成（件）	16	15	34	9	23	7	14	修正（件）	224	130	253	103	225	36	72	適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	69.5	69.5	A			A クリニカルパスに関する運用・管理について、医療の質の向上や業務の効率化に繋がるよう、医療従事者が定期的に議論を行っている。 ・クリニカルパスの新規作成及び修正件数は、診療報酬改定(通常2年毎)の影響を受けるため、令和3年度は、令和2年度実績を下回る見込みである。	・クリニカルパス管理委員会を毎月開催し、新規作成だけでなく既存パスを随時見直す体制がとられている。 ・クリニカルパスの新規作成・修正は、診療報酬の改定年度において、改定内容への対応として増加する傾向があるため、令和2年度に比べて新規作成件数は減少しているが、適用率は高い水準を維持している。	第3期中期目標期間中は、医療の質の向上や業務の効率化のため、クリニカルパスの新規作成や修正を適切に実施し、適用率60％台を維持している。	・期間を通じて、クリニカルパス管理委員会を毎月開催し、新規作成だけでなく既存パスを随時見直す体制がとられている。 ・クリニカルパスの新規作成・修正は、診療報酬の改定年度において、改定内容への対応として増加する傾向があり、都度見直し・修正を進め、適用率向上に努めることが期待される。																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																															
新規作成（件）	16	15	34	9	23	7	14																																																															
修正（件）	224	130	253	103	225	36	72																																																															
適用率(%)	66.3	62.6	63.3	63.9	68.3	69.5	69.5																																																															
			3	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、精神科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	令和3年度9月末現在稼働クリニカルパス 4件(m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピン) 稼働クリニカルパス件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td><td>4</td></tr></table>				区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	4	A			A こころの医療センターにおいて導入が可能なクリニカルパス4件を導入済みである。今後、必要に応じ新規クリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供していく。	・稼働クリニカルパス数は導入が可能なものについては導入済みであるため、令和2年度と同水準である。 ・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピンに導入されており、患者の負担軽減と計画的な医療の提供に努めている。	こころの医療センターにおいて導入が可能なクリニカルパス4件を導入済みである。今後、必要に応じ新規クリニカルパス作成もしくは既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供していく。	・稼働クリニカルパス数は導入が可能なものについては導入済みであるため、期間を通じて件数の変化はない。 ・精神科医療では個々の病状に合わせた診療となるケースが多く、パスを適用できるケースは限られるが、m－ECT、転倒転落、鑑定入院、クロザピンに導入されており、患者の負担軽減と計画的な医療の提供に努めている。																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
稼働クリニカルパス	4	4	4	4	4	4	4																																																															
			4	①②③入院における患者の負担軽減及び計画的でわかりやすい医療を提供するため、小児科に適したクリニカルパスを作成し導入する。	稼働クリニカルパス件数 (単位：件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>稼働クリニカルパス</td><td>48</td><td>48</td><td>51</td><td>51</td><td>52</td><td>58</td><td>58</td></tr></table>				区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	58	58	A			A クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的に導入し、新規クリニカルパス作成、既存クリニカルパスの見直しを行い、患者の負担軽減に努め、より良い医療を提供している。	・クリニカルパスの積極的な導入により、稼働クリニカルパス数は令和2年度から6件増加している。 ・成人の場合と異なり、小児の場合は、薬剤の量など患者の体重別に細分化するなどきめ細かな対応が必要であり、患者に配慮した計画的な医療が提供されている。	クリニカルパスについては、導入が可能なものに関して、積極的な導入に努めた結果、令和2年度以降増加している。 今後も患者の負担軽減を果たし、より良い医療を提供するため、既存クリニカルパスの見直しを行い、新規クリニカルパス作成するなど、積極的な導入を進めていく。	・稼働クリニカルパス数は導入が可能なものについては、期間を通じて積極的に導入を図っている。 ・成人の場合と異なり、小児の場合は、薬剤の量など患者の体重別に細分化するなどきめ細かな対応が必要であり、患者に配慮した計画的な医療が提供されている。																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																															
稼働クリニカルパス	48	48	51	51	52	58	58																																																															

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価	県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 (第3期暫定評価)	
										説明				説明		
					5	各病院	③チーム医療を推進し、多職種による病院横断的な活動を通して、質の高い医療を提供する。	チーム医療の推進（カンファレンスの開催） 3年度9月末時点		S	令和2年度に、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 令和3年度についても、総合病院の新型コロナウイルス感染症専門病棟では、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たっている。	14	☆	S	第3期中期期間中は、令和2年度に、SARS-CoV-2(以下、「新型コロナウイルス」という。)感染症への対応のため、多職種による院内感染対策のチームを創設し、感染防止の取組、情報収集などを行っている。 また、総合病院の新型コロナウイルス感染症専門病棟では、各部署から医師、看護師等を派遣し、多職種が対応に当たっている。	・チーム医療においては、多種多様なスタッフが各々の高い専門性を前提に、目的と情報を共有し、業務を分担しつつも互いに連携・補完し合い、患者の状況に的確に対応した医療を提供することにより、医療・生活の向上、医療従事者の負担軽減、医療安全の向上を目指している。 ・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、令和2年度に、総合病院において、感染症対策室を中心とした「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整などを行っている。 ・感染対策については、各病院の感染症対策室を中心に対策を講じており、必要に応じて、病院間の情報共有を行っている。 特に総合病院では、精神科医師の着任により、令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得した。 ・各病院において、多職種からなるチームが感染防止の取組や情報収集などを行い、院内感染対策を徹底している。
							チーム医療に対する診療報酬上の評価加算の状況 (単位：千円)		各病院では、最良の医療を提供するため、診療科の枠を越えた多職種カンファレンスを実施している。特に総合病院では、精神科医師の着任により、緩和ケアチーム及び精神科リエゾンチームによる診療報酬上の評価加算が高い水準で推移しており、収益面においても大きく貢献している。 多職種による病院横断的な活動体制が上記の成果に結びついている。							
					6	各病院（企画）	④医療安全室及び感染対策委員会等を中心に、マニュアルの見直しや研修会を通じて院内感染防止対策・医療安全対策を実施する。	9月末までに3病院で、7回の院内感染対策研修、4回の医療安全対策研修を行い、安全・安心な医療の提供に対する職員への意識づけと、体制整備を行っている。		S	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として、感染対策室を中心とした中核要員によるチームが感染防止に関する取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。	14	☆	S	各病院では、感染対策委員会や医療安全委員会を行う他、研修についても法定回数を上回る実績を積んでいる等、継続的な対策研修の実施体制が確立している。 令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の院内感染対策として感染対策室を中心とした中核要員によるチームを創設し、感染防止の取組や情報収集などを担い、県との調整のうえ患者の受入を適切に行っている。	・院内感染対策・医療安全対策研修を継続的に実施しており、安全・安心な医療の提供に関する職員への意識付けが行われている。 ・各病院への感染管理を専攻とする認定看護師の配置や、対策マニュアルの整備及び随時見直しも行われている。 ・期間を通じて、法定回数をはるかに超える回数を実施しており、令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症も踏まえた内容を扱っている。 ・令和2年度に、総合病院において、新型コロナウイルス感染症対策に特化した「院内感染対策チーム」を創設し、県や市保健所等との情報共有や患者受入れに関する調整などを行っており、県立病院として、本県の新型コロナウイルス対策において重要な役割を果たし、地域医療の確保に貢献している。
							医療安全対策、院内感染対策研修等		院内感染対策研修 医療安全対策研修 院内感染対策研修 医療安全対策研修							

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績（令3、中期期間）										令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)	
																			説明						説明			
					7	④⑤固定チームナーシングによる看護提供を行うことで、看護の継続性を図り、患者の安心を高める。	総合	「患者様の声」の推移（看護師） (単位:件)										A	令和3年度の看護師に対する「患者様の声」の件数は、令和2年度実績値を上回る見込みである。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。	・「患者様の声」の件数は面会制限を行った令和2年度と比較して増加する見込みである。 ・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護の提供が可能となり、患者との間に信頼関係が強くなるものと考えられる。				A	看護師に対する「患者様の声」の件数は、新型コロナウイルス感染症対策として面会制限を行った令和2年度は落ち込んだが、例年80件程度のご意見をいただいている。 看護師の接遇に対する満足度は、目標値90%を超える数値を維持しており、看護教育が適切に実施されている。 今後も寄せられた意見を参考に質の高い看護を提供できるよう努める。	・固定したチームメンバーで受け持ち患者を分担して看護を行う「固定チームナーシング方式」のもと、入院から退院まで看護が展開されている。 ・看護師メンバーが固定されることで、患者に寄り添った質の高い看護が提供されることとなり、患者満足度調査においても、看護師に対する評価は高いものとなっている。		
								患者満足度調査 (単位:%)																				
					8	⑤患者の視点に立った質の高い医療の提供を目指し、患者満足度調査を行い、患者満足度の改善につなげる。	各病院（企画）	患者満足度調査 (単位:%)										－	総合病院における令和3年度満足度調査結果は現在集計中である。特に、施設に関する改善要望に関しては、リニューアル工事における病室、相談室、共用部トイレ等の改修を行うなど、適切に対応している。 こころの医療センターにおける令和3年度満足度調査はの目標(85%以上)を達する見込である。 こども病院では、過去に売店のスペース拡充・商品の充実に対する要望が多かったため、改修工事を実施し、コンビニエンスストアを令和2年3月にオープンした。それにより、売店に対する満足度は90%超となり、元年度実績を大きく超える結果となっている。 また、院内の投書にもコンビニの品揃えが拡充されたことに対する感謝が継続的に寄せられている。	・患者満足度調査を毎年実施し、調査結果をもとに患者サービスの向上につながるよう、きめ細かい改善策が講じられている。 ・患者満足度は、令和3年度上半期時点では集計中であるため、今回は未評価とする。	1	1	－	A	総合病院における令和3年度満足度調査結果は現在集計中であるが、食事に関する意見や駐車場等の施設全般に関する要望に対しては適切に対応しており、これまで入院・外来ともに目標値を上回る高い満足度を維持している。 こころの医療センターにおける患者満足度は、令和元年度から3年度にかけて、毎年90%を超え、高い満足度を獲得している。令和元年度に実施した事務・管理棟のトイレ改修を行った結果、患者からも概ね好評な意見をいただいており、今後も患者の視点に立った質の高い医療の実施に努めていく。 こども病院では、過去に売店のスペース拡充・商品の充実に対する要望が多かったため、改修工事を実施し、コンビニエンスストアを令和2年3月にオープンした。それにより、令和2年度の売店に対する満足度は90%超となり、元年度実績を大きく超える結果となっている。 また、院内の投書にもコンビニの品揃えが拡充されたことに対する感謝が継続的に寄せられている。今後も売店と協力しながら数値向上を目指す。	・患者満足度は、期間中の各年度とも目標値を上回る高い水準を維持している。 ・3病院ともに、患者の意見を施設改修や業務改善につなげており、引き続き、真摯な対応が期待される。		
患者満足度調査 (単位:%)																												

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																				
						説明					説明																																																																																																						
(2) 県立病院が担う役割 他の医療機関では対応困難な高度・特殊医療など、県の保健医療施策として求められている医療を誠実に提供するとともに、地域連携に努め、県内医療機関の中核病院としての役割を果たすこと。また、医療技術の進展等に対応し、高度・専門医療等の更なる充実・強化に努めること。	(2) 県立病院が担う役割 他の医療機関では対応困難な高度・専門・特殊医療が確実に提供できるように、先進的技術・治療法の導入に努める。情報通信技術を活用した医療連携や疾患ごとの地域連携を推進する。 県内医療機関の中核病院として、緊急時における後方病床の確保や人材育成などの支援体制の整備を行うとともに、地域の医療機関との機能分担や紹介率・逆紹介率の向上により、地域連携の強化を図る。 【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	(2) 県立病院が担う役割 県内の中核的病院として高度・専門・特殊医療を提供するため、地域の医療機関との機能分担を推進し、地域の医療機関との連携を強化する。 ①紹介・逆紹介の推進 ②地域連携クリニカルパスの推進 ③かかりつけ医との診療情報の共有化の推進 ④ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル(ふじのくにねっと)の推進 【目標値】 ・紹介率(総合、こころ、こども) ・逆紹介率(総合、こころ、こども)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																				
			9	①かかりつけ医との連携により、機能分担体制を推進する。 地域の医療機関との連携強化を図る	総合 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th><th>中期計画</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>89.0</td><td>90.6</td><td>92.7</td><td>92.4</td><td>93.8</td><td>93.2</td><td>90以上</td><td>93.0</td><td>90以上/毎年度</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>161.5</td><td>175.5</td><td>171.3</td><td>174.7</td><td>195.4</td><td>197.0</td><td>175以上</td><td>197.0</td><td>175以上/毎年度</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	中期計画	紹介率	89.0	90.6	92.7	92.4	93.8	93.2	90以上	93.0	90以上/毎年度	逆紹介率	161.5	175.5	171.3	174.7	195.4	197.0	175以上	197.0	175以上/毎年度	A	・地域医療支援病院の承認基準である紹介率80%を大きく上回っており、逆紹介率も非常に高く、県内医療機関の中核病院として、地域の医療機関との連携が積極的に図られている。 ・逆紹介率は、従前から取り組んでいた診療所訪問等により病診連携が進んだことで、令和2年度に引き続き、目標値を大幅に上回っている。	2	1	○	A	紹介率及び逆紹介率は、従来よりさらに紹介先、逆紹介先となる地域のクリニックとの情報共有、広報及び訪問等を積極的に行い、連携強化に努めた結果、紹介率、逆紹介率ともに目標値を上回ることができている。																																																																							
			区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	中期計画																																																																																																					
			紹介率	89.0	90.6	92.7	92.4	93.8	93.2	90以上	93.0	90以上/毎年度																																																																																																					
			逆紹介率	161.5	175.5	171.3	174.7	195.4	197.0	175以上	197.0	175以上/毎年度																																																																																																					
10	①地域の医療機関との連携を強化し、医療支援体制や救急・急性期、重症患者の受入など連携・機能分担体制を推進する。	こころ 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th><th>中期計画</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>55.0</td><td>56.3</td><td>51.0</td><td>56.1</td><td>51.2</td><td>44.7</td><td>57以上</td><td>47.7</td><td>57以上/毎年度</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>29.6</td><td>28.6</td><td>37.0</td><td>33.7</td><td>30.1</td><td>23.7</td><td>30以上</td><td>26.9</td><td>30以上/毎年度</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	中期計画	紹介率	55.0	56.3	51.0	56.1	51.2	44.7	57以上	47.7	57以上/毎年度	逆紹介率	29.6	28.6	37.0	33.7	30.1	23.7	30以上	26.9	30以上/毎年度	B	新型コロナウイルス感染症拡大の対策として、個室病床4床をコロナ対策用の病床としている。 運用できる個室病床が減少している一方で多床室への入院が難しい患者が増えており、受入調整が困難となっている。 また感染拡大の影響で地域移行支援も進んでいないこともあって、紹介率・逆紹介率とも目標値及び前年度実績を下回っている。	2	1	○	B	第3期開始後、紹介率が目標値に達した年度はなく、逆紹介率については概ね目標値には達しているものの、達成できていない年度もある。 今後、地域の医療機関との連携を図るほか、先進的治療であるm-ECTやクローズド治療などによる、他の医療機関では対応困難な患者の積極的な受け入れにより、紹介率の向上に努めていく。 また、「よろず相談・地域連携スタッフ」による地域や行政と協働し、地域連携や移行支援に努め逆紹介率の向上を図る。																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	中期計画																																																																																																								
紹介率	55.0	56.3	51.0	56.1	51.2	44.7	57以上	47.7	57以上/毎年度																																																																																																								
逆紹介率	29.6	28.6	37.0	33.7	30.1	23.7	30以上	26.9	30以上/毎年度																																																																																																								
11	①地域の医療機関との機能分担を推進するため、紹介予約制を維持するとともに、積極的に逆紹介を行う。	こども 紹介率・逆紹介率実績 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th><th>中期計画</th></tr><tr><td>紹介率</td><td>94.7</td><td>94.1</td><td>92.6</td><td>90.9</td><td>90.7</td><td>90.6</td><td>94以上</td><td>90.6</td><td>94以上/毎年度</td></tr><tr><td>逆紹介率</td><td>52.5</td><td>46.5</td><td>43.7</td><td>47.7</td><td>44.8</td><td>40.3</td><td>53以上</td><td>40.3</td><td>53以上/毎年度</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	中期計画	紹介率	94.7	94.1	92.6	90.9	90.7	90.6	94以上	90.6	94以上/毎年度	逆紹介率	52.5	46.5	43.7	47.7	44.8	40.3	53以上	40.3	53以上/毎年度	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、紹介率・逆紹介率とも前年を下回っている。また、県の発熱等診療医療機関に指定されたことで、紹介状なしのER患者が一時期増加した。 今後とも他の医療機関と連携を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っていく。 紹介率・逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認基準を満たしており、機能を果たした。 ただし、目標数値には達していないため、今後も地域医療機関との連携及び入退院支援センターの活動を通じた退院支援により、逆紹介率の向上に努める。	2	1	○	B	他の医療機関と連携を図ることにより、紹介予約制を維持するとともに積極的な逆紹介を行っている。 紹介率・逆紹介率ともに地域医療支援病院の承認基準を満たしており、機能を果たしている。 ただし、第3期中期期間(令元～令3)を通じて目標数値には達していないため、今後も地域医療機関との連携及び入退院支援センターの活動を通じた退院支援により、逆紹介率の向上に努める。																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	中期計画																																																																																																								
紹介率	94.7	94.1	92.6	90.9	90.7	90.6	94以上	90.6	94以上/毎年度																																																																																																								
逆紹介率	52.5	46.5	43.7	47.7	44.8	40.3	53以上	40.3	53以上/毎年度																																																																																																								
12	②心疾患、脳卒中、がん、慢性腎臓病、大腿骨頭部骨折等の地域連携クリニカルパスを活用し、かかりつけ医やリハビリテーション病院との機能分担を推進する。	総合 地域連携クリニカルパス (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>脳 卒 中</td><td>52</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>39</td><td>82</td></tr><tr><td>大 腿 骨 頭 部 骨 折</td><td>103</td><td>82</td><td>57</td><td>82</td><td>104</td><td>35</td><td>74</td></tr><tr><td>胃 が ん</td><td>86</td><td>81</td><td>61</td><td>55</td><td>51</td><td>31</td><td>65</td></tr><tr><td>大 腸 が ん</td><td>114</td><td>109</td><td>124</td><td>122</td><td>102</td><td>72</td><td>151</td></tr><tr><td>乳 が ん</td><td>131</td><td>191</td><td>105</td><td>128</td><td>102</td><td>52</td><td>109</td></tr><tr><td>前 立 腺 が ん</td><td>0</td><td>9</td><td>10</td><td>16</td><td>20</td><td>16</td><td>34</td></tr><tr><td>虚 血 性 心 疾 患</td><td>186</td><td>142</td><td>92</td><td>73</td><td>67</td><td>22</td><td>46</td></tr><tr><td>心 房 細 動</td><td>-</td><td>1</td><td>7</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td><td>4</td></tr><tr><td>慢 性 腎 臓 病</td><td>37</td><td>25</td><td>43</td><td>40</td><td>29</td><td>11</td><td>23</td></tr><tr><td>肺 が ん</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>肝 が ん</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td><td>1</td><td>2</td></tr><tr><td>計</td><td>709</td><td>682</td><td>561</td><td>605</td><td>578</td><td>281</td><td>590</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	脳 卒 中	52	42	62	83	102	39	82	大 腿 骨 頭 部 骨 折	103	82	57	82	104	35	74	胃 が ん	86	81	61	55	51	31	65	大 腸 が ん	114	109	124	122	102	72	151	乳 が ん	131	191	105	128	102	52	109	前 立 腺 が ん	0	9	10	16	20	16	34	虚 血 性 心 疾 患	186	142	92	73	67	22	46	心 房 細 動	-	1	7	4	1	2	4	慢 性 腎 臓 病	37	25	43	40	29	11	23	肺 が ん	0	0	0	2	0	0	0	肝 が ん	-	-	-	-	-	1	2	計	709	682	561	605	578	281	590	A	令和3年度も、地域の医療機関等との連携により、地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めている。				A	・地域連携クリニカルパスの適用患者数は、令和2年度を上回る見込みであり、かかりつけ医やリハビリテーション病院などとの機能分担に努めている。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																										
脳 卒 中	52	42	62	83	102	39	82																																																																																																										
大 腿 骨 頭 部 骨 折	103	82	57	82	104	35	74																																																																																																										
胃 が ん	86	81	61	55	51	31	65																																																																																																										
大 腸 が ん	114	109	124	122	102	72	151																																																																																																										
乳 が ん	131	191	105	128	102	52	109																																																																																																										
前 立 腺 が ん	0	9	10	16	20	16	34																																																																																																										
虚 血 性 心 疾 患	186	142	92	73	67	22	46																																																																																																										
心 房 細 動	-	1	7	4	1	2	4																																																																																																										
慢 性 腎 臓 病	37	25	43	40	29	11	23																																																																																																										
肺 が ん	0	0	0	2	0	0	0																																																																																																										
肝 が ん	-	-	-	-	-	1	2																																																																																																										
計	709	682	561	605	578	281	590																																																																																																										
13	③④地域医療ネットワークシステムを整備・活用する。	各病院(企画) ネットワーク実績 (単位：件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>開示施設数</td><td>18</td><td>18</td><td>17</td><td>16</td><td>19</td><td>19</td><td>20</td></tr><tr><td>開示件数(累計)</td><td>19,795</td><td>24,375</td><td>28,732</td><td>33,400</td><td>38,366</td><td>41,130</td><td>43,894</td></tr><tr><td>開示件数(新規)</td><td>19,795</td><td>4,580</td><td>4,357</td><td>4,668</td><td>4,966</td><td>2,764</td><td>5,528</td></tr><tr><td>参照施設数</td><td>141</td><td>134</td><td>126</td><td>118</td><td>123</td><td>128</td><td>139</td></tr><tr><td>病院</td><td>13</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>15</td><td>16</td><td>18</td></tr><tr><td>診療所</td><td>76</td><td>78</td><td>76</td><td>72</td><td>73</td><td>74</td><td>80</td></tr><tr><td>保険薬局</td><td>40</td><td>31</td><td>27</td><td>25</td><td>29</td><td>32</td><td>36</td></tr><tr><td>訪問看護ステーション</td><td>10</td><td>9</td><td>8</td><td>7</td><td>5</td><td>5</td><td>4</td></tr><tr><td>介護福祉施設</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr></table> 「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル」について、情報の開示施設である各地域の中核病院、自治体病院、診療所・医師会とともに「ふじのくにバーチャル・メガ・ホスピタル協議会」を運営し、複数医療機関相互の診療情報共有のため広域ネットワーク基盤を構築して運用している。	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	開示施設数	18	18	17	16	19	19	20	開示件数(累計)	19,795	24,375	28,732	33,400	38,366	41,130	43,894	開示件数(新規)	19,795	4,580	4,357	4,668	4,966	2,764	5,528	参照施設数	141	134	126	118	123	128	139	病院	13	14	13	13	15	16	18	診療所	76	78	76	72	73	74	80	保険薬局	40	31	27	25	29	32	36	訪問看護ステーション	10	9	8	7	5	5	4	介護福祉施設	2	2	2	1	1	1	1	A	令和3年度中に静岡市清水区の桜ヶ丘病院が開示施設として参画する見込みである。 また、令和3年度は、ネットワーク参画医療機関が一体となって、連携医療機関等に参画の呼びかけ及び広報を行っており、診療所、薬局等、参照施設の参画増を見込んでいる。				A	・ふじのくにねっとは、県内医療機関における病病連携・病診連携の促進に向けた地域医療情報連携ネットワークであり、総合病院は、運営主体である参加医療機関で構成する協議会の事務局を担っている。 ・県は、ネットワークの拡大に向けて、平成28年度より、開示医療機関におけるシステム整備費用を補助しており、令和3年度は、医療法人社団アールアンドオーが更新、桜ヶ丘病院が新規構築を行う予定となっている。 ・協議会は、平成28年度より、参加医療機関からの利用料の徴収を開始し、自律的な運営体制が確立された一方、参照施設数は減少傾向となっているが、開示件数は堅調に増加しており、システムの有効性を認めている医療機関には積極的に活用されている。 ・令和3年度は、未導入圏域の基幹病院への参加促進活動や、医師会や薬剤師会を通じた加入促進チラシの配布、試用端末貸出など、開示施設・参照施設の増加に向けた取組が行われている。 ・参加医療機関にとっては、利用料に見合う利用価値が得られるかどうか重要なため、協議会事務局として、地域特性に応じた優良な活用事例の横展開等による更なる参加促進、ネットワークの利用価値を高めていくことが期待される。																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																										
開示施設数	18	18	17	16	19	19	20																																																																																																										
開示件数(累計)	19,795	24,375	28,732	33,400	38,366	41,130	43,894																																																																																																										
開示件数(新規)	19,795	4,580	4,357	4,668	4,966	2,764	5,528																																																																																																										
参照施設数	141	134	126	118	123	128	139																																																																																																										
病院	13	14	13	13	15	16	18																																																																																																										
診療所	76	78	76	72	73	74	80																																																																																																										
保険薬局	40	31	27	25	29	32	36																																																																																																										
訪問看護ステーション	10	9	8	7	5	5	4																																																																																																										
介護福祉施設	2	2	2	1	1	1	1																																																																																																										

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 (第3期暫定評価)																																																									
						説明					説明																																																										
(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県立総合病院においては、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、3大疾患(がん、脳血管疾患、心疾患)を中心に高度・専門医療や急性期医療等を提供すること。また、高度救命救急センターの運用による広範囲熱傷等の特殊疾病患者の受入れ等、高度救急医療を継続して提供するほか、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。 県立こころの医療センターにおいては、精神科救急・急性期医療の提供や他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図るほか、多様な精神疾患への対応や早期入院・早期社会復帰を支援する医療提供体制の充実に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率85%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 県が掲げる6疾病5事業を念頭に、各県立病院が専門性を活かしつつ、県立病院間や地域の医療機関との連携を強化して、病態に即した的確な医療を提供する。特に、全国的な課題とされている救急医療や急性期医療の充実に重点的に取り組む。	(3) 県立病院が重点的に取り組む医療 各県立病院は、県が求める政策医療を念頭に、それぞれの特性を生かし、以下の医療に重点的に取り組む。	—	—	—	—	—			—																																																											
			—	—	—	—	—				—																																																										
			—	—	—	—	—				—																																																										
			—	—	—	—	—				—																																																										
	ア 循環器疾患・がん疾患については、広域的な救急医療の提供への対応を図ること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率90%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度85%以上の達成を目指すこと。	ア 循環器疾患・がん疾患については、小児は県立こども病院が、成人は県立総合病院がそれぞれ県内の中核病院の機能を果たしていく。	—	—	—	—	—				—																																																										
	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	イ 周産期医療における産科合併症及び脳卒中等産科以外の疾患による合併症や精神科患者の身体合併症などについては、各県立病院が連携して取り組む。	14	各病院	・周産期医療、精神科患者の身体合併症、認知症に対して、機構内3病院が連携し、より適切な医療の提供を行う。 児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れている。 周産期医療における搬送実績 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>こども→総合</td><td>3</td><td>7</td><td>8</td><td>7</td><td>3</td><td>2</td><td>3</td></tr><tr><td>総合→こども</td><td>11</td><td>15</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>1</td><td>5</td></tr></table> こころの医療センターの精神科医師の総合病院への配置状況 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr></table> こころの医療センターから総合病院への身体合併症による搬送件数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>こころ→総合</td><td>7</td><td>4</td><td>9</td><td>6</td><td>4</td><td>1</td><td>2</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	こども→総合	3	7	8	7	3	2	3	総合→こども	11	15	13	13	13	1	5	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	こころ→総合	0	0	0	1	2	2	2	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	こころ→総合	7	4	9	6	4	1	2	A	3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築していく。 総合病院に常勤の精神科医師を2名配置し、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施している。 また、こころの医療センターとこども病院の精神科医師が定期的に合同症例検討会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う各病院の感染対策を優先させていることもあり、令和3年度は開催する見込みが立っていないが、感染状況を踏まえた上で、引き続き相互連携のために再開する予定である。 こども病院から総合病院に母体搬送が行われている。同一法人のため搬送時の医師の応援派遣がスムーズであることや設備の有効活用が図られている。 今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進める。	・認知症をはじめとした精神科患者における身体合併症、周産期医療における合併症への対応等において、3病院の各特性を活かして相互に連携が図られている。 ・令和3年度も引き続き、こども病院から総合病院へ母体搬送が行われるなど、医師の応援派遣や設備の有効活用といった、同一法人の利点が活かされている。 ・こころの医療センターから総合病院へ精神科医2人を配置し、精神科リエゾンチーム、認知症ケアチーム、緩和ケアチームに参画することで、診療報酬加算の算定件数増に大きく貢献している。 ・総合病院においては、精神科病棟の整備に向け、令和3年度から設計に着手しており、重篤な身体合併症患者の受入れに向け、体制整備を図っている。 ・機構3病院の連携体制の更なる強化を進めるとともに、精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、検討していくことが期待される。	14	○	A	第3期中期目標期間中は、3病院1法人のメリットを活かし、患者の搬送、医師の応援体制等病院間の連携協力体制を構築してきた。 特に総合病院精神科に対して、こころの医療センターより令和元年度に1名、令和2年度に2名の常勤の精神科医師を配置するなど、精神科医療体制の構築に向けた連携を実施している。 児童の措置入院等、こども病院での受入れが困難な場合はこころの医療センターにて受入れており、こころの医療センターとこども病院の精神科医師が定期的に合同症例検討会を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う各病院の感染対策を優先させていることもあって、令和2年度以降は開催されていない。今後、感染状況を見据え、相互連携の継続のために再開する予定である。 こども病院から総合病院に継続的に母体搬送が行われている。同一法人のため搬送時の医師の応援派遣がスムーズであることや設備の有効活用が図られている。 今後、総合病院精神科病棟の整備にあたり、精神科医師が中心となり、機構における精神科医療のあり方や役割分担を含めた検討を進める。	・期間を通じて、身体合併症、周産期医療における合併症への対応等において、3病院の各特性を活かして相互に連携が図られている。 ・こころの医療センターから総合病院へ精神科医2人を配置し、精神科リエゾンチーム等の診療報酬加算の算定件数増に大きく貢献している。 ・総合病院においては、精神科病棟の整備に向け、令和2年度に基本計画をとりまとめ、令和3年度には、設計に着手している。精神科病棟の整備により、重篤な身体合併症患者の受入れが可能となり、静岡圏域における身体合併症患者への医療提供体制の確保が期待される。 ・機構3病院の連携体制の更なる強化を進めるとともに、精神科医師の配置がチーム医療等の各方面に及ぼした効果等も十分に分析の上、検討していくことが期待される。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																														
こども→総合	3	7	8	7	3	2	3																																																														
総合→こども	11	15	13	13	13	1	5																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																														
こころ→総合	0	0	0	1	2	2	2																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																														
こころ→総合	7	4	9	6	4	1	2																																																														

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値		評 価		第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)				
											説明								説明						
		ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。	ウ	結核指定医療機関、エイズ拠点病院及び難病医療協力病院等として感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療に着実に取り組む。 特に、SARS-CoV-2(新型コロナウイルス)などの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。	15	総合・こころ・こども	・新型コロナウイルスなどの感染症について、県と連携、協力して拡大防止に対応できる体制を整備する。 【総】・結核病棟を維持する。また各種感染症や難病、アレルギー疾患医療は県内医療機関との連携・協力関係を進める。 【総・子】・腎臓移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成(総合病院のみ)等への取組みを継続する。 【子】・アレルギー疾患医療は県内医療機関として、講習会の実施等の取組みを継続する。	(総合) 結核病棟は50床で運用している。 エイズ拠点病院としてエイズ患者の受入体制を整えている。	入院患者数 (単位：人)	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	S	(総合) 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の充実に努めている。 特に、令和3年8月20日に発令された緊急事態宣言を受け、9月までに本館医局等を感染症専門病棟として再整備するなど、感染拡大に備え、10月以降は計47床(本館6階 29床、本館3階 18床)を確保した。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。	・政策医療として、結核、エイズ等の感染症医療、難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供し、県立病院としての役割を果たしている。	14	☆	(総合) 令和2年度より、新型コロナウイルス感染症に係る院内検査及び患者受入体制の構築、充実に努めている。 新型コロナウイルス感染症の治療に迅速に対応するため、令和2年4月から、本館6階の一般病棟 20床を緊急的に使用した。その後、療養環境と治療環境の充実を図るため、本館3階に陰圧病床2床、個室4床を含む18床の専門病棟を整備し、令和2年9月から運用を開始した。令和3年1月には、本館6階に透析装置を有する27床の専門病棟を整備した。令和3年8月、緊急事態宣言の発令を受け、本館医局等を感染症専門病棟として再整備するなど、感染拡大に備え、計47床(本館6階 29床、本館3階 18床)を確保した。 結核病棟については、結核病床を有する病院の多くが新型コロナウイルス感染症病床へ切り替える状況において、当院は50床を維持し、県内における結核患者の8割以上を受入可能な体制を整えている。 移植については、生体移植を含めた腎移植、造血幹細胞移植、強角膜片作成を実施している。移植件数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2年度及び令和3年度実績値は減少しているが、例年30件程度で推移している。	・総合病院においては、結核、エイズ等の感染症医療、難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供し、県立病院としての役割を果たしている。
									造血幹細胞移植実績 (単位：件)	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・総合病院においては、無菌病棟の整備により、清潔な環境下で化学療法や移植後の管理を行う体制が整い、造血管細胞移植を継続して実施している。		・総合病院はエイズ拠点病院として、エイズ患者の受入れ体制を整えているほか、総合病院とこども病院は難病医療協力病院として、難病患者へ適切な医療を提供している。					
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・総合病院とこども病院は、平成30年10月、アレルギー疾患の診療経験が豊富な専門的知識・技能を有する医師が常勤する、県アレルギー疾患拠点病院(県内で7病院)として選定されており、アレルギー疾患にかかる専門治療の提供、普及啓発、人材育成を推進している。	・また、総合病院とこども病院は、県アレルギー疾患拠点病院(県内で7病院)として、アレルギー疾患にかかる専門治療の提供、普及啓発、人材育成を推進している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・新型コロナウイルス感染症に関しては、令和3年9月末時点で総合病院で27床、こころの医療センターで4床(うち患者受入可能2床)、こども病院で10床を確保して、患者を受け入れており、3病院ともに、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。	・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、令和2年度から、3病院ともに専用病床を確保して患者を受け入れており、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。	・特に総合病院においては、新型コロナウイルス患者受入れのための専門病棟を整備するなど、機動的な対応をとっている。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に寄与している。	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に寄与している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・新型コロナウイルス感染症に関しては、令和3年9月末時点で総合病院で27床、こころの医療センターで4床(うち患者受入可能2床)、こども病院で10床を確保して、患者を受け入れており、3病院ともに、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。	・新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、令和2年度から、3病院ともに専用病床を確保して患者を受け入れており、県立病院として、県内の医療提供体制確保に貢献している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に寄与している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に寄与している。							
									区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に貢献している。	・また、コロナ禍においても、感染症医療のうち、結核については、病床を確保する必要があるが、総合病院においては、県内医療機関の役割分担のもと、結核病床を有する病院の多くが、結核病床をコロナ感染症病床へ切り替える一方で、県内最大規模の結核病床(50床)を維持しており、県全体の結核対策に寄与している。							

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)	
											説明						説明			
	県立こども病院 においては、小児重症心疾患患者やハイリスク胎児・妊婦、新生児に対する高度・先進医療を提供すること。また、小児がん拠点病院としての機能強化、高度な小児救急医療の充実及び児童精神分野の医療の充実を図るほか、患者の円滑な退院・在宅移行を支援する体制整備に努めること。 なお、中期目標期間の各事業年度において、病床利用率75%以上、入院患者満足度90%以上、外来患者満足度90%以上の達成を目指すこと。 さらに、県立3病院は、結核、エイズ等の感染症医療や難病医療、移植医療、アレルギー疾患医療等を提供すること。また、認知症をはじめとした精神科患者の身体合併症、周産期医療における産科合併症以外の合併症及び二次的障害を含む発達障害への対応など、一病院では対応が困難な分野においては、県立3病院のそれぞれの特性を活かし、相互に連携を取り、適切な対応を図ること。 その他、移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題に取り組む。今後の疾病構造や県民の医療ニーズの変化等に対応し、県が求める政策医療に協力すること。また、医療施設や機器の整備については計画的に実施するとともに、県民の医療ニーズの変化や医療技術の進展に応じ、機動的な対応を行うこと。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	エ リハビリテーションや相談援助の体制を充実し、患者の社会復帰、生活支援、就学・就労につながる支援等に取り組む。	16 ～ 18	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	総合	患者サポートセンター退院調整件数 (単位: 件)		A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。		・入退院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域との医療機関との顔の見える関係を構築している。 ・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入退院支援加算は令和2年度より増加する見込みである。 ・特に退院時リハビリテーション指導料の増加が顕著であり、令和2年度に、医事課とリハビリテーション科の連携によって、円滑に算定できるよう運用の見直しが行われたことによる。			A	患者サポートセンターの看護師、MSWや理学療法士等が中心となり、入院早期から退院調整を積極的に支援している。		・入退院調整の窓口である地域医療ネットワークセンターにおいては、各種会議・勉強会への参加、地域連携バスの運用などを通じて地域との医療機関との顔の見える関係を構築している。 ・退院調整件数や診療報酬算定件数としての入退院支援加算は期間を通じて増加している。 ・特に退院時リハビリテーション指導料の増加が顕著であり、令和2年度に、医事課とリハビリテーション科の連携によって、円滑に算定できるよう運用の見直しが行われたことによる。		
							退院支援関係診療報酬算定件数実績 (単位: 件)													
							リハビリテーション活動実施件数 (単位: 件)													
				16 ～ 18	【総】・リハビリテーション、相談援助・支援を強化し、退院調整を積極的に行う。 【心】・患者の社会復帰に向け、リハビリテーション活動を充実させる。 【子】・言語聴覚業務における学校現場との連携、理学療法における退院後のフォロー、作業療法における急性期作業療法他の充実を図る。	こころ	リハビリテーション活動及び訪問看護を通じて、患者の社会復帰を支援している。また、在宅においてよりの確な支援を行うため、訪問看護の充実を図り、看護師に加えて精神保健福祉士や作業療法士などを含めた複数訪問の積極的な実施に努めている。		B	新型コロナウイルス感染症感染防止のため、病棟外作業療法は参加人数を絞りリモートによって実施している。 また、デイケア活動は昼食を跨がないショートケアのみの実施とし、最大10人までとしていることから、ともに例年と比較して実施件数が減少している。 なお、静岡県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、デイケアについては8月中旬から10月末までショートケアの実施も停止していた。		・平均在院日数を短縮し、社会復帰に向けたリハビリや地域での生活を支援する訪問看護は重要である。 ・リハビリ実施件数は近年減少傾向である。特に精神科作業療法は主に入院患者を対象としたものであるが、入院患者数の減少や重症患者の比率増加により、年々件数が減少してきている。 ・リハビリ実施件数のうち、デイケアの件数については、緊急事態宣言発令期間(8月中旬から10月末)に受入れを一時制限したため、令和2年度より更に減少しているが、動画配信やリモート(Zoom)による集団プログラムなど、感染症拡大防止対策をとりつつ、患者の社会復帰を支援している。 ・リハビリ導入対象者に向けて、デイケアプログラムの必要性やメリットをわかりやすく記載したポスターの掲示やパンフレットのリニューアルなど、新規導入者増加に向けた取組を注視していく。 ・訪問看護実施件数は、令和元年度並みを維持している。うち複数訪問(看護師のほか作業療法士等複数の職種での訪問)は令和元年度と比較して増加しており、診療報酬上の加算による収益の増加にもつながっている。 ・精神疾患患者の社会復帰と在宅医療の支援について、デイケアの新規利用者増加や訪問看護の拡充に向けた取組を注視していく。	15	△	B	在宅医療は患者の早期退院と社会復帰につながる支援であることから、当院としても積極的に取り組んでいるところであるが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、院内の感染防止を優先したこともあって、デイケアなどの在宅医療に係るリハビリテーション活動が思うように進めていない。 その一方で、活動再開後にスムーズに患者が参加できるよう、動画配信やリモートによる集団プログラムの実施などの工夫により、患者との繋がり維持に努めてきた。 訪問看護活動については、件数の推移は概ね横ばいとなっているが、必要に応じてPSWや作業療法士など複数の職種が関与することで、入院初期の段階から退院後の訪問看護を見据えた多職種連携を行うよう努めており、患者の社会復帰の促進に努めている。 今後も、それぞれの活動についてパンフレットやポスター掲示などにより、より積極的に患者への周知を行うとともに、地域と連携した在宅支援を進めていく。				
							訪問看護実施件数 (単位: 件)													
							リハ実施実績 (単位: 件)													
	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。	オ 遺伝子解析・診断を活用した疾患の予防、治療及び相談支援に取り組む。		19	・遺伝子診療に関して、体制の整備・充実を図る。	総合	遺伝診療科受診者数 (単位: 人)		S	臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置したゲノム医療センターでは、令和3年度には臨床遺伝専門医を1名増員するなど体制を強化し、がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っている。 遺伝診療に関する診療は増加傾向にあり、令和3年度の実診患者数は、令和2年度実績を上回る見込みである。また、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数は大幅に増加する見込みで、特に静岡がんセンターの連携病院(中部地区で唯一の施設)として令和2年度から実施しているエキスパートパネルの件数は、倍増する見込みである。		・平成27年度の遺伝診療科開設以降、平成30年3月のがんゲノム医療連携拠点病院指定、令和元年9月のゲノム医療センター新設等の体制強化に加え、令和元年6月からのがん遺伝子パネル検査の保険適用開始も影響し、遺伝診療科受診者数は年々増加している。 ・エキスパートパネルとは、がん遺伝子パネル検査の結果を医学的に解釈するための多職種による検討会のことであり、総合病院においては、がんゲノム医療連携病院として、令和2年度から静岡がんセンターと連携してエキスパートパネルを開始している。 ・ゲノム医療センターにおいて、令和3年度は臨床遺伝専門医を1名増員し更なる体制強化を図っている。遺伝診療科受診者数は、令和2年度上半期実績83人に対して、令和3年度上半期実績は136人と増加傾向であり、エキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数が大幅に増加するなど、遺伝子解析・診断を活用した相談支援の充実による効果が顕著に現れている。	16	☆	A	令和元年9月にゲノム医療センターを新設し、臨床遺伝専門医や認定遺伝カウンセラーを始めとする遺伝分野の専門スタッフを配置した。がんゲノム関連検査、遺伝性腫瘍症候群、遺伝性疾患等の診療を行っており、受診者数は着実に増加している。 このため、令和2年度に認定遺伝カウンセリングを1名増員し計2名としたほか、令和3年度に臨床遺伝専門医を1名増員し計5名とするなど体制の強化を図っている。今後はがんゲノム医療拠点病院の指定を目指し、がんゲノム医療提供体制の更なる強化を進める。 今後も、受診者数の増加に伴い、静岡がんセンターの連携病院(中部地区で唯一の施設)としてエキスパートパネルや遺伝カウンセリングの件数は増加する見込みである。				
							【参考】エキスパートパネル実施件数 (単位: 人)													
							【参考】遺伝カウンセリング件数 (単位: 人)													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重 点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)
						説明					説明		
	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	カ 認知症については、鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、専門医療相談等の実施に取り組む。発達障害については、早期療育につながる鑑別診断や治療を実施する。また、地域の保健福祉関係者への助言等の医学的支援や、医療従事者や教育関係者に対する研修の実施に取り組む。	20 ～ 22	【総】・こころの医療センター、こども病院と連携し、精神科病棟設置に向けた検討・準備を進める。 ・鑑別診断や周辺症状と身体合併に対する急性期治療、認知症ケアチームの介入、専門医療相談等を推進する。 ・精神科リエゾンチームの運営を開始し、精神科外来の業務を確立する。 【心】・症状が重篤な認知症患者を受入れるための、精神科救急・急性期医療体制を確保する。 【心】・老年期特有の専門外来(老年期こころと物忘れ外来)により専門的な医療相談を実施する。 【子】・発達障害については、従来からの新生児退院診察や、新生児包括外来における低体重児の発達フォローを継続し、保護者向けのペアレントトレーニングについても継続して取り組む。	総合 								

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点	数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)			
										説明													
		キ	移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	キ	移行期医療支援センターの運用などによる移行期医療や医療的ケア児への対応など新たな課題については、県と連携して取り組む。	23	各病院		移行期医療件数 (単位：件)		S		新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定されるなど、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行ってきた。 令和3年8月、緊急事態宣言の発令を受け、総合病院では10月に感染症対応病棟を20床増床(27床→47床)するなど、各病院において最大限の対応を行った。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を検討している。これにより、患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和2年2月に開設した成人先天性心疾患科では、こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っている。 令和3年度の受診者数は、令和2年度実績を大きく上回る見込みである。 (こころ) こども病院との合同カンファレンスについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、病院の感染対策を優先していることもあって、令和2年度に引き続き実施されておらず、現状では開催の見込みが立っていない。 一方で今年度から開催された、県の「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」に参加しており、県の方針を踏まえた上で今後の県立3病院における精神科医療のあり方を検討し、医療提供体制の整備に取り組んで行く。 (こども) 移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を受託している。県と連携して移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受けた。今年度中に、短期入所者の受入れ開始を予定しており、今後も、受入れ体制の整備を図っていく。 加えて、引続き関係福祉機関、教育機関等における講習や会議への医師や看護師の出席等を行っていく。		・医療の発達により、小児期の慢性疾患による死亡率が減少する一方で、原疾患治療や合併症への対応が長期化し思春期・成人期を迎える患者が増えているが、小児期と成人期の診療科・医療機関の連携は十分ではない。 ・このため、国は、移行期医療に対応可能な医療機関情報を把握・公表し、小児期と成人期の医療機関等の連絡調整・連携支援、患者の自律支援等を担う総合的なセンター機能を、各都道府県に1箇所以上設置することを求めている。 ・移行期医療は、小児診療科から成人診療科に完全に移行する疾病、両方でケアが必要な疾病と、疾病の種類や状況に応じて、求められる診療体制が異なる点が特徴である。 ・また、成人期医療においては小児慢性特定疾病への対応や患者の就学・就労支援等に課題が、小児診療科においては生活習慣病等への対応等に課題がある。 ・こども病院は県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、令和2年9月に開所した静岡県移行期医療支援センターにおいて、移行期医療に関する医療機関への現状調査、移行期支援外来の設置に向けた準備、移行患者についてのデータベース作成などに取り組んでいる。 ・今後、県からの委託において、移行期医療推進協議会の運営や、移行期医療の実態調査や診療領域ごとの患者移行方針の具体的な構築、相談支援体制の構築など、患者の成人期医療への移行や自立支援の推進において、中心的な役割を担っていくことが期待される。 ・また、総合病院、こども病院において移行期医療関連部署を令和2年度に設置したことで成人期医療への移行が促進されており、令和3年度の移行期医療件数は大幅に増加する見込みである。 ・先天性心疾患や発達障害、摂食障害等への対応等において、各病院が相互に連携を図りながら、従来の組織や診療体制の枠組にとらわれず、小児から成人まで継続した治療体制を確保することが期待される。		15	☆	S	新型コロナウイルス感染症への対応については、総合病院及びこども病院が県から重点医療機関に指定される(令和2年8月)など、各病院において患者受入体制を整備し、県と調整のうえ患者の受入を行っている。 移行期医療への対応については、機構内における医療情報システム(電子カルテシステム)の統合を検討している。これにより、患者情報の病院間の相互参照が可能となり、医療サービスの向上が期待される。 (総合) 令和2年2月、成人先天性心疾患科を開設した。こども病院循環器科との連携により、先天性心疾患や遺伝性心疾患を持つ患者を対象に診察を行っており、受診者数は着実に増加している。 (こころ) 小児から成人への移行期医療の連携強化を図るため、月2回ほどのペースでこども病院の精神科医師との合同カンファレンス症例検討を行ってきたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、病院の感染防止を優先させたこともあって、令和2年度以降、開催が見送られている。 感染が落ち着いた段階で開催を再開し、機構内における連携強化に努めていく。 また、県の「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」による県の方針を踏まえ、今後の県立3病院における精神科医療のあり方を検討し、医療提供体制の整備に取り組む。 (こども) 移行期医療に関する部署を組織化し、また、県からも移行期医療支援センター運営事業を受託している。県と連携して移行期医療支援体制の拡充に取り組んでいる。 在宅移行の推進や在宅移行後の医療的ケア児への対応について、令和2年度に指定障害福祉サービスによる、短期入所事業者の指定を受けた。令和3年度中に、短期入所者の受入れ開始を予定しており、今後も、受入れ体制の整備を図っていく。加えて、引続き関係福祉機関、教育機関等における講習や会議への医師や看護師の出席等を行っていく。		・こども病院は、県から移行期医療支援センター運営事業を受託し、令和2年9月に開所した静岡県移行期医療支援センターにおいて、移行医療に関する医療機関への現状調査、移行期支援外来の設置に向けた準備、移行患者についてのデータベース作成などに取り組んでいる。 ・今後、県からの委託において、移行期医療推進協議会の運営や、移行期医療の実態調査や診療領域ごとの患者移行方針の具体的な構築、相談支援体制の構築など、患者の成人期医療への移行や自立支援の推進において、中心的な役割を担っていくことが期待される。 ・また、総合病院、こども病院において、移行期医療関連部署を令和2年度に設置したことで医療移行が促進され、移行期医療件数は大幅な増加傾向である。 ・こころの医療センターとこども病院の連携としては、各病院の精神科医の合同カンファレンスにおいて症例検討を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催が見送られている。 ・先天性心疾患や発達障害、摂食障害等への対応等において、各病院が相互に連携を図りながら、従来の組織や診療体制の枠組にとらわれず、小児から成人まで継続した治療体制を確保することが期待される。	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																														
						説明					説明																																																																																																															
	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療の提供に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	ク 高度・専門・特殊医療を県民に提供する第一級の病院であり続けるために、ハイブリッド手術室の活用、ロボット支援手術・放射線治療等の拡充など、高度な治療への対応の強化や適切な治療に取り組む。また、医療を取り巻く環境変化に応じて、先進的な施設や設備等の充実に努める。	24	各病院・本部（経営）	・中期計画に記載した施設及び機器等の整備を計画的に実施する。 こころの医療センターにサーバー棟を建設し、3病院統合した医療情報システムを導入する予定。 こども病院では、令和2年度に本館リニューアル工事が行われ、薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上と劣化改修工事を行い、ランドリー移転により患者アメニティ(コンビニエンスストア)を整備した。 施設及び機器等の整備状況 (単位：百万円) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">施設整備</th></tr><tr><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度 (実績)</th><th>2年度 (実績)</th><th>3年度 (見込)</th><th>4年度 (見込)</th><th>5年度 (見込)</th><th>第3期累計 (見込)</th></tr><tr><td>総合</td><td>16,132</td><td>1,091</td><td>1,472</td><td>1,959</td><td>1,714</td><td>1,063</td><td>7,300</td></tr><tr><td>こころ</td><td>992</td><td>139</td><td>246</td><td>405</td><td>296</td><td>671</td><td>1,758</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,764</td><td>148</td><td>829</td><td>271</td><td>988</td><td>794</td><td>3,030</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>78</td><td>345</td><td>3,685</td><td>0</td><td>4,109</td></tr><tr><td>合計</td><td>18,887</td><td>1,379</td><td>2,626</td><td>2,980</td><td>6,683</td><td>2,528</td><td>16,196</td></tr></table> <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="7">器械備品等</th></tr><tr><th>第2期累計 (実績)</th><th>元年度 (実績)</th><th>2年度 (実績)</th><th>3年度 (見込)</th><th>4年度 (見込)</th><th>5年度 (見込)</th><th>第3期累計 (見込)</th></tr><tr><td>総合</td><td>6,788</td><td>706</td><td>894</td><td>1,117</td><td>1,391</td><td>1,175</td><td>5,283</td></tr><tr><td>こころ</td><td>169</td><td>31</td><td>31</td><td>10</td><td>83</td><td>52</td><td>207</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,834</td><td>308</td><td>747</td><td>604</td><td>881</td><td>451</td><td>2,992</td></tr><tr><td>本部</td><td>0</td><td>0</td><td>44</td><td>0</td><td>1,282</td><td>0</td><td>1,326</td></tr><tr><td>合計</td><td>8,791</td><td>1,045</td><td>1,716</td><td>1,731</td><td>3,637</td><td>1,678</td><td>9,808</td></tr></table> 総合病院では、北館1階へ移設した高度救命救急センターの跡地(循環器病センター1階)に中央処置室をリニューアル整備し、令和3年7月から運用を開始した。また、老朽化していた外来及び病棟トイレの男女及び汚物処理室の区分けや洋式化等への改修を行った。 こころの医療センターでは、3病院の医療情報システム用のサーバーを配置する(仮称)サーバー棟の新築工事を令和2年度から令和3年度にかけて実施し、7月に完成した。今後、今年度中に厨房設備等の改修工事設計を行う予定である。器械備品の購入としては、北2病棟の監視カメラを更新し、病棟の運営の効率化を図っている。 こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事の実施設計を行い、令和3年7月に工事が完了した。 なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。今後も計画的な整備の実施に努める。	区 分	施設整備							第2期累計 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (見込)	4年度 (見込)	5年度 (見込)	第3期累計 (見込)	総合	16,132	1,091	1,472	1,959	1,714	1,063	7,300	こころ	992	139	246	405	296	671	1,758	こども	1,764	148	829	271	988	794	3,030	本部	0	0	78	345	3,685	0	4,109	合計	18,887	1,379	2,626	2,980	6,683	2,528	16,196	区 分	器械備品等							第2期累計 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (見込)	4年度 (見込)	5年度 (見込)	第3期累計 (見込)	総合	6,788	706	894	1,117	1,391	1,175	5,283	こころ	169	31	31	10	83	52	207	こども	1,834	308	747	604	881	451	2,992	本部	0	0	44	0	1,282	0	1,326	合計	8,791	1,045	1,716	1,731	3,637	1,678	9,808	令和3年度の減価償却費は36億円程度(令2:39億円)を見込んでいるが、令和4年度以降は再び増加傾向となる見込みであり、経営状況を見ながら適切に投資判断を行っていく。 また、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため、3病院の医療情報システムを統合し、医療情報の共有化を進めており、令和3年7月には、こころの医療センターにサーバー棟が完成した。 なお、今後予定している医療情報システム構築の財源には目的積立金を充当することとしている。 総合病院では、北館1階へ移設した高度救命救急センターの跡地(循環器病センター1階)に中央処置室をリニューアル整備し、令和3年7月から運用を開始した。また、老朽化していた外来及び病棟トイレの男女及び汚物処理室の区分けや洋式化等への改修を行った。 こころの医療センターでは、3病院の医療情報システム用のサーバーを配置する(仮称)サーバー棟の新築工事を令和2年度から令和3年度にかけて実施し、7月に完成した。今後、今年度中に厨房設備等の改修工事設計を行う予定である。器械備品の購入としては、北2病棟の監視カメラを更新し、病棟の運営の効率化を図っている。 こども病院では、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事の実施設計を行い、令和3年7月に工事が完了した。 また、工事については、本館リニューアル工事(薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上・劣化改修)に令和元年6月に着手し、令和3年3月に完了した。 また、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事の実施設計を行い、令和3年7月に工事が完了した。 なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。中期目標の達成に向けて影響は軽微であり、今後も計画的な整備の実施に努める。	・中期計画策定時の施設整備計画について、状況変化に柔軟に対応しながら、施設・設備整備を実施している。 ・第3期においては、総合病院における既存棟の耐震化を含む改築工事やこどもの本館老朽化に伴う改築工事等の大型投資が実施されており、期間中合計で約260億円の事業計画がある。 ・令和3年度においては、約47億円の施設及び機器等の整備を実施予定であり、高度な治療への対応強化や療養環境の向上に取り組んでいる。 ・主な事業として、総合病院においては、中央処置室のリニューアルにより診療機能の強化を図っている。 ・また、医療情報の共有化による、質の高い医療の提供と効率的な病院運営のため、3病院共通のサーバー棟を建設した。 ・こども病院においては、北5病棟のクリーン度アップ及び学習スペースの整備などにより、小児がん患者の療養環境の向上を図っている。 ・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。 ・減価償却費は、第3期期間中合計で約196億円が見込まれており、第2期合計の約165億円と比較すると大幅な増加となる。 ・減価償却費の増加は、手術件数増加や重症系病棟の稼働率の向上、在院日数の短縮等による医業収益の増加でカバーしていく予定であるが、今後、多額の設備投資による減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していくことが求められる。	17	○	S	第3期中期目標期間中の減価償却費については、令和2年度39億円に対し、令和3年度の減価償却費は36億円程度を見込んでいる。今後(令和4年度以降)は再び増加傾向となる見込みである。投資判断については、経営状況を見ながら適切に実施していく。 令和2年度には、当初想定されていたなかった新型コロナウイルス感染症への対応が必要となったが、感染症に係る補助金等を適切に活用し人工呼吸器、PCR検査装置等を購入するなど、体制を整えた。 令和3年については、質の高い医療の提供と効率的な病院運営を目指すため3病院の医療情報システムの統合をはじめとした医療情報の共有化を進めており、7月にはこころの医療センターにサーバー棟が完成した。 なお、医療情報システム構築の財源には目的積立金を充当することとしている。 総合病院では、第3期中期計画期間中に、本館耐震補強工事を含む病棟等の改修工事を実施した。診療機能の向上及び病院利用者の快適性、利便性の向上を図るため、産婦人科病棟、無菌病棟、外来化学療法センター、高度救命救急センター等を一時的にリニューアル整備した。 こころの医療センターでは、第3期中期計画期間中に、設備改修工事として老朽化したエレベーターの更新や管理棟のトイレ改修を実施し、令和3年度からは厨房の改修に着手する予定である。また、3病院の医療情報システムを統合するためのサーバー棟新築工事を実施し、令和3年7月に完成した。 こども病院では、今後の建替計画等をまとめたマスタープランを令和2年12月に作成した。 また、工事については、本館リニューアル工事(薬剤部門、放射線部門、検査部門の機能向上・劣化改修)に令和元年6月に着手し、令和3年3月に完了した。 また、北5病棟改修(小児がん患者治療環境の向上)工事の実施設計を行い、令和3年7月に工事が完了した。 なお、一部施設整備が中期計画より遅れているものの、診療の継続に影響は与えていない。中期目標の達成に向けて影響は軽微であり、今後も計画的な整備の実施に努める。	・中期計画策定時の施設整備計画について、状況変化に柔軟に対応しながら、施設・設備整備を実施している。 ・第3期においては、総合病院における既存棟の耐震化を含む改築工事やこどもの本館老朽化に伴う改築工事等の大型投資が実施されており、期間中合計で約260億円の事業計画がある。 ・主な事業として、総合病院における無菌病棟や外来化学療法センターの整備、3病院共通のサーバー棟建設、こども病院における小児がん患者病棟のクリーン度アップなどを行っている。 ・また、令和2年度には、新型コロナウイルス感染症への対応のため、人工呼吸器等の機器購入や帰国者・接触者外来設置等の体制整備を行っており、県内の医療提供体制の確保に貢献している。 ・医療機器の購入においては、機器購入委員会を開き、優先順位の高い機器から購入を行うなど、適切な管理がされている。 ・減価償却費は、第3期期間中合計で約196億円が見込まれており、第2期合計の約165億円と比較すると大幅な増加となる。 ・減価償却費の増加は、手術件数増加や重症系病棟の稼働率の向上、在院日数の短縮等による医業収益の増加でカバーしていく予定であるが、今後、多額の設備投資による減価償却費等の増加が経営状況に及ぼす影響を注視していくことが求められる。
区 分	施設整備																																																																																																																									
	第2期累計 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (見込)	4年度 (見込)	5年度 (見込)	第3期累計 (見込)																																																																																																																			
総合	16,132	1,091	1,472	1,959	1,714	1,063	7,300																																																																																																																			
こころ	992	139	246	405	296	671	1,758																																																																																																																			
こども	1,764	148	829	271	988	794	3,030																																																																																																																			
本部	0	0	78	345	3,685	0	4,109																																																																																																																			
合計	18,887	1,379	2,626	2,980	6,683	2,528	16,196																																																																																																																			
区 分	器械備品等																																																																																																																									
	第2期累計 (実績)	元年度 (実績)	2年度 (実績)	3年度 (見込)	4年度 (見込)	5年度 (見込)	第3期累計 (見込)																																																																																																																			
総合	6,788	706	894	1,117	1,391	1,175	5,283																																																																																																																			
こころ	169	31	31	10	83	52	207																																																																																																																			
こども	1,834	308	747	604	881	451	2,992																																																																																																																			
本部	0	0	44	0	1,282	0	1,326																																																																																																																			
合計	8,791	1,045	1,716	1,731	3,637	1,678	9,808																																																																																																																			

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																									
						説明					説明																																											
	ケ 各県立病院は、質の高い医療を継続的に提供するため、次のとおり重点的に取り組む。	ケ 各県立病院は医療の提供に当たり、次のとおり重点的に取り組む。	—	—	—	—	—				—	—																																										
	県立総合病院	(77) 県立総合病院診療事業 県内医療機関の中核的病院として、各疾患に対する総合的な医療をはじめ、3大疾患(心疾患、脳血管疾患、がん)に対する高度・専門医療や救急・急性期医療等を提供する。 各診療事業を推進するため、医師・看護師確保に取り組む。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 712床 一般病床 662床 結核病床 50床 外来患者460,763人 入院患者226,231人	25	総合	入院・外来患者数 (単位：人) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th><th>5目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>入院患者数</td><td>223,709</td><td>232,585</td><td>233,305</td><td>225,595</td><td>203,298</td><td>101,693</td><td>226,231</td><td>202,830</td><td>238,000</td><td>224,978</td></tr><tr><td>うち結核病棟</td><td>6,358</td><td>6,580</td><td>6,406</td><td>4,967</td><td>5,223</td><td>2,755</td><td>—</td><td>5,495</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td>外来患者数</td><td>432,762</td><td>430,118</td><td>436,699</td><td>448,945</td><td>425,092</td><td>224,059</td><td>460,763</td><td>446,894</td><td>431,000</td><td>454,534</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	5目標	5年度見込	入院患者数	223,709	232,585	233,305	225,595	203,298	101,693	226,231	202,830	238,000	224,978	うち結核病棟	6,358	6,580	6,406	4,967	5,223	2,755	—	5,495	—	—	外来患者数	432,762	430,118	436,699	448,945	425,092	224,059	460,763	446,894	431,000	454,534	B	入院患者数については、平均在院日数短縮への取組等により、令和3年度は目標値を下回る見込みである。 一方、外来患者数については、令和3年度は目標値及び新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度実績まで回復する見込みである。	3 1 ○ B	新型コロナウイルス専用病床の確保等により、入院患者数は令和2年度と同程度の見込みであり、目標値を下回る見込みである。 一方で、外来患者数については、令和元年度並みの水準に回復しつつある。 新規患者獲得に向けて地域の医療機関等との連携を強化することにより、患者数の増加と病床稼働率の向上に取り組んでおり、今後も注視していく。	紹介患者数の減少や新型コロナウイルス専用病床の確保等により、特に令和2年度に入院患者数及び外来患者数が減少した。 入院患者数は令和元年度を除いて目標値を下回る見込みであり、外来患者数は期間中の各年度とも目標値を下回る見込みである。 一方で、外来患者数については新型コロナウイルス感染症感染拡大前の水準に回復しつつある。 新規患者獲得に向けて地域の医療機関等との連携を強化することにより、患者数の増加と病床稼働率の向上に取り組んでおり、今後も注視していく。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	5目標	5年度見込																																												
入院患者数	223,709	232,585	233,305	225,595	203,298	101,693	226,231	202,830	238,000	224,978																																												
うち結核病棟	6,358	6,580	6,406	4,967	5,223	2,755	—	5,495	—	—																																												
外来患者数	432,762	430,118	436,699	448,945	425,092	224,059	460,763	446,894	431,000	454,534																																												
	・急性心筋梗塞、脳卒中等の循環器疾患において、常時高度な専門的治療を提供する。加えて、生活習慣病としての危険因子を管理するため、地域の医療機関との連携を強化する。	○循環器疾患患者に対して循環器病センター機能を生かした常時高度な専門的治療を提供する体制の充実 ①重症心不全疾患の患者に対して冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)機能を最大限に生かした高度な専門的治療の提供 ②急性心筋梗塞、脳卒中発症患者に対応する常時救急受入体制の強化 ③循環器関連診療科の有機的な連携によるチーム医療の推進 ④ハイブリッド手術室の使用による経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)、ステントグラフト内挿術、経皮的僧帽弁接合不全修復術(Mitra Clip)等の低侵襲で高度な手術の実施	26	総合	①冠状動脈疾患集中治療室(CCU/ICU)を中心に常時対応できる体制を構築し、高度専門診療を提供する。 CCU/ICU稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>稼働率(％)</td><td>100</td><td>113.1</td><td>119.1</td><td>100.3</td><td>88.6</td><td>83.6</td><td>83.6</td></tr><tr><td>入室患者数(人)</td><td>722</td><td>780</td><td>771</td><td>866</td><td>802</td><td>419</td><td>836</td></tr><tr><td>1日平均(人)</td><td>11.5</td><td>13.6</td><td>14.3</td><td>14.0</td><td>12.4</td><td>11.7</td><td>11.7</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	稼働率(％)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	83.6	83.6	入室患者数(人)	722	780	771	866	802	419	836	1日平均(人)	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	11.7	11.7	A	ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、令和3年8月の緊急事態宣言発令に伴い、一時的に稼働の制限を行ったことから、令和2年度の実績を下回る見込みである。 今後も、新型コロナウイルス感染症の状況を見極めつつ、稼働率の向上及び特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。	3 ○ A	循環器病センターのCCUは24時間体制で運用され、心臓血管外科や脳神経外科等における侵襲性が高い手術実施にかかる周術期管理を要する患者の増加等により、高い稼働率で治療が行われている。 令和3年度は、緊急事態宣言時に新型コロナウイルス感染症専門病棟の診療体制を強化するため、一時的に稼働病床を減らした経緯があり、稼働率は感染拡大前の水準には回復していない。 新型コロナウイルス感染症による影響はやむを得ないものであり、今後も引き続き感染防止対策を踏まえつつ適切に患者に対応していくとともに、安定的な運用のための医師確保に努めていくことが期待される。	ICU/CCUの稼働率及び1日平均入室患者数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度及び令和3年度実績は落ち込んでいるが、ハイブリッド手術室の稼働は高い水準で推移するなど、重症患者の手術件数は堅調であることから、重症系病棟の需要は継続すると考えられる。 今後も、稼働率の向上に加え、特定集中治療室管理料の算定率向上に努める。	平成30年度に2床増床し入室患者数は増加傾向にあるが、令和2、3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、稼働率が落ち込んでいる。 手術件数全体も同様にやや落ち込んでいるが、うち重症患者の手術件数は堅調に推移しており、重症系病棟のニーズは継続すると見込まれることから、今後も引き続き、常時安定的に運用できる体制に向けて医師確保に努めていくことが期待される。											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																															
稼働率(％)	100	113.1	119.1	100.3	88.6	83.6	83.6																																															
入室患者数(人)	722	780	771	866	802	419	836																																															
1日平均(人)	11.5	13.6	14.3	14.0	12.4	11.7	11.7																																															
			27	総合	②脳卒中発症患者に対する急性期医療の提供体制を整備するとともに、在宅医療への情報提供等、在宅復帰に向けた取り組みを推進する。 脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>52</td><td>42</td><td>62</td><td>83</td><td>102</td><td>39</td><td>82</td></tr></table> 超急性期脳卒中加算 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>15</td><td>27</td><td>16</td><td>35</td><td>28</td><td>12</td><td>24</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	算定件数	52	42	62	83	102	39	82	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	算定件数	15	27	16	35	28	12	24	A	脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数について、令和3年度は令和2年度実績をやや下回る見込みである。 引き続き、地域の医療機関等との連携により、パスの適用を推進し、円滑な運用に努める。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。		循環器病センターの5階病棟を脳卒中専門病棟とし、脳血管疾患専門の医療スタッフを配置し、急性期からの集中的な治療・看護等を実施しており、超急性期脳卒中加算は令和2年度と同程度の見込みである。 脳卒中患者の逆紹介が推進されたことにより、脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数は増加傾向にあり、在宅復帰に向けた取組が実施されている。 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得した看護師がチーム医療に専従する体制が取られている。	地域の医療機関等との連携により、脳卒中地域連携クリニカルパスの適用を推進し、円滑な運用に努めており、パス適用数80件以上を維持している。 また、今後も、MRI、CT、血管造影の3種類のハイブリッド手術室を最大限に活用し、脳卒中発症患者に対して高度な専門的治療を提供する。	循環器病センターに、脳血管疾患専門の医療スタッフを配置し、急性期からの集中的な治療・看護等を実施している。 脳卒中患者の逆紹介が推進されたことにより、脳卒中地域連携クリニカルパス適用患者数は増加傾向にあり、在宅復帰に向けた取組が実施されている。 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師の資格を取得した看護師がチーム医療に専従する体制が取られている。											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																															
算定件数	52	42	62	83	102	39	82																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																															
算定件数	15	27	16	35	28	12	24																																															
			28	総合	③生活習慣病を心血管疾患の発症危険因子としてとらえ、循環器内科、神経内科、腎臓内科、心臓血管外科等が有機的に連携して、チーム医療の推進を図る。 糖尿病透析予防指導管理料 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>算定件数</td><td>132</td><td>75</td><td>145</td><td>285</td><td>123</td><td>40</td><td>80</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	算定件数	132	75	145	285	123	40	80	A	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。 令和3年度は令和2年度実績を下回る見込みである。なお、腎代替療法指導管理料の対象患者の重複により、令和2年度実績を下回る見込みである。 令和2年度は令和2年度実績を上回る見込みである。		糖尿病透析予防指導においては、糖尿病・内分泌内科に加え、専門外来である「そらまめ外来」を開設し活動している。 糖尿病透析予防指導の資格を有する看護師の外来配置人数増加により体制を強化しているが、令和3年度は新型コロナウイルスの影響や診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との算定患者の重複により、算定件数が減少する見込みである。 令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との算定患者の重複により、算定件数が減少する見込みである。 令和2年度は令和2年度実績を上回る見込みであるが、合算件数でみると堅調に推移しており、適切な指導に努めている。	糖尿病透析予防指導管理料は糖尿病・内分泌内科外来、そらまめ外来、透析室における指導により算定する。 令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との算定患者の重複により、算定件数が減少する見込みである。 令和2年度以降は新型コロナウイルスの影響や診療報酬改定で新設された腎代替療法指導管理料との算定患者の重複により、減少する見込みであるが、合算件数でみると堅調に推移しており、適切な指導に努めている。																												
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																															
算定件数	132	75	145	285	123	40	80																																															

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																						
											説明						説明																																																																																																																																								
						29	④ハイブリッド手術室を運用する体制を整備し、高度専門医療を提供する。	総合	ハイブリット手術室稼働状況(単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>ハイブリット手術室使用件数</td><td>163</td><td>479</td><td>706</td><td>486</td><td>484</td><td>230</td><td>200以上</td><td>459</td></tr><tr><td>TAVI実施件数 ※上記の内数</td><td>28</td><td>67</td><td>74</td><td>67</td><td>65</td><td>45</td><td>－</td><td>90</td></tr><tr><td>ステントグラフト挿入術 ※上記の内数</td><td>107</td><td>91</td><td>91</td><td>125</td><td>76</td><td>45</td><td>－</td><td>88</td></tr><tr><td>Mitra Clip件数 ※上記の内数</td><td>－</td><td>－</td><td>12</td><td>24</td><td>14</td><td>9</td><td>－</td><td>18</td></tr></table> 参考(単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>PCI</td><td>517</td><td>447</td><td>450</td><td>368</td><td>363</td><td>174</td><td>347</td></tr><tr><td>アブレーション</td><td>229</td><td>256</td><td>253</td><td>284</td><td>267</td><td>144</td><td>287</td></tr></table> A	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	ハイブリット手術室使用件数	163	479	706	486	484	230	200以上	459	TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	45	－	90	ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	107	91	91	125	76	45	－	88	Mitra Clip件数 ※上記の内数	－	－	12	24	14	9	－	18	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	PCI	517	447	450	368	363	174	347	アブレーション	229	256	253	284	267	144	287	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。 令和3年度の稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は令和2年度実績を上回る見込みである。	3	1	○	A	MRIハイブリッド手術室は、手術室にMRI検査室を併設しており、主に脳神経外科の脳腫瘍切除術に使用される。CTハイブリッド手術室は、手術室にCT検査装置を併設しており、主に脳神経外科の脳血管障害や脳腫瘍の手術に使用される。血管造影ハイブリッド手術室は、手術室にX線血管撮影装置を併設しており、主に心臓血管外科、循環器内科のTAVI、ステントグラフト内挿術、MitraClip等の手術に使用される。 ハイブリッド手術室の稼働状況は、毎年下半期における循環器疾患及び脳疾患症例数の増加に比例して稼働率が上昇する傾向である。 稼働状況については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、TAVI、ステントグラフト挿入術、MitraClipの実施件数は着実に増加している。					・先端医学棟内に、MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室が整備されており、特徴に応じた施術内容に活用されている。 ・TAVI(経カテーテル大動脈弁留置術)は大動脈弁狭窄症に対して、カテーテルにより人口弁を心臓に装着する治療、MitraClip(経皮的僧帽弁クリップ術)は僧帽弁閉鎖不全に対して、カテーテルにより僧帽弁逆流を制御する治療、PCI(経皮的冠動脈形成術)は、動脈硬化等による冠動脈の狭窄等に対して、カテーテル治療を行うものである。 ・ハイブリッド手術室使用件数については、令和元年度より、検査のみの使用を除いた件数に算定方法を変更しており、令和3年度は上半期時点で目標値を上回っている。 ・いずれも開胸外科手術よりも低侵襲で、手術の危険性が高い患者に対しても治療が可能であり、高度な施設基準等が要求される中、心臓血管外科や循環器内科の連携のもと順調に実績を伸ばしており、高度・専門医療の提供による県の医療水準の向上に貢献し、県立病院としての使命を果たしている。																																																																
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込																																																																																																																																																	
ハイブリット手術室使用件数	163	479	706	486	484	230	200以上	459																																																																																																																																																	
TAVI実施件数 ※上記の内数	28	67	74	67	65	45	－	90																																																																																																																																																	
ステントグラフト挿入術 ※上記の内数	107	91	91	125	76	45	－	88																																																																																																																																																	
Mitra Clip件数 ※上記の内数	－	－	12	24	14	9	－	18																																																																																																																																																	
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																																		
PCI	517	447	450	368	363	174	347																																																																																																																																																		
アブレーション	229	256	253	284	267	144	287																																																																																																																																																		
	・がん患者に対し、地域がん診療連携拠点病院として、最新・最良の診断、ロボット支援手術などの先進的手術及び化学療法、放射線治療を組み合わせた高度な集学的治療や予防医療を提供する体制を整備し、地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療を提供していく。	○がん疾患患者に対して地域がん診療連携拠点病院としての高度な集学的治療を提供する体制の充実及び地域の医療機関等と連携した緩和ケアや終末期医療の提供 ①先端医学棟の設備・機能を最大限に活用し、手術、放射線治療、化学療法に係るがん診療体制の充実 ②地域の医療機関等との連携による緩和ケアや終末期ケアの推進 ③がん相談及び情報提供機能の強化 ④ロボット支援手術の活用	30	①がん患者が速やかに検査や治療を受けられる体制を構築し、手術件数の増加に努める。	総合	がん手術件数(単位: 件、%) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>胃がん</td><td>136</td><td>163</td><td>340</td><td>366</td><td>351</td><td>165</td><td>330</td></tr><tr><td>大腸がん</td><td>264</td><td>287</td><td>687</td><td>696</td><td>759</td><td>373</td><td>744</td></tr><tr><td>肝がん</td><td>135</td><td>115</td><td>366</td><td>260</td><td>328</td><td>157</td><td>313</td></tr><tr><td>肺がん</td><td>156</td><td>149</td><td>134</td><td>194</td><td>213</td><td>118</td><td>235</td></tr><tr><td>乳がん</td><td>343</td><td>352</td><td>449</td><td>511</td><td>440</td><td>211</td><td>421</td></tr><tr><td>その他</td><td>1,131</td><td>1,210</td><td>1,241</td><td>1,549</td><td>1,355</td><td>695</td><td>1,386</td></tr><tr><td>がん手術合計</td><td>2,135</td><td>2,235</td><td>3,217</td><td>3,576</td><td>3,446</td><td>1,719</td><td>3,429</td></tr><tr><td>手術全体</td><td>7,764</td><td>8,406</td><td>8,651</td><td>9,225</td><td>8,513</td><td>4,667</td><td>9,308</td></tr><tr><td>がん手術割合</td><td>27.5</td><td>26.6</td><td>37.2</td><td>38.8</td><td>40.5</td><td>36.8</td><td>36.8</td></tr></table> ※年度別各種がん手術は1患者が複数手術をした場合は、それぞれ計上 ※がん手術合計、手術全体は複数手術をした場合は、主たる手術に計上 <table><tr><th rowspan="2">年度</th><th colspan="6">内視鏡検査・処置</th></tr><tr><th>上部消化管検査</th><th>下部消化管検査</th><th>ERCP検査</th><th>気管支鏡検査</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>元年度</td><td>10,489</td><td>2,813</td><td>445</td><td>389</td><td>56</td><td>14,192</td></tr><tr><td>2年度</td><td>9,817</td><td>2,771</td><td>404</td><td>291</td><td>38</td><td>13,321</td></tr><tr><td>3年度(9月末)</td><td>5,208</td><td>1,390</td><td>207</td><td>161</td><td>31</td><td>6,997</td></tr><tr><td>3年度(見込)</td><td>10,388</td><td>2,772</td><td>413</td><td>321</td><td>62</td><td>13,956</td></tr></table> 放射線治療(単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>16,330</td><td>15,795</td><td>15,772</td><td>1,100</td><td>1,104</td><td>572</td><td>800</td><td>1,141</td></tr></table> ※令和元年度より放射線治療管理料算定件数とする。 A	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	胃がん	136	163	340	366	351	165	330	大腸がん	264	287	687	696	759	373	744	肝がん	135	115	366	260	328	157	313	肺がん	156	149	134	194	213	118	235	乳がん	343	352	449	511	440	211	421	その他	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355	695	1,386	がん手術合計	2,135	2,235	3,217	3,576	3,446	1,719	3,429	手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	4,667	9,308	がん手術割合	27.5	26.6	37.2	38.8	40.5	36.8	36.8	年度	内視鏡検査・処置						上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計	元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192	2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321	3年度(9月末)	5,208	1,390	207	161	31	6,997	3年度(見込)	10,388	2,772	413	321	62	13,956	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	572	800	1,141	がん手術件数については、他施設での対応が困難な難治症例の受入も行っており、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和2年度実績を上回る見込みである。 放射線治療件数については、リニアックを3台体制による高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療を実施しており、令和3年度は目標値及び令和2年度実績を上回る見込みである。	4	1	○	A	手術室を拡充しダ・ヴィンチを追加整備した先端医学棟の開棟後、がん手術件数は大幅に増加しており、県内のがん手術症例が、総合病院に集約化している状況にある。 ・先端医学棟におけるリニアック3台体制による高精度な治療の提供により、地域の医療機関からの放射線治療を目的とする紹介患者が増加している。 ・放射線治療件数は、令和2年度の算定件数1,104件に対して、令和3年度は上半期時点で572件と前年度より増加傾向であり、目標値を上回る見込みである。 ・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。	がん手術件数については、地域がん診療連携拠点病院(高度型)として地域におけるがん症例が集約化されている他、他施設での対応が困難な難治症例の受入も行っており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも着実に増加している。 放射線治療件数については、リニアックを3台体制による高度変調放射線治療(IMRT)を始めとする高精度な治療を実施しており、地域の医療機関等からの紹介患者増により、増加傾向である。	・がん手術件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和2、3年度にやや落ち込んだが、全体として増加傾向にあり、県内のがん手術症例が、総合病院に集約化している状況にある。 ・先端医学棟におけるリニアック3台体制による高精度な治療の提供により、地域の医療機関からの放射線治療を目的とする紹介患者が増加しており、放射線治療件数については、期間中の各年度とも目標値を上回る見込みである。 ・引き続き、先端医学棟の設備・機能を最大限に活用した、高度・専門医療の提供が期待される。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																																		
胃がん	136	163	340	366	351	165	330																																																																																																																																																		
大腸がん	264	287	687	696	759	373	744																																																																																																																																																		
肝がん	135	115	366	260	328	157	313																																																																																																																																																		
肺がん	156	149	134	194	213	118	235																																																																																																																																																		
乳がん	343	352	449	511	440	211	421																																																																																																																																																		
その他	1,131	1,210	1,241	1,549	1,355	695	1,386																																																																																																																																																		
がん手術合計	2,135	2,235	3,217	3,576	3,446	1,719	3,429																																																																																																																																																		
手術全体	7,764	8,406	8,651	9,225	8,513	4,667	9,308																																																																																																																																																		
がん手術割合	27.5	26.6	37.2	38.8	40.5	36.8	36.8																																																																																																																																																		
年度	内視鏡検査・処置																																																																																																																																																								
	上部消化管検査	下部消化管検査	ERCP検査	気管支鏡検査	その他	合計																																																																																																																																																			
元年度	10,489	2,813	445	389	56	14,192																																																																																																																																																			
2年度	9,817	2,771	404	291	38	13,321																																																																																																																																																			
3年度(9月末)	5,208	1,390	207	161	31	6,997																																																																																																																																																			
3年度(見込)	10,388	2,772	413	321	62	13,956																																																																																																																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込																																																																																																																																																	
件数	16,330	15,795	15,772	1,100	1,104	572	800	1,141																																																																																																																																																	
			31	①外来化学療法センターの環境整備を行い、化学療法の充実を図る。	総合	外来化学療法加算(単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>11,171</td><td>11,680</td><td>12,159</td><td>12,707</td><td>12,660</td><td>6,416</td><td>12,000以上</td><td>12,800</td></tr></table> A	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	6,416	12,000以上	12,800	外来化学療法については、外来化学療法センターの移転リニューアルや前日採血の運用を導入するなど、患者の療養環境や利便性が大幅に向上している。 令和3年度の外来化学療法加算算定件数は、目標値及び令和2年度実績を上回る見込みである。	4	1	○	S	抗がん剤療法を主とする化学療法は、外科的療法である手術、内科的療法である放射線治療と並ぶ、がん治療の3本柱の1つである。 ・外来化学療法センターにおいて、複数診療科のがん治療認定医・がん化学療法認定看護師1名・がん薬物療法認定薬剤師6名の人的配置のもと、診療報酬上の外来化学療法加算件数は年々増加している。 ・令和2年度に取り組んだ、センターの移転リニューアルによる療養環境向上や前日採血による効率的な運用の開始などの影響が続いており、令和3年度の外来化学療法センターの患者数は、上半期時点で実績6,416件と目標値を上回る見込みで、且つ、前年度並みの高い水準を維持している。 ・日常生活を送りながら治療を行うことができる、外来化学療法センターの充実、患者の生活の質の向上に大きく寄与している。 ・外来化学療法加算算定件数の増加は増収にも寄与しており、がん疾患患者に対する質の高い医療の提供と経営面との両立を図っている。	外来化学療法については、令和2年8月、外来化学療法センターの移転リニューアルにより療養環境を整備し、患者利便性の向上を図った。 また、前日採血を行うことで、当日の化学療法センターの利用時間の短縮を図るなど運用面についても工夫した。 外来化学療法加算算定件数は増加傾向にあり、高い水準を保っている。 今後も外来化学療法の需要増に対して適切に対応していく。	・令和2年度に外来化学療法センターを本館2階へ移転リニューアルし、外来患者の利便性向上を図っている。 ・同時に、希望者に対しては採血を前日に行うことで利用時間の短縮を図る取組を開始しており、約10%の患者が実際に利用するなど、効率的な運用が行われている。 ・新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で外来患者数全体が減少した令和2年度を含め、外来化学療法センターの患者数は、期間中の各年度とも目標値を上回る見込みであり、且つ高い水準を維持している。 ・外来化学療法加算算定件数の増加は増収にも寄与しており、がん疾患患者に対する質の高い医療の提供と経営面との両立を図っている。																																																																																																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込																																																																																																																																																	
件数	11,171	11,680	12,159	12,707	12,660	6,416	12,000以上	12,800																																																																																																																																																	

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重 点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																														
										説明					説明																																
						32	②地域の医療機関等と連携し、緩和ケアや終末期ケアを推進する。	総合	緩和ケアチーム介入症例数(単位: 件) <table><tr><td>区分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>症例数</td><td>372</td><td>389</td><td>418</td><td>527</td><td>482</td><td>298</td><td>596</td></tr></table> 緩和ケア診療加算算定件数(単位: 件) <table><tr><td>区分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>—</td><td>—</td><td>812</td><td>5249</td><td>4,417</td><td>2,802</td><td>5,604</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	症例数	372	389	418	527	482	298	596	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	件数	—	—	812	5249	4,417	2,802	5,604	A	緩和ケアチームは、緩和医療科医師2名、精神科医師2名、がんに関連する専門・認定看護師等で構成され、院内のがん患者に対して適切な緩和医療を提供する他、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んでいる。 緩和ケアチーム介入症例数及び緩和ケア診療加算算定件数は、いずれも令和2年度実績を上回る見込みである。 また、がん患者等の社会復帰を支援するため、院内にハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携による就労支援出張相談窓口を設置し、通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。	・「緩和ケア」は終末期医療のみならず、近年は、がん治療におけるできるだけ早い段階からの必要性が認識されている。 ・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供している。 ・令和3年度は精神科医2人体制において、診療加算算定件数は令和2年度実績4,417件に対して上半期時点で2,802件と引き続き高い実績を維持している。 ・地域がん診療連携拠点病院(高度型)として、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。	S	平成30年7月に新設された地域がん診療連携拠点病院(高度型)の申請に向け、指定要件となる緩和医療に係る体制強化に取り組んだ。 緩和医療科医師1名(平成30年12月)の着任により、平成31年2月に緩和ケア診療加算の施設基準を取得し、緩和ケア診療加算の算定を開始した。さらに、精神科医師1名(平成31年4月)が着任、令和元年9月に緩和ケアセンター(緩和ケアチーム)を新たに組織し、院内における緩和医療の提供体制を充実させるとともに、地域の医療機関等との定期的なカンファレンスを通じて連携強化に取り組んだ。 令和2年3月27日、県内初の地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定された。 令和2年度より、患者の社会復帰を支援するため、中部地区では初めてハローワーク、産業保健総合支援センターとの連携により、院内に就労支援出張相談窓口を設置した。通院中又は入院中の患者に対して専門スタッフによる無料の就労相談を行っている。 緩和ケアチーム介入症例数及び緩和ケア診療加算算定件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、着実に増加している。	・がんに伴う身体や精神の苦痛があっても患者が自分らしく生活できるよう、緩和医療科医と精神科医、専門知識を有する看護師・薬剤師等が連携する緩和ケアチームが、身体面・精神面の症状を軽減するための医療を提供しており、緩和ケア診療加算算定件数は期間を通じて高い実績を維持している。 ・こころの医療センターから総合病院に精神科医を配置し、令和元年9月に緩和ケアセンターを組織するなど、緩和医療の提供体制が強化されたほか、令和2年3月に、地域がん診療連携拠点病院に指定されており、今後も、高度な集学的治療や適切な緩和医療の提供が期待される。 ・また、令和2年度から、ハローワーク静岡等による就労支援出張相談窓口を設置し、無料の就労相談を開始しており、患者の社会復帰支援体制を強化している。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																								
症例数	372	389	418	527	482	298	596																																								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																								
件数	—	—	812	5249	4,417	2,802	5,604																																								
						33	③がん相談支援センターの機能を増強し、がんに関する相談支援、情報の提供に努める。	総合	がん相談件数(単位: 件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>がん相談</td><td>4,587</td><td>5,896</td><td>4,374</td><td>4,742</td><td>4,458</td><td>1,877</td><td>3,754</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	1,877	3,754	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、令和2年度実績を下回る見込みである。	・がん相談支援センターには国立がん研究センター主催の相談員研修を修了した相談員2人(専従1人・専任1人)を配置している。その他、がん看護専門看護師1人(専任)、緩和ケア認定看護師1人(専任)、がん化学療法認定看護師1人(専任)、乳がん認定看護師2人(専任)が外来、病棟において相談業務を行っており、がん疾患患者が相談しやすい体制が確保されている。	A	がん相談支援センターにおいて、がんに関連する専門・認定看護師を中心に対面及び電話による相談を実施している。 がん相談件数については、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での相談件数が減少傾向であるため、初めて4,000件を下回る見込みである。	・がん相談支援センターにおいては、がんに関連する専門・認定看護師が外来、病棟において相談業務を行っており、がん疾患患者が相談しやすい体制が確保されている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による、相談案件の減少はやむを得ないが、引き続き、患者が安心して医療を受けられるよう、支援に努めていくことが期待される。																
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																								
がん相談	4,587	5,896	4,374	4,742	4,458	1,877	3,754																																								

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)										令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値		評 価		第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																																																
										説明																				説明																																																																																																																																																															
										④ロボット支援手術の 件数増加に努める										ダ・ヴィンチ使用手術件数 (単位: 件) <table><tr><td>診療科</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3目標</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>泌尿器科</td><td>102</td><td>122</td><td>112</td><td>104</td><td>135</td><td>67</td><td>—</td><td>134</td></tr><tr><td>婦人科</td><td>1</td><td>4</td><td>18</td><td>25</td><td>23</td><td>7</td><td>—</td><td>14</td></tr><tr><td>消化器外科</td><td>9</td><td>30</td><td>83</td><td>70</td><td>82</td><td>51</td><td>—</td><td>102</td></tr><tr><td>心臓血管外科</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>3</td><td>6</td><td>—</td><td>12</td></tr><tr><td>計</td><td>112</td><td>156</td><td>213</td><td>199</td><td>243</td><td>131</td><td>200以上</td><td>262</td></tr></table> ダ・ヴィンチ使用術者数 (単位: 人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>人数</td><td>6</td><td>7</td><td>11</td><td>12</td><td>16</td><td>15</td><td>15</td></tr></table>										診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	泌尿器科	102	122	112	104	135	67	—	134	婦人科	1	4	18	25	23	7	—	14	消化器外科	9	30	83	70	82	51	—	102	心臓血管外科	—	—	—	—	3	6	—	12	計	112	156	213	199	243	131	200以上	262	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	人数	6	7	11	12	16	15	15	A										ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとつては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 ダ・ヴィンチ使用手術件数については、令和3年度は消化器外科及び心臓血管外科の手術件数が増加しており、目標値及び令和2年度実績を上回る見込みである。										・ダ・ヴィンチ2台体制により、泌尿器科、婦人科、消化器外科、心臓血管外科における手術に対応している。 ・ダ・ヴィンチ使用手術件数は増加傾向であり、令和3年度は上半期時点で131件と令和2年度243件に対して増加傾向であり、目標値を上回る見込みである。 ・ダ・ヴィンチ手術は低侵襲というメリットがある一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題もあり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施している。 ・令和2年度病床機能報告によると、県内のダ・ヴィンチ配備は11病院であり、依然として、総合病院の担うべき役割は大きい。 ・県内の医療水準の維持向上の観点から、経営面とのバランスを図りつつも、高度医療提供の使命を果たしていくことが重要である。										4										1										○										S										ダ・ヴィンチ使用手術は、患者にとつては低侵襲というメリットがあるが、経営面においては消耗品や機器の保守費用等を現在の診療報酬では賄うことができないという問題点があるため、手術部において適用症例を見極めたうえで実施している。 令和2年度は、新たに心臓血管外科におけるダ・ヴィンチ使用手術(僧帽弁形成術)を開始した。これは県内で唯一の認定機関である。 ダ・ヴィンチ使用手術件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、着実に増加している。										・ダ・ヴィンチ手術の対応領域を順次拡大してきており、令和2年度には心臓血管外科における手術を開始した。 ・ダ・ヴィンチ使用手術件数は増加傾向であり、令和元年度を除いて、目標値を上回る見込みである。 ・ダ・ヴィンチ使用術者数についても、平成30年度と比較して4人増加させており、高度な専門的医療の提供体制が拡充されている。 ・ダ・ヴィンチ手術は低侵襲というメリットがある一方、必要となる消耗品や機器の保守費用等が現在の診療報酬では賄いきれないという課題もあり、適用症例を手術部において慎重に見極めた上で実施している。 ・県内の医療水準の維持向上の観点から、経営面とのバランスを図りつつも、高度医療提供の使命を果たしていくことが重要である。									
																														診療科	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込																																																																																																																																																							
																														泌尿器科	102	122	112	104	135	67	—	134																																																																																																																																																							
婦人科	1	4	18	25	23	7	—	14																																																																																																																																																																																					
消化器外科	9	30	83	70	82	51	—	102																																																																																																																																																																																					
心臓血管外科	—	—	—	—	3	6	—	12																																																																																																																																																																																					
計	112	156	213	199	243	131	200以上	262																																																																																																																																																																																					
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																																																																						
人数	6	7	11	12	16	15	15																																																																																																																																																																																						
・認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制を整備する。										○認知症や精神科患者の身体合併症などに対応できる体制の整備 ①認知症等に対応する医療提供体制の構築に向けた取組										No.20										こころの医療センターとの連携による常勤の精神科医師2名の着任により、精神科患者の身体合併症に対応する精神科リエゾンチームと認知症ケアチームが協働しながら治療を行っている。 また、精神疾患と身体疾患を併せ持つ精神・身体合併症に対する医療ニーズを踏まえ、精神科病棟(精神科身体合併症病棟)の整備に関する基本設計・実施設計を実施している。										A										令和3年度は、精神科病棟の整備に関する基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了する予定である。										・精神科リエゾンチームは、身体の病気で入院中の患者の不安、不眠、抑うつ、せん妄等の精神症状や心理的な問題に対し適切なサポートが行えるよう、精神科医、認知症看護認定看護師、薬剤師が主治医と連携しながら活動している。 ・高齢化による認知症や精神疾患を患った身体合併症の増加に対応するため、精神科病棟の整備を計画している。 ・精神科外来・精神科病棟の整備に際しては、機構3病院の連携体制の強化も踏まえ、検討していくことが重要である。										A										令和元年7月に精神科リエゾンチームの施設基準を取得し、活動を開始した。 精神科病棟(精神科身体合併症病棟)の整備に関して、令和2年度は基本計画の策定を行い、令和3年度は基本設計・実施設計に着手し、年度内に完了する予定である。										・令和元年9月に、精神科リエゾンチームの施設基準を取得しており、身体合併症患者への対応強化を図っている。診療報酬上の評価加算も堅調に増加しており、収益面においても貢献している。 ・身体合併症の増加に対応するため、精神科病棟の整備を計画しており、令和2年度に基本計画をとりまとめ、令和3年度に設計に着手している。精神科病棟の整備により、重篤な身体合併症患者の受入れが可能となり、静岡圏域における身体合併症患者への医療提供体制の確保が期待される。 ・精神科外来・精神科病棟の整備に際しては、機構3病院の連携体制の強化も踏まえ、検討していくことが重要である。																																																																																																			
・先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用により、適切な治療を提供していく。										○先端医学棟に整備した各種ハイブリッド手術室や放射線治療室の運用による適切な治療の提供 ①ハイブリッド手術室を活用した高度専門医療の推進 ②高度放射線治療の推進										先端医学棟の設備・機器を最大限に活用する ①No.29 ②No.30										+手術件数 (単位: 件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3目標</td><td>3年度見込</td><td>中期計画</td></tr><tr><td>手術件数</td><td>8,536</td><td>9,115</td><td>9,327</td><td>9,814</td><td>9,126</td><td>4,667</td><td>9,400以上</td><td>9,308</td><td>9400以上/毎年度</td></tr></table> HCU延患者数 (単位: 人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>人数</td><td>3,872</td><td>5,875</td><td>6,872</td><td>6,426</td><td>5,569</td><td>2,692</td><td>5,369</td></tr></table>										区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	中期計画	手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	4,667	9,400以上	9,308	9400以上/毎年度	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	2,692	5,369	B										令和3年度の手術件数は目標値は下回るが、令和2年度実績を上回る見込みである。それに伴い、HCU延患者数については、入室対象となる手術が減少しており、令和2年度実績を下回る見込みである。										・MRI・CT・血管造影の3種類のハイブリッド手術室を含む22室の手術室、20床のHCU病床を備えた先端医学棟の稼動以降、手術待ちの状況はほぼ解消されており、平成29年度以降、手術件数は年々増加していたが、令和2年度から、新型コロナウイルス感染症の影響により手術件数は落ち込んでおり、令和3年度の上半期実績は4,667件と目標値を下回る見込みである。 ・同様に新型コロナウイルス感染症の影響により、HCU延患者数は令和2年度に引き続き落ち込んでいる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響によって入院患者数が減少していることから、手術件数の減少はやむを得ないものであり、必要な治療については、適切に対応している。										5										1										○										B										手術件数については、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和2年度は回復傾向である。 HCU延患者数については、それに加えて入室対象となる手術が減少しており、令和2年度より減少傾向である。 今後も手術室との一体的かつ効率的な運用に努める。										・手術件数については、令和元年度は目標値を上回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響による紹介患者数の減少等により、令和2、3年度は目標値を下回る見込みである。 ・心臓血管外科における全身麻酔下での手術件数の増加により、手術後の患者や集中治療を脱した重症患者の経過観察を受け持つHCUの利用も年々増加していたが、同様に新型コロナウイルス感染症の影響による減少がみられる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による手術件数の目標値未達成はやむを得ないものであり、必要な治療については、適切に対応している。新型コロナウイルス感染症の収束後を見据えて、麻酔科医等の医師確保には継続して取り組むことが期待される。																																	
																																								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	中期計画																																																																																																																																												
																																								手術件数	8,536	9,115	9,327	9,814	9,126	4,667	9,400以上	9,308	9400以上/毎年度																																																																																																																																												
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																																																																						
人数	3,872	5,875	6,872	6,426	5,569	2,692	5,369																																																																																																																																																																																						

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																													
											説明						説明																																																																															
			・高度救命救急センターとして一層の充実を図り、広範囲熱傷等の特殊疾病患者に対応していく。		○重篤な救急患者に対応する高度救命救急センターの運営 ①高度救命救急センター運営に必要な専門スタッフの確保・育成 ②集中治療専門医の確保 ③救急搬送患者の受入体制の充実	37	総合	医師の変則勤務試行状況 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>該当者(人)</td><td>1,634</td><td>1,722</td><td>1,717</td><td>1,784</td><td>1,893</td><td>1,001</td><td>1,936</td></tr><tr><td>利用者(人)</td><td>961</td><td>889</td><td>966</td><td>1,047</td><td>1,224</td><td>651</td><td>1,285</td></tr><tr><td>利用率(％)</td><td>58.8</td><td>51.6</td><td>56.3</td><td>58.7</td><td>64.7</td><td>65.0</td><td>66.4</td></tr></table> ※該当者：変則勤務を行うことが可能な延べ医師数 ※利用者：変則勤務を行った延べ医師数		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	該当者(人)	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,001	1,936	利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	651	1,285	利用率(％)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	65.0	66.4	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めている。令和3年度の利用率は65.0％となり、令和2年度実績から増加する見込みである。	6	○	A	救急患者の円滑な受入体制を維持するため、各診療科の協力のもと、医師の変則勤務を進めており、利用率は着実に増加している。今後も、救急当直体制の運用見直しや救命救急科医師の確保に努める。	・県内全域からの患者を24時間体制で受け入れる三次救急医療機関として、高度救急医療を提供している。 ・当直明けに休めるよう、救急科医師の変則勤務制の施行を継続しており、対象者の6割以上が利用しており、利用率は増加傾向である。 ・令和6年度からは、国が進める働き方改革の一環として、医師の時間外労働規制が開始されることから、令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度構築や運用面の工夫が求められる。																																																
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																									
該当者(人)	1,634	1,722	1,717	1,784	1,893	1,001	1,936																																																																																									
利用者(人)	961	889	966	1,047	1,224	651	1,285																																																																																									
利用率(％)	58.8	51.6	56.3	58.7	64.7	65.0	66.4																																																																																									
					③救急車の受入を確実にできる診療体制を維持する。 ・ドクターカーの運用に関して、出動可能な市町の拡大に努める。	38	総合	救急科医師9名体制で稼働 救急車受入率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>当番日</td><td>96.5</td><td>94.6</td><td>97.1</td><td>90.9</td><td>87.7</td><td>94.4</td><td>94.4</td></tr><tr><td>全 日</td><td>93.1</td><td>94.9</td><td>97.4</td><td>92.3</td><td>92.5</td><td>92.7</td><td>92.7</td></tr></table> 特殊疾病患者受入数 (単位：件) <table><tr><th>疾病名</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>重症熱傷</td><td>12</td><td>12</td><td>14</td><td>11</td><td>9</td><td colspan="2" rowspan="5">集計中</td></tr><tr><td>重症外傷</td><td>446</td><td>539</td><td>378</td><td>380</td><td>431</td></tr><tr><td>急性中毒</td><td>18</td><td>18</td><td>30</td><td>46</td><td>26</td></tr><tr><td>病院外心停止</td><td>207</td><td>207</td><td>186</td><td>174</td><td>201</td></tr><tr><td>計</td><td>683</td><td>776</td><td>608</td><td>611</td><td>667</td></tr></table> ドクターカー出動状況 (単位：件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>10</td><td>12</td><td>12</td><td>8</td><td>8</td><td>12</td></tr></table>		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4	94.4	全 日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5	92.7	92.7	疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	重症熱傷	12	12	14	11	9	集計中		重症外傷	446	539	378	380	431	急性中毒	18	18	30	46	26	病院外心停止	207	207	186	174	201	計	683	776	608	611	667	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	件数	7	10	12	12	8	8	12	A	救急科医師数に変化はない。救急当直体制の見直しを行っているが、現在も医師数が充足しているとは言えない状況である。 令和3年度の救急患者数及び救急車受入件数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、令和2年度実績を上回る見込みである。特殊疾病患者も積極的に受け入れ、高度救命救急センターとしての機能を果たしている。 ・救急患者数 令和3年度(上半期) 5,562人 前年度比+232人 ・救急車受入件数 令和3年度(上半期) 2,599件 前年度比+88件 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動している。令和3年度の出動件数は、令和2年度実績を上回る見込みである。	6	○	A	救急受入体制の充実のため、救急科医師の確保を行うとともに、救急当直体制の見直しを進めている。 令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、救急患者数及び救急車受入件数は減少したが、特殊疾病患者受入数は年間600件以上を維持するなど、高度救命救急センターとしての機能を果たした。 ドクターカーは事故による重症外傷や胸痛等の循環器疾患が疑われる病態に対して出動しており、出動件数は年間10件程度で推移している。	・高度救命救急センターとして、特殊疾病患者についても積極的に受入れている。 ・第3期においては、救急車受入率は第2期と比較してやや低下しているが、軽症患者については他の二次救急病院で対応するケースが増えるなど、地域医療機関との役割分担のもと、三次救急である高度救命救急センターとしての機能発揮ができている。 ・厚生労働省が実施する「救命救急センターの充実段階評価」ではA評価を継続して取得しており評価されている。 ・救急科医師の体制は、第3期中期目標期間においては9人体制を維持しているが、医師の負担軽減を考慮すると、救急科医師は充足状態ではなく、働き方改革を見据え、長期的な視野のもと、県立病院としての医療提供の使命とのバランスを図りつつ、救急医療体制の改善に努めていくことが求められる。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																									
当番日	96.5	94.6	97.1	90.9	87.7	94.4	94.4																																																																																									
全 日	93.1	94.9	97.4	92.3	92.5	92.7	92.7																																																																																									
疾病名	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																									
重症熱傷	12	12	14	11	9	集計中																																																																																										
重症外傷	446	539	378	380	431																																																																																											
急性中毒	18	18	30	46	26																																																																																											
病院外心停止	207	207	186	174	201																																																																																											
計	683	776	608	611	667																																																																																											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																									
件数	7	10	12	12	8	8	12																																																																																									
			・効率的な病院運営を図り、また、県民に安全で質の高い医療の提供を行うため、病床稼働率及び入院・外来患者満足度について各事業年度で高い水準を達成する。		○効率的な病院運営による県民に安全で質の高い医療を提供 ①手術件数の増加 ②病床稼働率90%以上の維持 ③患者満足度の向上	39	総合	病床稼働率 (単位：％) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>一般病棟</td><td>90.4</td><td>93.5</td><td>93.9</td><td>91.1</td><td>84.8</td><td>88.1</td><td>90以上</td><td>88.1</td></tr><tr><td>全体</td><td>86.1</td><td>89.5</td><td>89.8</td><td>86.6</td><td>80.7</td><td>83.7</td><td>-</td><td>83.7</td></tr></table>		区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込	一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	88.1	90以上	88.1	全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	83.7	-	83.7	B	令和3年度も、一般病棟の一部を新型コロナウイルス感染症専門病棟として運用しており、一般病床稼働率は目標値90%を下回った。 一方、感染症専門病床を除く一般病床稼働率は目標値を上回る見込みである。	3	1	△	B	令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、病棟の一部を感染症専門病棟として運用しているため、一般病床稼働率は目標値90%を下回る見込みである。 今後も、院内感染対策を徹底するとともに、近隣医療機関等の連携により紹介患者を増加させるなど、病床稼働率の向上を図る。	・紹介患者数の減少や新型コロナウイルス感染症専用病床確保等により、一般病床の稼働率は、令和元年度を除いて、中期目標で指示した目標値を下回る見込みである。 ・一方で、期間を通じて、一般病床の病床稼働率の全国平均(令和元年度:76.5%)を大きく上回っており、効率的な病院運営が図られている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成はやむを得ないが、引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3目標	3年度見込																																																																																								
一般病棟	90.4	93.5	93.9	91.1	84.8	88.1	90以上	88.1																																																																																								
全体	86.1	89.5	89.8	86.6	80.7	83.7	-	83.7																																																																																								
			【目標値】 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合)		【目標値】県立総合病院 ・手術件数(総合) ・病床稼働率(総合) ・患者満足度[入院・外来](総合) ・ハイブリッド手術件数(総合) ・放射線治療症例件数(総合) ・外来化学療法件数(総合) ・ダヴィンチ使用手術件数(総合)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																													

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)		
											説明						説明				
		県立こころの医療センター	(イ) 県立こころの医療センター診療事業 県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療を提供するとともに、精神科救急・急性期医療や、他の医療機関では対応困難な治療の実施及び司法精神医療の充実を図る。 県民に提供する医療 ＜業務予定量＞ 病床数 280床 精神病床 280床 外来患者40,208人 入院患者52,904人	40	—		入院・外来患者数 (単位:人)	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	5目標	5年度見込		南1病棟の個室化により救急・急性期患者の後方病棟として機能強化を図ってきたところであるが、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあって入院・外来患者数ともに伸び悩んでいる。また当初は令和3年度に思春期病棟の開棟、整備に着手する予定であったが、救急病棟及び後方病棟のあり方を含め、地域における精神医療の中心としての役割を踏まえた病棟整備を検討する必要が生じたこともあって、再検討を行っている。 当面は、他の医療機関では対応困難な重症患者の受入が可能である点などを地域の医療機関に働きかけつつ、患者の受入れを積極的に行い、県内精神医療の中核病院としての役割を果たしていく。	・県内精神医療の中核病院として、総合的・専門的な精神科医療、精神科救急医療、司法精神医療を提供している。 ・県内全域の精神科医療ニーズに適切に対応しているが、新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保や、外来患者に対する感染リスク軽減を目的とした長期投与やデイケアの一時受入れ停止などにより、入院・外来患者数は期間中の各年度とも目標値を下回る見込みである。
		・常時精神科救急医療相談に応じ、患者の支援体制の充実を図る。 ・救急患者を受け入れ、新たな入院患者が早期に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の充実を図る。	○精神科救急・急性期医療の提供体制の充実 ①常時精神科救急医療相談に対応可能な体制の整備 ②救急患者が常時受入可能な体制の整備及び新たな入院患者の早期退院を支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備	41	①②24時間体制で精神科救急医療相談に応じ患者を受入れるとともに、新たな入院患者が90日以内に退院し社会復帰できるよう支援する精神科救急・急性期医療の提供体制の整備を図る。		平成15年4月より、県の委託事業として県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間体制で救急医療相談に対応している。 年4回発行し、関係機関、公的機関及び就労支援施設等に配布する当センター広報誌「ぬくもり」や、当センターホームページへ「精神科救急ダイヤル」に関する情報を掲載し、周知を図っている。	精神科救急ダイヤル件数 (単位:件)	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込				平成15年4月より、県との委託契約に基づき、県内全域を対象とする「精神科救急ダイヤル」を敷設し、24時間365日対応可能な体制をひいて救急医療相談に対応している。ホームページ及びこころの医療センター広報誌「ぬくもり」にダイヤル情報を掲載し、周知を図っている。 令和元年度以降、広報誌の発行回数を増やし、さらに配布先に就労支援施設を追加する等の取組により「精神科救急ダイヤル」の周知に努め、令和元年度、2年度は3,000件を超す相談事例に対応した。うち2,000件強が時間外の対応となっている。 今後とも、関係機関への周知を図るとともに、24時間365日対応可能な相談、診療体制の維持を図る。	・精神科救急ダイヤルの相談件数は、特定の患者からの相談が集中すること等の理由で、年度により増減があるが、年間2,000件を超える相談に対応している。 ・第3期中期目標期間においては広報誌やホームページを通じた広報に特に努めており、対象者の心の健康管理への支援に努めている。 ・時間外における救急診療件数は期間中の各年度とも目標値を上回っており、24時間365日対応可能な相談・診療体制が取られている。
				42	①新たな入院患者が90日以内に退院できるよう促進し、精神科救急入院料の施設基準を維持する。		早期治療、早期退院の実践により、救急病棟（南2・北2）における「新規患者率」、「新規患者3ヶ月以内在宅移行率」はそれぞれの施設基準を満たしている。	新規患者率 (単位:%)	区 分	施設基準	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込			救急病棟(南2・北2)において行われている精神科救急医療については、患者の早期治療、早期退院の実践により、新規入院患者が90日以内の退院を促進するとともに、退院後の地域定着支援を実施している。 中期計画期間中においては、年度によってばらつきはあるものの、概ね新規患者率は60%を超え、90日以内の在宅以降率は80%程度となっており、施設基準を満たしている。 今後とも、早期治療・早期退院に努める一方で、患者退院後の地域定着支援をきめ細かく実施し、地域に密着した精神科救急医療の実践に努めていく。	・通常の入院医療と比べて多くのマンパワーと厳しい算定基準が課される精神科救急入院料を算定する南2(43床)・北2(45床)病棟においては、算定基準である新規患者率40%以上、新規患者3か月以内在宅移行率60%を大幅に上回る水準となっており、再入院等の課題はあるものの、引き続き早期退院の促進及び地域移行支援が期待される。

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																						
										説明																															
						47		こころ	令和3年度は2名の退院、2名の新規入院があり、5月以降は満床となったことから、90%を超える高い利用率を維持している。 医療観察法病棟の稼働状況(単位:床・%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>病床数(床)</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td><td>12</td></tr><tr><td>病床利用率(%)</td><td>99.1</td><td>96.9</td><td>96.0</td><td>84.1</td><td>98.2</td><td>98</td><td>99</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	病床数(床)	12	12	12	12	12	12	12	病床利用率(%)	99.1	96.9	96.0	84.1	98.2	98	99	A	令和3年度は一部患者の出入りはあるものの、概ね12床満床の状態で推移しており、稼働率は9月末現在で98.0%、年間見込で99.0%となっている。	・医療観察法は、心身喪失等の状態で重大な他害行為を犯してしまった人に対して、必要な医療提供や社会復帰促進を図るための法律であり、こころの医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、12床で稼働している。 ・入院は地方裁判所の処遇決定のもと、厚生労働省からの要請に基づき行われるが、退院後は地域社会における適切な処遇が必要となることから、通院医療提供、生活保護、社会復帰支援、訪問指導等を担う関連行政機関との連携も重要である。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、令和3年度は概ね満床状態を維持しており、社会的要請である司法精神医療に対応している。	9	○	A	令和元年度には稼働率が若干低下していたものの、県外患者等積極的な患者の受入れを行った結果、令和2年度以降はほぼ満床で推移している。 医療観察法に必要な知識・技術の習得に努め、法に沿って確実に業務に取り組むことが必要であることから、職員に対しての研修を行い、機能強化に取り組んでいる。	・こころの医療センターは、県内唯一の医療観察法指定入院医療機関として、平成21年より2床で運用開始、平成23年より現行の12床で稼働している。 ・稼働率の増減は、厚生労働省からの入院要請の有無次第であるが、県外の対象患者についても、要請に応じて積極的に受け入れるなど、社会的要請である司法精神医療に対応している。 ・令和元年度から医療観察法初任者研修を実施し、入院受入れから退院までの患者との関わり方について、こころの医療センターの医師・薬剤師・看護師・精神保健福祉士・作業療法士などが講師となり、医療従事者向けのカリキュラムとして企画・運営している。令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症対策としてビデオ学習に実施方法を変更しているが、医療観察法の理解の裾野拡大に努めている。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																		
病床数(床)	12	12	12	12	12	12	12																																		
病床利用率(%)	99.1	96.9	96.0	84.1	98.2	98	99																																		
						48		こころ	令和2年4月より総合病院へ精神科医師1名を追加配置し、医師2名の体制とし、身体合併症の精神科リエゾン機能を強化するとともに、病棟整備に向けた検討会に参画している。 思春期病棟の整備については、3病院の精神科医療提供体制のあり方を踏まえて協議していく。	A	令和2年4月以降、総合病院の精神科医が2名体制となり、身体合併症の精神科リエゾン機能がより強化された。 令和3年度は、県の主催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」において、喫緊の課題となっている「小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方」について検討を行っている。 今後は懇話会での検討結果を踏まえ、機構内(県立3病院)の精神科医療のあり方を検討していく。	・こころの医療センターから総合病院に精神科医師2名を配置し、身体合併症患者への精神科リエゾン機能の強化などチーム医療の充実に効果を上げている。 ・休床中の108床について、将来の医療需要等を見据え、検討する必要がある。	16	○	A	第3期中期期間中は、令和2年度以降、総合病院の精神科医が2名体制となり、身体合併症の精神科リエゾン機能がより強化された。 令和3年度は、県の主催する「児童福祉と児童思春期精神医療との連携に関する懇話会」において、喫緊の課題となっている「小児から成人への移行期における医療提供体制のあり方」について検討を行っている。 今後は懇話会での検討結果を踏まえ、機構内(県立3病院)の精神科医療のあり方を検討し、医療提供体制の整備に取組んでいく。	・総合病院における身体合併症患者への精神科医療の提供等のため、こころの医療センターから総合病院に精神科医師2名を配置し、精神科リエゾン機能のほか、認知症や緩和ケアのチーム医療の充実に効果を上げている。 ・休床中の108床については、将来の医療需要等を見据え、検討する必要がある。																								
						49		こころ	病床稼働率(単位:%) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>稼働率</td><td>90.6</td><td>87.9</td><td>91.1</td><td>85.8</td><td>84.8</td><td>80.3</td><td>85以上</td><td>84.7</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	80.3	85以上	84.7	B	新型コロナウイルス感染症患者受入のために個室4床を休床としていることに加え、運用できる個室病床が減少している一方で多床室への入院が難しい患者が増えた結果、受入調整が困難となり、病床稼働率が低下している。	・新型コロナウイルス感染症専用病床の確保等の影響を受け、令和3年度上半期時点で、病床稼働率は目標値を下回っている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成はやむを得ないが、引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。	7	1	△	B	令和元年の病床稼働率は目標値に到達したものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響を受けた令和2年度、3年度については、個室4床をコロナ感染者用として休床とし、運用できる個室病床が減少している一方で多床室への入院が難しい患者が増えていることで受入調整が困難となり、目標値を下回る見込である。 今後、感染状況を見据えた上で、院内感染対策を取りつつ、近隣医療機関と連携して紹介率を向上させることなどにより、病床稼働率の向上を図る。	・新型コロナウイルス感染症専用病床の確保等の影響を受け、病床稼働率は、令和元年度を除いて、中期目標で指示した目標値を下回る見込みである。 ・一方で、精神病床の病床稼働率の全国平均(令和元年度:85.9%)と同程度の水準を維持しており、効率的な病院経営に努めている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による目標値未達成はやむを得ないが、引き続き、稼働率の向上に努めることを期待する。					
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込																																	
稼働率	90.6	87.9	91.1	85.8	84.8	80.3	85以上	84.7																																	
						—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																						
						—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																						

中期目標		中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)								令和3年度実績(暫定) 自己評価			県評価 (R3年度暫定評価)			重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価			県評価 (第3期暫定評価)		
														説明			説明					説明					
		・本県における小児がんの拠点機能を有する病院として、高度な集学的治療に積極的に取り組む。	○小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として、高度な集学的治療への積極的な取組 ①小児がんの集学的治療推進、セカンドオピニオンの受入れなど、がん診療の機能強化 ②院内がん登録の推進 ③県立静岡がんセンターとの連携強化 ④AYA世代がん診療の連携等を推進 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等の開催 ⑥病室のクリーン度アップや、AYA対応室の設置等北5病棟の改修	53	①②静岡県小児がん拠点病院(厚生労働省指定)として血液腫瘍に対しては、骨髄・末梢血幹細胞・臍帯血移植などの治療法を利用して対応する。 ①②小児がん連携拠点病院の指定を念頭に置き、小児がん診療の更なる充実を図る。 ③県立静岡がんセンターとの共同カンファレンスを実施する。 ④AYA世代がんに携わる医療従事者向け研修会を開催する。 ⑤がん公開講座や研修会(脳腫瘍関連)等を開催する。 ⑥北5病棟改修工事の実施。	造血幹細胞移植実績 (単位: 件) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 骨髄移植 4 2 5 2 8 1 1 臍帯血 2 1 3 3 2 0 0 自家末梢血 5 7 4 4 1 1 4 同種末梢血 0 0 2 1 1 0 0 計 11 10 14 10 12 2 5 小児がん登録件数 (単位: 件) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3目標 3年度見込 登録件数 61 58 47 56 55 28 45 53 がんセンターとの共同カンファレンス回数 (単位: 回) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 回数 3 2 3 3 7 4 8 AYA世代がん研修会実施回数 (単位: 回) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 回数 - 1 1 4 2 0 2 がん公開講座件数 (単位: 件) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 件数 - - - 1 0 0 1 北5病棟改修にかかる打ち合わせ回数 (単位: 回) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 回数 - - - - 17 21 21 研修会(脳腫瘍関係) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 開催回数 - - - - - 0 1 参加人数 - - - - - 0 60	S	小児がんは成人と比較して発症数の少なさから発見、診療が専門機関でない困難であり、こども病院は、小児がん拠点病院(平成31年4月指定)として、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専任化等により体制整備に努めている。令和3年度は、更なる体制整備の一環として、設備面で、個室4室、廊下も含めた範囲のクリーン度アップなど機能強化及び入院患者の学習継続や交流のための施設整備を行い、7月に工事が完了している。 また、がん公開講座については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来ていなかったが、令和3年度は再開予定である。また、AYA世代のがんに携わる医療従事者に向けた研修会については継続的に開催している。 がんゲノム医療連携病院(令和元年12月指定)として、がんゲノム医療についても取組を実施しており、加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催など他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めている。 なお、小児がん登録件数も、目標数値を超える見込である。	・小児がんは、15歳以下の小児に発生する悪性新生物であり、白血病や脳(脊髄)腫瘍等が多数を占める。 ・成人がんに多い臓器がんとは異なる疾患構成であることや、未分化で急速に進行する腫瘍が多いこと、発育途中であるが故の後年における合併症等が特徴であり、継続した治療、移行期医療が重要となる。 ・こども病院は、国の指定する小児がん拠点病院として、小児がんに対する集学的な治療を行っており、小児がん登録件数は目標値を上回る見込みである。 ・令和3年度も引き続き、医療従事者や患者家族等に対してAYA世代がんの治療方法等をテーマとした研修会を開催し、AYA世代患者への相談対応の強化に取り組んでいる。 ・がん公開講座については、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度は開催できなかったが、令和3年度に再開予定である。 ・令和3年度は北5病棟内の個室4室及び廊下も含めた範囲のクリーン度アップや学習スペースの整備を行っており、小児がん拠点病院として、療養環境の向上に取り組んでいる。 ・また、がんゲノム医療連携病院として、令和3年度も引き続きがん遺伝子パネル検査を実施している。 ・今後も、小児がん拠点病院として、院内がん登録中級認定者資格を有する専任職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。	12	1	☆	A	こども病院は、成人と比較して発見・診療が困難な小児がんの治療に取り組んでおり、特に平成31年4月の小児がん拠点病院の指定以降は、小児がん相談室の設置、院内がん登録中級認定者の専任化等といった体制整備に努めてきた。 さらに、令和3年度は、体制整備の一環として、設備面で、個室4室、廊下も含めた範囲のクリーン度アップなど機能強化及び入院患者の学習継続や交流のための施設整備を行い、7月に工事が完了している。 がん公開講座については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施出来なかったが、令和3年度中に再開予定である。また、AYA世代がんに携わる医療従事者に向けた研修会についても継続的に開催している。 また、令和元年12月にはがんゲノム医療連携病院となり、がんゲノム医療についても取組を開始している。加えて、がんセンターとの共同カンファレンスの開催など他の小児がん連携病院等とも連携し、地域全体の小児・AYA世代のがん医療及び支援の質の向上に努めている。 AYA世代のがん患者については高校生の教育支援や生殖医療等が課題であり、教育支援については、静岡県がん診療連携協議会「小児・AYA世代がん部会」において行政機関と連携し検討しており、生殖医療については、生殖医療施設と連携して相互支援を行っている。今後もAYA世代がん患者への研修会実施等により、支援の拡充を図っていく。 なお、小児がん登録件数も、目標数値を超える水準で推移している。			・国の指定する小児がん拠点病院として、小児がんに対する集学的な治療を行っており、小児がん登録件数は、令和元年度を除いて、目標値を上回る見込みである。 ・新型コロナウイルス感染症への対応として中止した令和2年度を除き、医療従事者や患者家族等に対してAYA世代がんの治療法等をテーマとした研修会の開催するなど、AYA世代患者への相談対応の強化にも取り組んでいる。 ・令和元年12月にがんゲノム医療連携指定病院に指定され、がん遺伝子パネル検査を開始したほか、令和3年度には、北5病棟内の個室4室及び廊下も含めた範囲のクリーン度アップや学習スペースの整備を行っており、小児がん拠点病院として、療養環境の向上に取り組んでいる。 ・今後も、小児がん拠点病院として、院内がん登録中級認定者資格を有する専任職員の確保に努め、診療体制の整備、地域医療機関との連携、AYA世代の成人移行・長期フォローアップへの対応など、更なる機能強化を図ることが期待される。										
		・重篤な小児救命救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化し、救急医療全般にわたって地域の医療機関と連携して受け入れる体制を整備する。	○重篤な小児救急患者を常時受入れ可能な体制を維持・強化及び地域で不足する小児救急医療体制の補完等、小児救急医療のモデルとなる体制整備 ①院内各専門領域のバックアップによる、小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした小児救急医療全般にわたる受入体制の強化、拡充 ②小児救命救急センターとしてメディカルコントロール体制整備への協力 ③小児救急専門スタッフの教育の充実	54	①PICU(小児集中治療センター)・救急総合診療科を中心として小児救急医療体制の強化を図る。 ①小児救急センター・小児集中治療センターを中心とした、365日24時間小児救急患者の受入可能な体制を維持、充実させる。 ③院内の小児救急専門スタッフ(医師、看護師)育成に努める。	小児救命救急センターの患者数 (単位: 人、%) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 入院延患者数 5,508 5,409 5,661 5,916 3,619 2,537 5,074 PICU診療実績 (単位: 人、%) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 入院延患者数 2,462 2,390 2,539 2,416 2,083 1,368 2,892 病床稼働率 84.3 81.8 87.0 82.5 71.3 74.1 79.4 ER診療実績 (単位: 人) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 入院患者数 1,338 1,299 1,386 1,695 1,254 755 1,510 外来患者数 4,170 4,110 4,275 4,221 2,365 1,782 3,564 ドクターヘリ搬送実績 (単位: 回) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 回数 35 34 41 33 22 12 24 ドクターカー出動実績 (単位: 回) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 回数 298 268 274 291 193 106 212 PICU配置医師・看護師 (単位: 人) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 医師(有期含む) 9 11 8 9 8 11 11 看護師 30 32 30 29 33 44 44	A	小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して、軽症から重症まで小児救急患者を多く受け入れている。 令和2年度は外出自粛や消毒の徹底により、新型コロナウイルス感染症以外の感染症罹患患者や、交通事故の件数が減少し、救急患者が減少したが、令和3年度はICUの統合により患者数が増加しつつある。 ER開設以降、富士富士宮、志太様原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補充している。 PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。 令和3年度にPICUとCCUの統合を始めたことで、PICUの患者数は増加している。	・小児救命救急センターの指定を受けているPICU(小児集中治療室)と小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。 ・ドクターカー・ドクターヘリの出動・搬送は、交通事故による負傷、病態の急変による搬送などのほか、産科クリニック等で出生した重篤な状況の新生児のこども病院への搬送等での使用が多い。 ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響による患者数落込みからの回復が見られており、また、PICUとCCUの統合により、PICU診療実績の増加が見込まれる。 ・PICU内での循環器系疾患の研修機会の確保が難しいことが医師確保上の課題にもなっていたことから、PICUとのCCUの統合による医師確保への効果が期待される。 ・また医師の時間外労働規制が導入される令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度・工夫の充実が求められる。	13	○	A	小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。 令和2年度は外出自粛や消毒の徹底により、新型コロナウイルス感染症以外の感染症罹患患者や、交通事故の件数が減少し、救急患者が減少したが、令和3年度はICUの統合により患者数が増加しつつある。 ER開設以降、富士富士宮、志太様原等の救急患者が増加しており、地域で不足する小児救急体制を補充している。 PICU病棟の医師確保に努め、専門スタッフを配置し、小児救急体制の充実を図っている。 令和3年度にPICUとCCUの統合を始めたことで、PICUの患者数は増加している。			・小児救命救急センターの指定を受けているPICUと小児救急センターを中心に、24時間365日を通して小児救急患者を受け入れている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による外出控えや感染症患者の減少により、令和2年度は小児救急センター患者数は大幅に減少したが、第3期中期目標期間を通じて診療実績も維持され、重篤な小児救急患者を受け入れる体制が確保されている。 ・PICU内での循環器系疾患の研修機会の確保が難しいことが医師確保上の課題にもなっていたことから、PICUとのCCUの統合による医師確保への効果が期待される。 ・また医師の時間外労働規制が導入される令和6年度やさらにその先を見据えた救急医療体制の確保に向けて、更なる医師確保と勤務環境改善のための制度・工夫の充実が求められる。											
				55	②地域の医療・消防機関で構成されるメディカルコントロール協議会に参加するとともに、PICUの主催により、救急医療・救急(消防)業務従事者向けの研究会、実習講習を行う。	各地域の医療機関、消防機関が参加するメディカルコントロール協議会に参加しているが、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていない。 救急関係研修会等開催実績 (単位: 人) 区分 対象 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 小児救命救急研究会 小児医療、救急医療関係者 150 135 161 86 0 0 0 救急救命士再教育病院実習 救急救命士 6 10 6 0 0 0 0	-	例年、救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図っているものの、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により実施できていない。 実施を見送ったことで、適正な評価が困難であることから、評価対象から除外したが、重篤な小児患者の受入れ等救急体制については、継続的に体制の整備を図っていく。	・メディカルコントロール協議会は、救急現場から医療機関等へ搬送されるまでの間に救急隊員が行う応急処置等の質を保証するため、医学的見地から助言・指導・事後検証・再教育等の充実を図る体制である。 ・例年は地域のメディカルコントロール協議会に参加し、小児・救急医療関係者を対象とした研修を定期的に開催して関係者のスキルアップに貢献している。 ・令和3年度は、令和2年度と同様に、新型コロナウイルス感染症の影響により、小児救命救急研究会・救急救命士再教育病院実習ともに実施されず、評価すべき実績がないため、暫定評価時点では未評価としている。 ・本研修の実施見送りはやむを得ないものであり、中・中期目標で示した「高度な救急医療の充実」の進捗に直結して遅れるものではない。			例年、救急隊員を対象とした研修会等を定期的に開催し、県下の小児救急医療の質の向上を図ってきたが、令和元年度以降は、静岡市主催の救急救命士再教育病院実習については開催されていない。 一方、小児救命救急研究会については令和元年度後半以降は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、実施出来ていないが、救急隊員及び近隣市町の医療従事者からの個別の相談に関しては電話やWEBを通して随時対応をしており、継続的に地域医療機関との連携強化及び地域医療の質の向上に貢献している。 当該研究会については感染状況を注視しながら、令和4年度に再開予定であり、今後も地域医療機関と連携して重篤な小児患者の受入れ等、救急体制の強化を図っていく。			・地域のメディカルコントロール協議会に参加し、小児・救急医療関係者を対象とした研修を定期的に開催して関係者のスキルアップに貢献しているが、令和2、3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、小児救命救急研究会・救急救命士再教育病院実習ともに実施されず、評価すべき実績がないため、令和2、3年度は評価対象外としている。 ・本研修の実施見送りはやむを得ないものであり、救急隊員等からの個別の相談に関しては随時対応していることから、中期目標で示した「高度な救急医療の充実」の進捗に直結して遅れるものではない。 ・令和4年度以降については、新型コロナウイルスの状況を鑑みつつ、実施判断を行っていく必要がある。												
		・精神疾患を持つ小児患者やその家族に対して、児童精神科分野における中核的機能の発揮に努める。	○子どものこころの診療分野の県内における中核的機能の発揮 ①子どもの精神科専門病棟を有するこども病院として、成人移行を見据え、総合病院、こころの医療センターとの連携体制強化	56	①児童精神科医療について、総合病院、こころの医療センターなどと連携し、体制の充実を図る。	こころの診療科診療実績 (単位: 人) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 入院延患者数 10,086 10,864 10,011 9,445 7,890 4,264 10,330 入院新患者数 54 58 57 50 63 40 88 外来延患者数 12,311 12,607 12,376 11,604 11,416 6,288 13,164 外来初診患者数 477 502 466 514 579 309 663 こころの診療科地域別患者数実績 (単位: 人) 区分 28年度 29年度 30年度 元年度 2年度 3年度9月末 3年度見込 東部 755 766 779 759 744 677 744 中部 1,077 1,157 1,190 1,227 1,329 1,208 1,329 西部 54 59 56 59 56 48 56 県外 10 15 10 14 13 12 13 合計 1,896 1,997 2,035 2,059 2,142 1,945 2,142	A	県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。	・児童精神科医療に対して、児童精神科病棟(36床)において、外来から入院まで一貫した治療体制を整えている。 ・県内全域から患者を受け入れており、令和3年度は、こころの診療科における新規患者数は入院・外来ともに増加する見込みである。 ・専門スタッフによるきめ細やかな医療サービスの提供や、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に取り組んでいる。			県内の児童精神科医療の中核機関として、中部地域だけでなく、児童精神科の医療機関が少ない東部地域からも多くの患者を受け入れている。 全国的に摂食障害・自殺企図患者が増加傾向にあり、こども病院においても初診外来患者数が増えていることから、令和4年度以降も増加が見込まれる。			・「こころ」から「身体」まで一貫した小児医療を行っており、こころの診療科では中部地区だけでなく県内全域及び県外からも患者を受け入れ、児童精神分野の中核機関としての役割を果たしている。 ・全国的に摂食障害患者等が増加傾向にあり、こども病院においても初診外来患者数が増えていることから、今後も専門スタッフによるきめ細やかな医療サービスの提供や、急増する子どもの心の問題に関する地域連携の強化に努めることが期待される。												

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)										令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値		評 価		第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)	
																			説明								説明			
2	医療従事者の確保及び質の向上	2	医療従事者の確保及び質の向上	2	医療従事者の確保及び質の向上	—	—	—	職員の確保状況(各年度4月1日現在) (単位：人)										—	—					—	—				
						61		本部・各病院（総務）											A				18	1	○	B				

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令3、中期期間）	令和3年度実績(暫定) 自己評価	県評価 （R3年度暫定評価）	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 （第3期暫定評価）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
			63	・即時的で効果的な人材を確保するため、採用試験を適宜実施する。	看護師については、定時募集に加えて随時募集を実施し、切れ目のない採用試験を実施している。さらに優秀な人材確保のためコメディカル及び事務においてアソシエイトの公募試験を実施した。 正規職員の確保状況（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><thead><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3年度9月末</th><th>4年度</th></tr></thead><tbody><tr><td>法人合計</td><td>245</td><td>260</td><td>269</td><td>283</td><td>289</td><td>293</td><td>295</td><td>295</td></tr><tr><td>医 師</td><td>5</td><td>4</td><td>4</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1,317</td><td>1,370</td><td>1,370</td><td>1,366</td><td>1,398</td><td>1,403</td><td>1,364</td><td>1,364</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>320</td><td>315</td><td>319</td><td>333</td><td>347</td><td>362</td><td>359</td><td>359</td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>研究員</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>事 務</td><td>119</td><td>118</td><td>126</td><td>123</td><td>131</td><td>136</td><td>135</td><td>135</td></tr><tr><td>計</td><td>2,006</td><td>2,067</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,161</td><td>2,161</td></tr><tr><td>本部</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>医 師</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>1</td><td>3</td><td>4</td><td>4</td></tr><tr><td>看護 師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>医療技術</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>事 務</td><td>27</td><td>25</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td><td>32</td></tr><tr><td>計</td><td>29</td><td>27</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>38</td></tr><tr><td>総合</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>医 師</td><td>144</td><td>157</td><td>165</td><td>179</td><td>184</td><td>188</td><td>191</td><td>191</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>5</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>748</td><td>804</td><td>806</td><td>807</td><td>829</td><td>826</td><td>802</td><td>802</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>211</td><td>208</td><td>214</td><td>226</td><td>237</td><td>249</td><td>245</td><td>245</td></tr><tr><td>研究員</td><td></td><td></td><td></td><td>2</td><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>事 務</td><td>51</td><td>52</td><td>54</td><td>53</td><td>59</td><td>63</td><td>62</td><td>62</td></tr><tr><td>計</td><td>1,158</td><td>1,224</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,306</td><td>1,306</td></tr><tr><td>こころ</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>医 師</td><td>12</td><td>12</td><td>14</td><td>14</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>看護 師</td><td>114</td><td>115</td><td>118</td><td>120</td><td>124</td><td>122</td><td>120</td><td>120</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>26</td><td>26</td><td>25</td><td>25</td><td>26</td><td>26</td><td>26</td><td>26</td></tr><tr><td>事 務</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>13</td><td>13</td></tr><tr><td>計</td><td>165</td><td>166</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>172</td><td>172</td></tr><tr><td>こども</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>医 師</td><td>89</td><td>91</td><td>90</td><td>90</td><td>91</td><td>92</td><td>91</td><td>91</td></tr><tr><td>歯科医師</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>看護 師</td><td>453</td><td>449</td><td>444</td><td>436</td><td>444</td><td>452</td><td>438</td><td>438</td></tr><tr><td>医療技術</td><td>83</td><td>81</td><td>80</td><td>82</td><td>84</td><td>86</td><td>86</td><td>86</td></tr><tr><td>事 務</td><td>28</td><td>28</td><td>27</td><td>27</td><td>28</td><td>28</td><td>28</td><td>28</td></tr><tr><td>計</td><td>654</td><td>650</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>645</td><td>645</td></tr></tbody></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	4年度	法人合計	245	260	269	283	289	293	295	295	医 師	5	4	4	5	7	7	8	8	歯科医師	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,364	1,364	看護 師	320	315	319	333	347	362	359	359	医療技術									研究員				2	2				事 務	119	118	126	123	131	136	135	135	計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161	本部									医 師	2	2	2	3	1	3	4	4	看護 師									医療技術						1	2	2	事 務	27	25	32	32	32	32	32	32	計	29	27	34	35	34	36	38	38	総合									医 師	144	157	165	179	184	188	191	191	歯科医師	4	3	3	4	6	5	6	6	看護 師	748	804	806	807	829	826	802	802	医療技術	211	208	214	226	237	249	245	245	研究員				2	2				事 務	51	52	54	53	59	63	62	62	計	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306	こころ									医 師	12	12	14	14	13	13	13	13	歯科医師									看護 師	114	115	118	120	124	122	120	120	医療技術	26	26	25	25	26	26	26	26	事 務	13	13	13	11	12	13	13	13	計	165	166	170	170	175	174	172	172	こども									医 師	89	91	90	90	91	92	91	91	歯科医師	1	1	1	1	1	2	2	2	看護 師	453	449	444	436	444	452	438	438	医療技術	83	81	80	82	84	86	86	86	事 務	28	28	27	27	28	28	28	28	計	654	650	642	636	648	660	645	645	医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。 今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 令和3年度は、看護師募集について、定時募集を第1回から3病院対象に実施し、計3回実施した。新型コロナウイルス感染症拡大の影響の中、第1期看護職員採用試験は、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施した。 また、経験者を対象とした月次募集を計7回実施し、切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がっている。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、理学療法士、視能訓練士、言語聴覚士（アソシエイト）、精神保健福祉士について公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めている。 事務についても、正規職員の公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めている。	18	○	A	第3期中期目標期間中において、2年度以降、医師については、専門医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力を伝え、募集に努めている。今後、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、医学生向け説明会への参加や病院見学の受入などを行い確保に努める。 看護師募集について、例年、定時募集を年4回実施している。令和2年度には、新型コロナウイルス感染症が拡大する中、第1期看護職員採用試験において、Web面談と小論文に代わる書類審査に切替え実施するなど、適宜適切な採用試験の実施に努めた。 また、経験者を対象とした月次募集も実施し、年間を通じ、切れ目のない募集を実施した。なお、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、養成校訪問や訪問に代わるWeb会議など様々な確保対策を進め、採用数の増加に繋がった。 コメディカルは、必要な職種について適時、募集を実施しており、ほぼ全ての職種について公募試験を実施し優秀な人材の確保に努めた。また、遺伝カウンセラーや医療保育(CLS)といった希少な職種についても、積極的に採用を行い、多様化・高度化する医療へ対応している。 事務は、正規職員やアソシエイトの公募試験を実施し、優秀な人材の確保に努めた。	・全国的に看護師不足が問題となる中、積極的な看護師確保対策、柔軟な採用試験の実施、勤務環境の改善、多様な勤務条件の設定等の努力により、各病院が高度・専門・特殊医療の提供に必要な水準の職員数確保に成功している。 ・看護師定時募集方法については、従来、第1期募集は勤務先を総合病院に限り、第2期募集は勤務先を3病院としていたが、令和元年度より、第1期募集から勤務先を3病院として実施し、看護学生の就職活動の早期化と勤務先の希望に柔軟に対応している。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	4年度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
法人合計	245	260	269	283	289	293	295	295																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医 師	5	4	4	5	7	7	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	1,317	1,370	1,370	1,366	1,398	1,403	1,364	1,364																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
看護 師	320	315	319	333	347	362	359	359																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
研究員				2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
事 務	119	118	126	123	131	136	135	135																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
本部																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
医 師	2	2	2	3	1	3	4	4																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
看護 師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
医療技術						1	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
事 務	27	25	32	32	32	32	32	32																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計	29	27	34	35	34	36	38	38																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
総合																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
医 師	144	157	165	179	184	188	191	191																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	4	3	3	4	6	5	6	6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
看護 師	748	804	806	807	829	826	802	802																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	211	208	214	226	237	249	245	245																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
研究員				2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
事 務	51	52	54	53	59	63	62	62																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
こころ																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
医 師	12	12	14	14	13	13	13	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
看護 師	114	115	118	120	124	122	120	120																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	26	26	25	25	26	26	26	26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
事 務	13	13	13	11	12	13	13	13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計	165	166	170	170	175	174	172	172																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
こども																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
医 師	89	91	90	90	91	92	91	91																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
歯科医師	1	1	1	1	1	2	2	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
看護 師	453	449	444	436	444	452	438	438																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
医療技術	83	81	80	82	84	86	86	86																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
事 務	28	28	27	27	28	28	28	28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
計	654	650	642	636	648	660	645	645																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
			64	・就職説明会への参加、多角的な広報の実施や養成校の訪問などにより、必要な職員の確保を目指す。	看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><thead><tr><th>区 分</th><th>来場者数</th><th>訪問者数</th><th>受験者数</th></tr></thead><tbody><tr><td>ナース専科（静岡）</td><td colspan="3" rowspan="4">令和4年2月開催予定</td></tr><tr><td>ナースナビ（浜松）</td></tr><tr><td>マイナビ（静岡）</td></tr><tr><td>（沼津）</td></tr><tr><td>業者計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td colspan="3">PR動画の提供</td></tr><tr><td>常葉大学</td><td colspan="3">令和4年2月開催予定</td></tr><tr><td>無縁クリストファー大学</td><td colspan="3">未 定</td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td colspan="3">未 定</td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td colspan="3">令和4年2月開催予定</td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td colspan="3">PR動画の提供</td></tr><tr><td>養成校計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr></tbody></table> 看護学生向け就職説明会（単位：人） <table><thead><tr><th></th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr></thead><tbody><tr><td>来場者数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>業者</td><td>1,378</td><td>887</td><td>226</td><td>709</td><td>709</td><td>0</td><td>709</td></tr><tr><td>養成校</td><td>842</td><td>997</td><td>602</td><td>35</td><td>35</td><td>0</td><td>35</td></tr><tr><td>訪問者数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>業者</td><td>360</td><td>608</td><td>64</td><td>645</td><td>645</td><td>0</td><td>645</td></tr><tr><td>養成校</td><td>366</td><td>357</td><td>345</td><td>316</td><td>316</td><td>0</td><td>316</td></tr><tr><td>受験者数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>業者</td><td>58</td><td>53</td><td>3</td><td>112</td><td>112</td><td>0</td><td>112</td></tr><tr><td>養成校</td><td>86</td><td>64</td><td>73</td><td>92</td><td>92</td><td>0</td><td>92</td></tr></tbody></table>	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科（静岡）	令和4年2月開催予定			ナースナビ（浜松）	マイナビ（静岡）	（沼津）	業者計			0	静岡県立大学	PR動画の提供			常葉大学	令和4年2月開催予定			無縁クリストファー大学	未 定			順天堂大学	未 定			静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定			静岡県立看護専門学校	PR動画の提供			養成校計			0	計			0		28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	来場者数								業者	1,378	887	226	709	709	0	709	養成校	842	997	602	35	35	0	35	訪問者数								業者	360	608	64	645	645	0	645	養成校	366	357	345	316	316	0	316	受験者数								業者	58	53	3	112	112	0	112	養成校	86	64	73	92	92	0	92	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で今までのような病院見学会やインターンシップの開催ができないう中、少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会に参加している。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点があるため、今後も昨年に引き続き養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。	19	○	A	第3期中期計画期間中、令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響で今までのような病院見学会やインターンシップの開催ができないう中、少しでも学生の知りたい情報を提供するため、積極的に説明会に参加している。 看護師確保対策の中でも企業・養成校主催の就職説明会は、看護学生が看護部長や先輩看護師等と直接話ができることから、病院の宣伝だけでなく、看護学生個人が知りたい情報を直接伝えることができる利点があるため、今後も昨年に引き続き養成校主催の説明会へ参加し、現在の学生の動向等をつかむことで、看護師確保に努める。	・就職説明会においては、機構の看護師が直接にコミュニケーションを図ることで看護学生が知りたい情報を把握できるという利点に併せて、採用後のミスマッチの予防にも効果があるものと考えられる。 ・令和元年度以降は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、説明会の中止等が発生しているが、WEBでの説明会開催や養成校のポータルサイトへのPR資料の提供などで看護師確保に努めており、今後も臨機応変な対応が期待される。																																																																																																																																																																																																														
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
ナース専科（静岡）	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
ナースナビ（浜松）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
マイナビ（静岡）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
（沼津）																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
業者計			0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
静岡県立大学	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
常葉大学	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
無縁クリストファー大学	未 定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
順天堂大学	未 定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
養成校計			0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
計			0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
来場者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
業者	1,378	887	226	709	709	0	709																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
養成校	842	997	602	35	35	0	35																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
訪問者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
業者	360	608	64	645	645	0	645																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
養成校	366	357	345	316	316	0	316																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
業者	58	53	3	112	112	0	112																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
養成校	86	64	73	92	92	0	92																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																															
						説明	説明				説明																																																																																																																																																	
(1) 医療従事者の確保・育成 各病院が有する物的・人的資源を活用した研修プログラムを充実させることにより、各病院において臨床研修医や専攻医の確保・育成に取り組むほか、県との協働により、本県の医師確保対策に取り組むこと。また、看護師及びその他の医療従事者の資質向上のため、所有施設を有効活用した研修の充実を図るとともに、看護師養成施設等からの実習生受入れなど、県内の看護師の養成に協力すること。	(1) 医療従事者の確保・育成 県立病院が中心となり、医療技術向上と医師養成の特色のある取組を設け、充実した研修体制を整備し、臨床研修医や専攻医の技能や知識の向上に努めるほか、県との協働による本県の医師確保対策に取り組む。また、県立総合病院のメディカルスキルアップセンターの機能拡充や、県立こども病院のラーニングセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。	(1) 医療従事者の確保・育成 ①研修医に選ばれる良質な臨床研修指定病院としての臨床研修機能の充実 ②地域医療連携推進法人の参画医療機関等との連携による医療従事者の確保 ③医師の技術・知識の向上のための一般研修及び海外研修の充実、海外医師の招聘による研修の充実 ④県立総合病院メディカルスキルアップセンターを活用して、医師、看護師及びその他の医療従事者の教育研修体制の強化に努める。実習生の受入れや職員の派遣などを通じて国内外の医療機関と交流を進める。 ⑤県立こども病院ラーニングセンターの運用 ⑥国際交流の推進 ⑦認定看護師等の資格取得への支援 ⑧看護学生等に対する魅力的な実習の提供 ⑨コメディカル・事務職員の研修	65	各病院（総務） ○医師 ①③医師の技術力の向上を目指し、海外研修等を奨励する。 ①③医師の卒後臨床研修等の強化を図り、県立病院に相応しい医療従事者を確実に確保し、充足させる。 ②No.83	(総合) (総合) 海外研修の実績 (3年度9月末) (単位: 人) <table><tr><th colspan="2">内 容</th><th>人数</th></tr><tr><td rowspan="15">令 元</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td></tr><tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td></tr><tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td></tr><tr><td>29th Congress of the European Society of Surgical Oncology</td><td>2</td></tr><tr><td>第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr><tr><td>ヨーロッパ救急医学会</td><td>1</td></tr><tr><td>チェスト年次会議2019</td><td>3</td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY</td><td>2</td></tr><tr><td>American Pancreatic Assosiation</td><td>3</td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td></tr><tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td></tr><tr><td>ASCVTS2020</td><td>2</td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td></tr><tr><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>18</td></tr><tr><td>令 2</td><td>実績なし</td><td></td></tr><tr><td>令 3</td><td>実績なし</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td>32</td></tr></table> 例年、海外の学会に治療実績等の発表を行い、技術力の高さを示している。海外研修の報告は、院内には定例医局会・院内連絡会で行われており、対外的には研修医募集のホームページに掲載している。 海外での学会発表実績 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>総合</td><td>32</td><td>23</td><td>33</td><td>65</td><td>0</td><td>125</td><td>125</td></tr><tr><td>こども</td><td>32</td><td>22</td><td>31</td><td>31</td><td>3</td><td>11</td><td>23</td></tr></table> 海外研修の主な実績(3年度9月末) (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>内 容</th><th>3年度</th></tr><tr><td rowspan="2">総 合</td><td>臨床研修医UCLA研修</td><td>0</td></tr><tr><td>その他 海外学会</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">こ ころ</td><td>—</td><td>0</td></tr><tr><td>—</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>アメリカ心エコー学会議</td><td>0</td></tr><tr><td>アメリカ胸部外科学会</td><td>0</td></tr><tr><td></td><td>ヨーロッパ小児科学会学術集会</td><td>0</td></tr></table>	内 容		人数	令 元	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	AATS 99th Annual Meeting	2	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	SSAI 2019	3	第31回欧州病理学会	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	ヨーロッパ救急医学会	1	チェスト年次会議2019	3	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2	American Pancreatic Assosiation	3	ANS Kidney Week 2019	2	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	EuroEcho 2019	2	ASCVTS2020	2	第109回 USCAP2020	1	臨床研修医UCLA研修	18	令 2	実績なし		令 3	実績なし		計		32	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	総合	32	23	33	65	0	125	125	こども	32	22	31	31	3	11	23	区 分	内 容	3年度	総 合	臨床研修医UCLA研修	0	その他 海外学会	0	こ ころ	—	0	—	0	こども	アメリカ心エコー学会議	0	アメリカ胸部外科学会	0		ヨーロッパ小児科学会学術集会	0	(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励しているが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により臨床研修医UCLA研修を中止している他、その他海外研修への参加実績もない。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 (こども) 令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、浙江省兒童医院との医師相互研修や、専攻医のオーストラリアウェストメット小児病院における研修を中止している。	—	—	(総合) 毎月、基礎臨床講座を開催し、各指導医から研修医等へ講義を行っているほか、医療英語・海外学会発表研修など臨床研修機能の充実を図っている。 この他、医師の技術力向上を目指し海外研修を奨励しているが、令和2年度及び令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により臨床研修医UCLA研修を中止している他、その他海外研修への参加実績もない。なお、海外研修の実績については、定例医局会等での報告やホームページへの掲載を行っている。 また、海外学会発表を積極的に行っており、技術力の高さを示している。 (こども) 令和元年度は、アメリカ心エコー学会議等に参加実績があったが、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により、浙江省兒童医院との医師相互研修や、専攻医のオーストラリアウェストメット小児病院における研修を中止している。	—	—	・海外での学会発表については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により3件のみであったが、令和3年度はオンライン参加にて積極的に行っており、その成果は院内外での研修講師として共有されるなど医療水準の向上に寄与している。 ・また、海外研修の報告をホームページに掲載し、研修医の募集にあたって病院機構が魅力的な環境であることをPRしている。 ・引き続き、医師の技術力の向上を目指して、海外研修等を奨励する体制を維持していくことが期待される。																																														
内 容		人数																																																																																																																																																										
令 元	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2																																																																																																																																																										
	AATS 99th Annual Meeting	2																																																																																																																																																										
	米国胸部疾患学会2019国際会議	3																																																																																																																																																										
	Jung Conference in Wroclaw 2019	1																																																																																																																																																										
	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1																																																																																																																																																										
	SSAI 2019	3																																																																																																																																																										
	第31回欧州病理学会	1																																																																																																																																																										
	欧州呼吸器学会国際会議2019	3																																																																																																																																																										
	29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2																																																																																																																																																										
	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																																																																																																																										
	ヨーロッパ救急医学会	1																																																																																																																																																										
	チェスト年次会議2019	3																																																																																																																																																										
	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2																																																																																																																																																										
	American Pancreatic Assosiation	3																																																																																																																																																										
	ANS Kidney Week 2019	2																																																																																																																																																										
アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2																																																																																																																																																											
EuroEcho 2019	2																																																																																																																																																											
ASCVTS2020	2																																																																																																																																																											
第109回 USCAP2020	1																																																																																																																																																											
臨床研修医UCLA研修	18																																																																																																																																																											
令 2	実績なし																																																																																																																																																											
令 3	実績なし																																																																																																																																																											
計		32																																																																																																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																					
総合	32	23	33	65	0	125	125																																																																																																																																																					
こども	32	22	31	31	3	11	23																																																																																																																																																					
区 分	内 容	3年度																																																																																																																																																										
総 合	臨床研修医UCLA研修	0																																																																																																																																																										
	その他 海外学会	0																																																																																																																																																										
こ ころ	—	0																																																																																																																																																										
	—	0																																																																																																																																																										
こども	アメリカ心エコー学会議	0																																																																																																																																																										
	アメリカ胸部外科学会	0																																																																																																																																																										
	ヨーロッパ小児科学会学術集会	0																																																																																																																																																										
		④メディカルスキルアップセンターの活用促進を図る。	66	総合	メディカルスキルアップセンター利用状況 (単位: 回、人) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="2">28年度</th><th colspan="2">29年度</th><th colspan="2">30年度</th><th colspan="2">元年度</th><th colspan="2">2年度</th><th colspan="2">3年度9月末</th><th colspan="2">3年度見込</th></tr><tr><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th><th></th><th>うち外部利用</th></tr><tr><td rowspan="2">医師</td><td>開催回数</td><td>54回</td><td>29</td><td>48回</td><td>44</td><td>61回</td><td>31</td><td>77回</td><td>42</td><td>104回</td><td>5</td><td>97回</td><td>5</td><td>194回</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>2,656</td><td>212</td><td>2,713</td><td>197</td><td>2,772</td><td>145</td><td>3,286</td><td>166</td><td>3,498</td><td>16</td><td>2,616</td><td>11</td><td>4,023</td></tr><tr><td rowspan="2">看護師</td><td>開催回数</td><td>104回</td><td>28</td><td>19回</td><td>48</td><td>22回</td><td>32</td><td>28回</td><td>39</td><td>27回</td><td>7</td><td>121</td><td>4</td><td>243</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>3,294</td><td>252</td><td>3,589</td><td>296</td><td>4,474</td><td>237</td><td>5,867</td><td>291</td><td>4,468</td><td>67</td><td>2,147</td><td>27</td><td>4,294</td></tr><tr><td rowspan="2">その他</td><td>開催回数</td><td>15回</td><td>9回</td><td>14回</td><td>11回</td><td>18回</td><td>17回</td><td>31回</td><td>18回</td><td>23回</td><td>11回</td><td>11回</td><td>9回</td><td>22回</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>3,009</td><td>1,526</td><td>2,248</td><td>1,914</td><td>2,569</td><td>1,397</td><td>2,671</td><td>1,122</td><td>1,893</td><td>736</td><td>383</td><td>157</td><td>776</td></tr><tr><td rowspan="2">計</td><td>開催回数</td><td>905</td><td>153</td><td>831</td><td>207</td><td>1,035</td><td>200</td><td>1,373</td><td>267</td><td>1,610</td><td>136</td><td>1,218</td><td>96</td><td>2,424</td></tr><tr><td>参加人数</td><td>8,954</td><td>1,990</td><td>8,580</td><td>2,407</td><td>9,906</td><td>1,779</td><td>11,774</td><td>1,579</td><td>9,819</td><td>819</td><td>4,548</td><td>195</td><td>9,046</td></tr></table>	区 分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度9月末		3年度見込		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用	医師	開催回数	54回	29	48回	44	61回	31	77回	42	104回	5	97回	5	194回	参加人数	2,656	212	2,713	197	2,772	145	3,286	166	3,498	16	2,616	11	4,023	看護師	開催回数	104回	28	19回	48	22回	32	28回	39	27回	7	121	4	243	参加人数	3,294	252	3,589	296	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,147	27	4,294	その他	開催回数	15回	9回	14回	11回	18回	17回	31回	18回	23回	11回	11回	9回	22回	参加人数	3,009	1,526	2,248	1,914	2,569	1,397	2,671	1,122	1,893	736	383	157	776	計	開催回数	905	153	831	207	1,035	200	1,373	267	1,610	136	1,218	96	2,424	参加人数	8,954	1,990	8,580	2,407	9,906	1,779	11,774	1,579	9,819	819	4,548	195	9,046	20	○	A	・メディカルスキルアップセンターは、平成29年度に先端医学棟内に移転し、従来の2.8倍の約332㎡の広さに拡張し、採血等の基本手技、心配蘇生等の救急訓練、内視鏡下手術訓練等の臨床各科に応じたシミュレーター整備など、研修環境の充実が図られて以降、利用件数も増加傾向にある。 ・令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響により研修等がオンライン形式で開催されているため、利用者数が減少する見込みであるが、一定程度の利用者数は確保されており、現場に即した実践的な研修が提供されている。 ・令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により研修会等がオンライン形式で実施されており、利用者数は減少する見込みである。 今後も外部利用の拡大に努める。	—	—	・令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の影響により外部主催の研修会等が開催中止となったが、開催回数全体は増加しており、現場に即した実践的な研修が提供されている。 ・静岡市医師会と連携した地域医療従事者向けの研修会の開催など、充実した研修施設が外部利用として地域に還元されている。
区 分	28年度		29年度		30年度		元年度		2年度		3年度9月末		3年度見込																																																																																																																																															
	うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用		うち外部利用																																																																																																																																															
医師	開催回数	54回	29	48回	44	61回	31	77回	42	104回	5	97回	5	194回																																																																																																																																														
	参加人数	2,656	212	2,713	197	2,772	145	3,286	166	3,498	16	2,616	11	4,023																																																																																																																																														
看護師	開催回数	104回	28	19回	48	22回	32	28回	39	27回	7	121	4	243																																																																																																																																														
	参加人数	3,294	252	3,589	296	4,474	237	5,867	291	4,468	67	2,147	27	4,294																																																																																																																																														
その他	開催回数	15回	9回	14回	11回	18回	17回	31回	18回	23回	11回	11回	9回	22回																																																																																																																																														
	参加人数	3,009	1,526	2,248	1,914	2,569	1,397	2,671	1,122	1,893	736	383	157	776																																																																																																																																														
計	開催回数	905	153	831	207	1,035	200	1,373	267	1,610	136	1,218	96	2,424																																																																																																																																														
	参加人数	8,954	1,990	8,580	2,407	9,906	1,779	11,774	1,579	9,819	819	4,548	195	9,046																																																																																																																																														
		⑤ラーニングセンターの運用手順を定め、活用の促進を図る。	67	こども	後期研修医を募集するセミナー、新生児の蘇生講習会及び新人看護師を対象とした点滴ルート確保の実習等で利用していたが、リニューアル工事の影響で令和2年度末まで使用を一時休止したが、それ以降も工事等の影響で休止している。 平成30年度にラーニングセンター運営検討部会を立ち上げ、利用実態の詳細な把握や今後の有効な活用方法について検討している。 ラーニングセンター利用状況 (単位: 件) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>利用件数</td><td>21</td><td>12</td><td>33</td><td>13</td><td>0</td><td>10</td><td>15</td></tr></table> ※各年度とも正確な研修実施回数の集計はできていない。 ※令3はラーニングセンターが使用中のため、代替施設(病室等)での研修回数を記載。	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	利用件数	21	12	33	13	0	10	15	B	△	B	新型コロナウイルス感染症対策のための診療材料置き場として、当面の間、ラーニングセンターを仮設倉庫として使用することとなったため、会議室や空病室を活用して実習等の研修を再開した。 令和3年度は、病棟再編が進行しているため、これまで検討していた旧手術室からより最適な場所をマスタープランとの整合性を図りつつ再検討している。 実習等の研修環境整備については、引き続き検討を続けており、暫定対応として、シミュレーションは空病床で実施、講義は会議室の有効活用を図る方向で必要な研修を実施することとしている。 ・ラーニングセンターにおける研修機能の集約化を目指し、平成30年度に運営検討部会を通じて、院内の研修実施状況の調査・把握、問題点の洗い出し、運用手順の策定等を進めてきた。 ・各病棟や会議室等で実施されていた研修をラーニングセンターに集約する方向で検討を進めていたが、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、ラーニングセンターの使用を一時休止する事態となっていた。 ・令和3年度中には利用を再開できる見込みであったが、コロナ対策物品の仮設倉庫として使用することとなり、再開が見送られることとなった。現在は病棟再編ワーキングの中で、ラーニングセンターの設置場所について検討を行っている。 ・一時休止中の間は、各病棟内や会議室等を活用して研修を実施しているが、院内研修センターに集約し研修環境を改善するという改善の方向性を途切れさせることなく、引き続き検討していくことが求められる。	20	—	旧手術室であるラーニングセンターについては、劣化改修や施設配置再編を中心とする本館リニューアル工事の影響で、令和2年度末まで仮設倉庫として使用し、引き続き、令和3年7月まで、北館5階改修工事中の備品置場として使用していた。 令和3年8月から、ラーニングセンターとして再開する予定であったが、患者家族の食事スペースを確保するため、同スペースに仮置きしていたコロナ対策物品の仮設倉庫として使用することとした。 そこで、従来のラーニングセンターにこだわることなく、院内の会議室や空病室を活用して実習等の研修を再開した。 令和3年度は、病棟再編が進行しているため、これまで検討していた旧手術室からより最適な場所をマスタープランとの整合性を図りつつ再検討している。実習等の研修環境整備については、引き続き検討を続けており、暫定対応として、シミュレーションは空病床で実施、講義は会議室の有効活用を図る方向で必要な研修を実施することとしている。																																																																																																																																
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																					
利用件数	21	12	33	13	0	10	15																																																																																																																																																					

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)		令和3年度実績(暫定) 自己評価	県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 (第3期暫定評価)	
										説明				説明		
						75	本部・各病院（総務・企画）	総合病院では、総務省無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、令和2年度に院内携帯電波不感知対策工事を実施した。また、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟を開業した。 院内保育所については、保育所運営協議会において、事務局、委託先、利用者間の意見交換を行い、院内保育所入所者を対象にインフルエンザ予防接種を実施した。 こころの医療センターでは、令和2年度に職員も利用するエレベーター4台の改修を実施し、既存不適格を解消した。 こども病院院内保育所の建替工事については、平成31年3月に竣工し平成31年4月より運用開始した。 また、ランドリーを移転し、令和2年3月にコンビニエンスストアを導入した。	A	総合病院では、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟を開業した。 こころの医療センターでは、今後、研修医の受入のための医局整備を計画しており、就労環境の改善を進めている。 こども病院では、始業時にリクエストのあったBGMを院内放送することで、職員のモチベーション確保に努めている。 各病院では、医師、看護師等の新型コロナウイルス感染症及び医療事故への対応、その他こころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させ、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。 看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 引き続き、院内施設の充実を図り、就労環境の向上に取り組んでいく。	・職員の就労環境の向上に向けた院内施設の充実に取り組んでいる。 ・施設整備だけでなく、院内保育所入所者向けのインフルエンザ予防接種の実施など、ソフト面での対応も行っており、今後も職員家族にも配慮した就労環境向上の取組が期待される。 ・令和元年度から供用開始したこども病院の院内保育所は、二重保育や病後児保育などの新たな保育サービスに対応しており、利用者数の段階的な増加に向けて、職員への広報や利用の働きかけなど、有効な活用に向けた取組が期待される。 ・また、新型コロナウイルス感染症や医療事故への対応等に当たり、精神科医による医師・看護師等へのこころのケアに努めており、安心して働くことのできる職場づくりにも取り組んでいる。 ・令和3年9月には総合病院でカフェ棟が開業し、職員が気軽に休憩・交流できるスペースができたことで、職員の士気向上に寄与することが期待される。	21	○	A	総合病院では、令和2年度に総務省の無線システム普及支援事業への補助金交付申請を行い、院内携帯電波不感知対策工事を実施した。また、敷地内保険調剤薬局等整備事業において、令和3年9月にカフェ棟を開業した。令和4年4月には薬局・レストラン棟を開業予定である。今後も、職員を含む病院利用者の利便性や満足度を高めるための取組を行う。 こころの医療センターでは、エレベーターを現行の建築基準法基準に則した設備に改修し、職員の就労環境の改善及び安全性の向上を図った。今後、研修医の受入のための医局整備を計画しており、就労環境の改善を進めている。 こども病院では、令和元年度に新園舎の運用を開始するとともに、導入したコンビニエンスストアにより、院内施設の充実を図っている。 また、令和2年度から始業時にリクエストのあったBGMを院内放送することで、職員のモチベーション確保に努めている。 各病院では、医師、看護師等の新型コロナウイルス感染症及び医療事故への対応、その他こころの悩みに対し精神科医師によるケアを充実させ、安心して働くことのできる職場環境改善に努めている。 看護師等が離職することを防止するため、こころのケアだけでなく体力低下で看護業務へ支障を来さないよう日常生活相談を含め、心身に対するきめ細かい対応を行い、長期に渡り勤務できる環境を整える取組を行っている。 引き続き、院内施設の充実を図り、就労環境の向上に取り組んでいく。	・期間を通じて、職員の就労環境の向上に向けた院内施設の充実に取り組んでいる。 ・令和元年度から供用開始したこども病院の新しい院内保育所は、定員の増員や、4歳から未就学児への対象年齢の引上げ、二重保育や病後児保育などの新たな保育サービスへの対応を実施しており、職員の就労環境の向上を図っている。 ・利用者数の段階的な増加に向けて、職員への広報や利用の働きかけなど、有効な活用に向けた取組が期待される。 ・総合病院の院内保育所運営協議会では、利用率の低下が課題として挙げられており、従来医師・看護師のみを対象としていた入所基準等について、令和2年度から、有期コメディカルや正規事務職員へ利用を拡大した。 ・また、新型コロナウイルス感染症や医療事故への対応等を受けて、精神科医による医師・看護師等へのこころのケアに努めており、安心して働くことのできる職場づくりにも取り組んでいる。
						76		総合・こども	⑤院内保育の活用を図る。	A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、令和3年11月、12月には院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種を実施予定である。 こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和3年度は45人を上限に稼働し、今後段階的に増員する予定である。 現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行うことにより、今後、産育休復帰職員の利用が増加し、稼働率は上昇すると見込む。			A	各病院の院内保育所では、育児をしながら勤務する医師や看護師の就労環境の向上のため、保育メニュー等の更なる充実に努めている。 総合病院では、二重保育や夜間保育、土日預かり等の多様なメニューを揃え、子育てしながら働きやすい環境を引き続き提供できている。幼保無償化の影響により入所者数が減少しているため、有期コメディカル・正規事務の入所を開始した。また、院内保育所利用者を対象としたインフルエンザ予防接種も実施している。 こども病院では、令和元年度から新保育所の運用を開始しており、二重保育や病後児保育など新たな保育サービスに対応している。令和3年度は45人を上限に稼働し、今後段階的に増員する予定である。 現状、定員に対し利用者数に開きがあるが、広報誌の発行や、看護部を通じた産育休取得者への働きかけ等を行うことにより、今後、産育休復帰職員の利用が増加し、稼働率は上昇すると見込む。	

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)
							説明	説明						
(2) 診療等の情報の活用 診療等を通じて得られる情報を県立病院で提供する医療の質の向上のために活用するとともに、他の医療機関へ情報提供すること。	(2) 診療等の情報の活用 診療録等医療情報の電子化や管理機能の充実を図り、科学的根拠を集積・分析し、カンファレンス、臨床研修、臨床研究等において活用し、医療の質の向上を図る。また、学会、講習会、研究会等へ情報発信しやすい体制を整備する。	(2) 診療等の情報の活用 ①診療情報等の分析のできるシステムの活用	79	-	総合	①DPCの診療情報に基づく症例分析を行う。	DPCコーディング部会開催実績 (単位：回、人)	A	23	○	A	DPCデータの分析結果を元に、医局会においてDPC入院期間Ⅱ以内の退院状況や副傷病名の付与率等を報告するとともに、DPCコーディング部会における議論等により平均在院日数の短縮やDPCコーディングの適正化に努めている。	・平成30年度より、DPC 分析ソフト「girasol(ヒラソル)」を導入し、医局会資料として、DPCの算定式における入院期間Ⅱ(全国のDPC参加等病院の平均在院日数)以内の退院実施率等について、毎月報告を行っている。 ・レセプト請求のコーディングチェックによる請求漏れ対策としても活用しており、また、クリニカルパスのベンチマークデータとして活用することも増えるなど、診療情報の病院運営への活用が図られている。	
						①DPCの診療情報を分析し、診療ヘフィードバックを行う。また、職員の分析にかかるスキルアップに努める。	D P Cデータの分析結果を診療へ活かすとともに適切なコーディングを周知するため、D P C 部会兼コード検討委員会を開催した。 D P C部会兼コード検討委員会開催実績 (単位：回、人)	A	23	○	A	早期のデータ入力を継続して促し適切なコーディングを行うことで診療報酬を漏れなく請求することができている。原価計算システムの運用については、医事システムに入っている経営分析に与するシステムとともに経営分析に効率的に反映できるよう、院内経営戦略会議にて活用方法を調整している	・平成24年度からDPC分析ソフト「girasol(ヒラソル)」を導入し、小児専門病院間で分析結果のベンチマークを行い、結果は全国こども病院診療情報管理研究会で報告するなど、他の医療機関への情報提供に努めている。 ・また、レセプト提出前にコーディングデータのチェックを行い、診療報酬請求の精度向上に活用している。 ・診療科毎にDPCコーディングの検証や機能評価係数Ⅱの分析を行い、年4回の開催が義務づけられているコーディング委員会にて結果を報告しているほか、ジェネリック率や各種診療行為件数等の学会や管理会議報告データ集計、令和2年度診療報酬改定の影響にかかる検証等を実施するなど、診療情報の病院運営への活用が図られている。	
			80		こども									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																								
						説明	説明																																																																														
4 医療に関する地域への支援 本県の地域医療の確保のため、県立病院がその支援に大きな役割を果たし、信頼され、必要とされる病院であり続けるよう努めること。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	4 医療に関する地域への支援 地域医療を確保するための支援の中心的機能を果たすため、県立病院が有する医療資源を積極的に活用するなど、積極的な支援を進める。	—	—	—	—	—				—	—																																																																									
(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力し、医師不足の公的医療機関に対し医師派遣を行うこと。また、他の医療機関から紹介された患者の受入れ及び患者に適した医療機関の紹介を積極的に行うこと。さらに、高度医療機器の共同利用の促進、ICTを活用した他の医療機関等との医療情報の共有など、地域医療の確保への支援を一層推進すること。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 県が策定する医師確保計画の推進に協力する。 県立病院の医師の増員及び育成を図り、地域医療を支える県内医療機関への医師派遣の充実に取り組む。また、ICTを活用した医療連携、遠隔診断のネットワークづくりや、高度医療機器などの共同利用を推進し、県立病院の施設、設備や機能について地域への開放を進める。	(1) 地域の医療機関等との連携・支援 ①県の医師派遣事業への協力 ②地域医療連携推進法人制度を活用し、地域医療構想推進を支援 ③「ふじのくに地域医療支援センター」機能の一部である医師就労などの効率的な運営 ④県内病院への常勤幹部医師の配置 ⑤専門医制度への対応 ⑥医療機器の共同利用の推進 ⑦ICT技術を活用した地域医療機関等との連携及び支援	—	—	—	—	—				—	—																																																																									
			81	本部（総務） 総合・こども	①②④地域医療支援病院としての使命を果たすため、医師を確保したうえで、医師不足が顕著な公的病院に医師を派遣する。 ①⑥⑦地域医療連携推進法人制度などを活用して、地域の公的医療機関と連携し、県の地域医療構想推進を支援することにより、地域において質が高く効率的な医療提供体制を構築する。 医師定数（各年度4月1日現在）（単位：人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th></tr><tr><td>定数</td><td>233</td><td>269</td><td>271</td><td>283</td><td>314</td><td>315</td></tr></table> (総合) 医師派遣実績（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td rowspan="3">総 合</td><td>医療機関等</td><td>9</td><td>8</td><td>8</td><td>9</td><td>9</td><td>6</td></tr><tr><td>診療科</td><td>6</td><td>9</td><td>9</td><td>11</td><td>11</td><td>11</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>570</td><td>577</td><td>513</td><td>752</td><td>687</td><td>280</td></tr></table> (こども) 静岡市立静岡病院、焼津市立総合病院、藤枝市立総合病院、島田市民病院、中東遠総合医療センター、吉原林間学園診療所に医師を派遣した。また、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣した。 医師派遣実績（公的病院等）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>医療機関等</td><td>6</td><td>7</td><td>5</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td><td>7</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>3</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>1078</td><td>803</td><td>202</td><td>282</td><td>277</td><td>156</td><td>312</td></tr></table> ※平成29年度までは後期研修医の派遣も含まれている。平成30年度からは小児科専攻医制度の制度変更に伴い、退職扱いの派遣となった。（平成29年度までと同様の算出であれば令和3年度上半期実績は888人、令和3年度見込は1,772人となる）	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	定数	233	269	271	283	314	315	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	総 合	医療機関等	9	8	8	9	9	6	診療科	6	9	9	11	11	11	延人員数	570	577	513	752	687	280	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	医療機関等	6	7	5	7	7	7	7	診療科	2	2	2	2	3	3	3	延人員数	1078	803	202	282	277	156	312	A 県立病院としての役割を果たすため、継続的に医師確保に努めている一方、医師不足が顕著な公的病院等については医師を派遣している。 令和3年4月7日、静岡県知事より、県内初の地域医療連携推進法人となる「ふじのくに社会健康医療連合」の認定を受け、当院、桜ヶ丘病院、静岡社会健康医学大学院大学の3法人が参画している。静岡市内の救急医療を支援するため、総合病院から桜ヶ丘病院に対して医師派遣を行っている。 (総合) 医療機関等に対しては、桜ヶ丘病院、島田市立総合医療センター、富士宮市立病院、伊豆赤十字病院、佐久間病院、川根本町いやしの里診療所の計6箇所に医師派遣を行った。 (こども) 県内の7医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。 ・医師不足のために診療科の休・廃止を余儀なくされ、自助努力では医師確保が困難な公的医療機関に対して、確保した医師を診療科内の努力により緊急避難的措置として派遣することで、必要な診療部門の確保など、地域の医療提供体制維持に貢献している。 ・県の医師確保対策としての補助による派遣以外にも、地域医療支援病院として自主派遣を行っている。 ・令和3年度に地域医療連携推進法人として認定され、桜ヶ丘病院への医師派遣数を増加させており、清水区における救急医療体制の維持に寄与している。 ・同じく連携推進法人に参画する静岡社会健康医学大学院大学とも連携し、ふじのくに地域医療支援センターの業務のうち、「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金被貸与者の勤務先病院の決定支援」等の業務を受託し、臨床経験豊富な専任医師を配置し、被貸与者との面談等を実施し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。	24	○	A 県立病院としての役割を果たすため、医師確保に努めるとともに、医師不足が顕著な公的病院等に医師を派遣している。 また、医師確保や派遣を行い地域医療を支えるため、県内初の地域医療連携推進法人となる「ふじのくに社会健康医療連合」を立ち上げた。今後も、質の高い地域医療の実現のため、参画法人との協働による医師確保や法人間の人事交流、共同研究等を推進する予定である。 (総合) 県内における地域医療を支援するため、今後も公的病院や再検証病院を中心に医師派遣を実施する。 (こども) 県内の7医療機関等に医師を派遣し、県内各地の地域医療を支援している。また、公的病院だけでなく、県の要請に基づき、重症心身障害児施設にも医師を派遣し、地域貢献を果たしている。小児科医が不足する医療機関からの派遣要請には可能な限り対応していく必要があり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。今後も継続して対応する見込みである。 ・医師不足のために診療科の休・廃止を余儀なくされ、自助努力では医師確保が困難な公的医療機関に対して、確保した医師を診療科内の努力により緊急避難的措置として派遣することで、必要な診療部門の確保など、地域の医療提供体制維持に貢献している。 ・県の医師確保対策としての補助による派遣以外にも、地域医療支援病院として自主派遣を行っている。 ・令和3年度に地域医療連携推進法人として認定され、桜ヶ丘病院への医師派遣数を増加させており、清水区における救急医療体制の維持に寄与している。 ・同じく連携推進法人に参画する静岡社会健康医学大学院大学とも連携し、ふじのくに地域医療支援センターの業務のうち、「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金被貸与者の勤務先病院の決定支援」等の業務を受託し、臨床経験豊富な専任医師を配置し、被貸与者との面談等を実施し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度																																																																															
定数	233	269	271	283	314	315																																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																														
総 合	医療機関等	9	8	8	9	9	6																																																																														
	診療科	6	9	9	11	11	11																																																																														
	延人員数	570	577	513	752	687	280																																																																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																														
医療機関等	6	7	5	7	7	7	7																																																																														
診療科	2	2	2	2	3	3	3																																																																														
延人員数	1078	803	202	282	277	156	312																																																																														
			82	こども	①小児1次救急医療への応援を行う。 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣した。 医師派遣実績（急病センター）（単位：機関、科、人） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>医療機関</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>診療科</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>延人員数</td><td>295</td><td>294</td><td>218</td><td>214</td><td>197</td><td>85</td><td>170</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	医療機関	2	2	2	2	2	2	2	診療科	2	2	2	2	2	2	2	延人員数	295	294	218	214	197	85	170	A 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。各センターからの要請自体が減少しているため、派遣延べ人数は年々減少しているが小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。				24	○	A 静岡市急病センター、志太榛原地域救急医療センターへ継続的に医師を派遣し、地域の小児1次救急医療を支援している。各センターからの要請自体が減少しているため、派遣延べ人数は年々減少しているが小児1次救急医療の成立のため、派遣要請には可能な限り対応していく方針であり、働き方改革への対応とのバランスをとりながらも要請には全て応えている。																																									
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																														
医療機関	2	2	2	2	2	2	2																																																																														
診療科	2	2	2	2	2	2	2																																																																														
延人員数	295	294	218	214	197	85	170																																																																														
			83	本部（企画）	③静岡社会健康大学院大学と連携して、医師の配置調整など「ふじのくに地域医療支援センター」業務を支援する。 『ふじのくに地域医療支援センター』の機能の一部業務である「県内での勤務を希望する医師および研修医の就業・キャリア形成等の相談」、「静岡県医学修学研修資金被貸与者の勤務先病院の決定支援」の業務を受託し、県内医師確保のための役割の一部を担っている。 配置調整医師数及び県内勤務開始者数（機構担当分）（単位：名） <table><tr><th>勤務開始年度</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>配置調整医師数</td><td>34</td><td>64</td><td>64</td><td>76</td><td>108</td><td>125</td><td>125</td></tr><tr><td>うち県内勤務医師数</td><td>22</td><td>41</td><td>39</td><td>47</td><td>71</td><td>87</td><td>85</td></tr></table> ※配置調整は各前年度となる。	勤務開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	配置調整医師数	34	64	64	76	108	125	125	うち県内勤務医師数	22	41	39	47	71	87	85	A 静岡社会健康大学院大学と連携して、県の医師確保施策に寄与できるよう努めた。					A 業務を受託し、県の医師確保施策に寄与できるよう努めてきた。令和3年4月以降は静岡社会健康大学院大学と連携して業務に当たっている。																																																		
勤務開始年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																														
配置調整医師数	34	64	64	76	108	125	125																																																																														
うち県内勤務医師数	22	41	39	47	71	87	85																																																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																								
						説明	説明																																														
			84	⑤専攻医を受け入れる体制を整備し、専攻医の募集を行う。	各病院 (総合) 令和3年4月、21名が専門研修プログラムに所属し、研修を開始した。新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、当院ホームページにプログラム説明動画を公開のうえ専門研修プログラムの魅力を発信した。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こころ) 令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では20人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めている。 (こども) 平成29年度から新制度に準じて実施された小児科専門医制度の基幹研修施設として、新制度に則った研修を実施している。	A	(総合) 19領域中10領域の専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開し、プログラムの魅力が伝わるような募集を行っている。また、オンライン会議システムを利用し、面談を行うなど専攻医確保に努めている。 (こころ) 令和3年度は、4人の専攻医を受け入れ、病院見学では20人を受け入れるなど、専攻医の確保に努めている。今後、令和4年度の専攻医募集のため、病院紹介の動画をホームページに掲載し、広報活動を行っていく。 (こども) 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行っている。今後も継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めている。		25	○	A	(総合) 今後も専攻医確保に向けてホームページにプログラム説明動画を公開するとともに、オンライン会議システムを活用した面談を実施するなど、継続してプログラムの魅力が伝わるような募集を行うよう努める。 (こころ) 募集に当たっては、新専門医制度における専攻医研修プログラムを提供している。積極的な専攻医の募集と受入を行った結果、令和元年度から令和3年度までに専攻医7人の受入を行っており、専攻医の確保や、県内の専門医育成に寄与している。 (こども) 小児科専攻医研修の基幹研修施設として、県中東部の連携施設10病院と作成した日本小児科学会の承認を受けたプログラムをもとに指導を行っている。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により十分受け入れられていなかったものの、令和3年度は受入れ人数が増加しており、今後も新型コロナウイルス感染症の感染状況に応じて対面、もしくはオンラインでの説明会開催等を行い、継続してプログラムの周知等を行い、専攻医の確保に努めていく。	・新専門医制度の開始以降、各病院で研修プログラムを作成し受入体制を整備するとともに、院内外研修医・学生に向けたプログラム説明会の開催や、首都圏等のレジナビへの参加、PR動画の作成など、積極的なPR活動を通じて、専攻医の確保に努めている。 ・各病院の研修プログラムにおいては、充実した医療施設・設備のもと、専門医・指導医による指導体制を構築するとともに、他診療科とのチーム医療も研修できるよう配慮するなど、充実を図っている。 ・大都市圏への専攻医の集中は制度的な要因も大きく、今後、シーリング(募集定員の上限)による地方への専攻医の分散等の影響も見据え、地域の連携病院との協力のもと、専攻医にとって魅力的な指導体制と研修プログラムを確保し、積極的な採用活動のもと、地域医療にも貢献する専攻医を安定的に確保できるよう努めることが期待される。																																								
			85	⑥地域の医療機関向けにCT・MRIの地域支援検査枠を増設し、共同利用件数の向上を図る。	総合 地域における医療機器の効率的な活用のため、CT・MRIの共同利用に取り組んでおり、地域医療の支援に貢献している。市内他施設における機器整備が進められており、共同利用件数は減少傾向である。 <table><caption>CT、MRI 共同利用 (単位: 件)</caption><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度9 月</th><th>3 年度見込</th></tr><tr><td>CT</td><td>919</td><td>847</td><td>896</td><td>881</td><td>659</td><td>370</td><td>738</td></tr><tr><td>MRI</td><td>621</td><td>543</td><td>586</td><td>595</td><td>472</td><td>266</td><td>531</td></tr><tr><td>CT(撮影のみ)</td><td>6</td><td>2</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>MRI(撮影のみ)</td><td>129</td><td>131</td><td>24</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度9 月	3 年度見込	CT	919	847	896	881	659	370	738	MRI	621	543	586	595	472	266	531	CT(撮影のみ)	6	2	1	0	0	0	0	MRI(撮影のみ)	129	131	24	1	0	0	0	A	令和3年度のCT・MRI共同利用件数は、今年度改めて協定を締結した桜ヶ丘病院を中心に、令和2年度を上回る利用実績が見込まれる。				A	CT・MRI共同利用件数については、市内他病院の機器整備が進んでおり、利用実績の大幅な増加はないと考えられるが、今後は令和3年度に協定を締結した桜ヶ丘病院による利用実績が増加する見込みである。	・CT・MRIの共同利用件数は市内他病院の機器整備が進んだ影響により、減少傾向であるが、令和3年度に桜ヶ丘病院と新たに協定を締結するなど、積極的な共同利用に努めている。 ・地域医療を支援する中心的機能を担う立場から、引き続き、病病連携・病診連携等の相互連携の推進に努めることが期待される。
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度9 月	3 年度見込																																														
CT	919	847	896	881	659	370	738																																														
MRI	621	543	586	595	472	266	531																																														
CT(撮影のみ)	6	2	1	0	0	0	0																																														
MRI(撮影のみ)	129	131	24	1	0	0	0																																														
			86	⑦ふじのくにねっとを活用し、地域の病院・診療所・調剤薬局・訪問看護ステーションとの連携を強化する。 ・ふじのくにパーチャル・メガ・ホスピタル協議会の運営を維持する。	総合 地域医療連携推進事業費補助金を活用し、ふじのくにねっと参加施設の新規システム構築及び機器更新を実施している。 また、令和2年3月、地域医療情報連携ネットワークにおける同意取得方法に関する厚生労働省通知を受け、患者への参加同意取得手続等の運用の見直しを進めている。	A	令和3年度は、補助金を活用し、2病院の新規システム構築及び更新を進めている。 また、ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化することを理事会で方針として採択し、先進事例の共有等の取組を推進している。	・県はふじのくにねっと支援のため、平成28年度からシステム整備費用を助成しており、令和元年度からは新たに、賀茂地域などの過疎地域等の病院から圏域をまたいだ基幹病院への救急患者搬送にふじのくにねっとを有効に活用する目的で、地域を限定し補助率を嵩上げた補助制度を導入した。 ・協議会事務局である総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する当ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。				A	補助金を活用し、参加施設の新規システム構築及び機器更新を着実に進めている。 また、理事会では、ネットワーク全体で病病・病診連携における積極開示をルール化する方針が採択され、今後は先進事例の共有等の取組を推進する。	・県はふじのくにねっと支援のため、平成28年度からシステム整備費用を助成しており、令和元年度からは新たに、賀茂地域などの過疎地域等の病院から圏域をまたいだ基幹病院への救急患者搬送にふじのくにねっとを有効に活用する目的で、地域を限定し補助率を嵩上げた補助制度を導入した。 ・協議会事務局である総合病院においては、県内各医療圏の地域性や医療機関の特性に幅広く対応する当ネットワークの効果的な運用体制を引き続き確保するとともに、参画医療機関に対する適切な運用支援等が期待される。																																							
			87	⑦国内外の医療機関との映像情報システムを用い、カンファレンス等を実施する。	こども 小児医療ネットワークを通じて、浜松医科大学等との合同カンファレンスやマレーシア国立循環器病センター (IJN) との接続試験を兼ねた症例検討会を定期的に実施している。他医療機関(4施設)と連携し、例年心エコー画像遠隔診断を実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により症例数が減少し、実施できていなかったが、令和3年度は再開している。 <table><caption>心エコー画像遠隔診断実績 (単位: 件)</caption><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2 年度</th><th>3 年度9 月末</th><th>3 年度見込</th></tr><tr><td>症例数</td><td>5</td><td>7</td><td>5</td><td>3</td><td>0</td><td>1</td><td>3</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度9 月末	3 年度見込	症例数	5	7	5	3	0	1	3	A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを定期的には実施したが、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスは定期的には実施している。 また、例年実施している沼津市立総合病院など4医療機関との心エコー画像遠隔診断について、令和3年度、実施を再開しており、医療機関からの相談については、引続き映像情報を活用して応じている。	・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院を連携機関として実施しており、令和2年度は対象症例がなかったが令和3年度は令和元年度並に実施見込み。また、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じて、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元に努めている。				A	小児循環器科専門医研修施設として、浜松医科大学等との映像情報を通じたカンファレンスを定期的には実施したが、マレーシア国立循環器病センターともカンファレンスは定期的には実施している。 また、例年実施している沼津市立総合病院など4医療機関との心エコー画像遠隔診断について、令和3年度、実施を再開しており、医療機関からの相談については、引続き映像情報を活用して応じている。	・心エコー遠隔診断については、順天堂静岡病院、富士宮市立病院、沼津市立病院、藤枝市立病院を連携機関として実施しているほか、診断がなくとも、各医療機関からの相談に応じるなど、ICT技術を通じた、こども病院における高度専門医療技術・知見の地域等への還元に努めている。																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2 年度	3 年度9 月末	3 年度見込																																														
症例数	5	7	5	3	0	1	3																																														

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																													
						説明					説明																																															
(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 鑑定、調査、講師派遣など社会的な要請に対し、県立病院が有する人材や知見を積極的に提供し、県内の医療従事者の養成に貢献すること。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請に対し、引き続き柔軟に対応していくほか、医療従事者が他の機関・団体における研修や研究等の活動に参画しやすい体制づくりに取り組む。また、院内研修等の教育研修を県内の医療従事者へ積極的に開放していく。	(2) 社会的な要請への協力及び知識や技術の普及 ①公的機関からの医療に係る鑑定や調査、講師派遣等の社会的な要請への対応 ②学会や研修会等へ積極的に参加できる仕組みづくり ③認定看護師等の資格保有者の活用 ④県内の医療従事者への教育研修機能の開放	—	—	—	—	—				—	—																																														
			88	総合	拡大がんセンターボード実績 <table><tr><td>区分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>回数</td><td>6回</td><td>6回</td><td>6回</td><td>5回</td><td>3回</td><td>1回</td><td>2回</td></tr><tr><td rowspan="3">参加人数</td><td>院内</td><td>160</td><td>153</td><td>194</td><td>178</td><td>73</td><td>37</td></tr><tr><td>院外</td><td>172</td><td>128</td><td>162</td><td>108</td><td>49</td><td>17</td></tr><tr><td>合計</td><td>332</td><td>281</td><td>356</td><td>286</td><td>122</td><td>54</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	回数	6回	6回	6回	5回	3回	1回	2回	参加人数	院内	160	153	194	178	73	37	院外	172	128	162	108	49	17	合計	332	281	356	286	122	54	B			がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催回数及び参加人数を制限して開催した。		B	がん診療部主催の拡大がんセンターボード(多職種カンファレンス)では、がん症例の診断や治療方法等について、院内外の多職種による包括的な議論が行われている。 令和元年度より、新型コロナウイルス感染症を考慮し、開催回数及び参加人数を制限して開催しているが、通常は年6回開催している。								
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																			
回数	6回	6回	6回	5回	3回	1回	2回																																																			
参加人数	院内	160	153	194	178	73	37																																																			
	院外	172	128	162	108	49	17																																																			
	合計	332	281	356	286	122	54																																																			
			89	総合	講師派遣実績 (単位:件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>医師</td><td>62</td><td>51</td><td>43</td><td>56</td><td>58</td><td>45</td><td>67</td></tr><tr><td>その他</td><td>4</td><td>31</td><td>40</td><td>38</td><td>34</td><td>19</td><td>28</td></tr><tr><td>計</td><td>66</td><td>82</td><td>83</td><td>94</td><td>92</td><td>68</td><td>95</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	医師	62	51	43	56	58	45	67	その他	4	31	40	38	34	19	28	計	66	82	83	94	92	68	95	A			他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を積極的に派遣している。令和3年度は、令和2年度実績と同数程度になる見込みである。		A	他団体等が主催する講演会の講師として、医師や認定看護師を積極的に派遣している。派遣実績は、年間90件程度で推移している。														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																			
医師	62	51	43	56	58	45	67																																																			
その他	4	31	40	38	34	19	28																																																			
計	66	82	83	94	92	68	95																																																			
			90	こころ	院外講演会講師派遣状況(医師) (単位:回) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>18</td><td>18</td><td>21</td><td>22</td><td>4</td><td>8</td><td>10</td></tr></table> 院外講演会講師派遣状況(看護師) (単位:回) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>派遣回数</td><td>32</td><td>28</td><td>26</td><td>33</td><td>17</td><td>17</td><td>28</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	派遣回数	18	18	21	22	4	8	10	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	派遣回数	32	28	26	33	17	17	28	A			新型コロナウイルス感染症の影響もある中で、WEBを活用しつつ 他団体等が主催する講演会の講師やアドバイザーとして医師や看護師を派遣する等、積極的な地域支援を行い、前年度より派遣回数が増加している。 ・多職種の医療チームが参加してがんの症例検討を行う「拡大がんセンターボード」、他団体等主体の講演会への講師派遣、医療観察法に基づく鑑定対応、子どもの心の診療ネットワーク事業における静岡県の拠点病院としての診療支援・研修事業など、地域の医療従事者の養成への貢献や県立病院としての社会的役割に応じた取組が行われており、病院機構の有する高度・専門医療の技術や知見が積極的に地域に共有・還元されている。 ・新型コロナウイルスの影響をうけて、中止となった講演等もあるが、WEBの活用などにより、令和3年度実績は令和2年度実績を上回る見込みとなっており、講師派遣依頼に対し、機構として適切に対応している。		A	令和元年度は医師及び看護師の派遣件数が前年度より増加していたものの、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で講演会が中止となったこともあり、令和2年度は件数が減少している。令和3年度には回復傾向となっており、今後も感染状況を踏まえつつ、積極的な地域への支援を行っていく。														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																			
派遣回数	18	18	21	22	4	8	10																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																			
派遣回数	32	28	26	33	17	17	28																																																			
			91	こころ	医療観察法の鑑定医として協力するなど、積極的な対応を図っている。 医療観察法による鑑定入院受入実績 (単位:件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>こころ</td><td>9</td><td>12</td><td>4</td><td>5</td><td>10</td><td>5</td><td>10</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	こころ	9	12	4	5	10	5	10	A	26	○	令和3年度は医療観察法に係る鑑定について5件の受入を行っており、前年度実績並となる見込みである。		A	県内精神医療の中核病院として、医療にかかる鑑定等の要請への協力などに積極的な対応を行い、県内の精神医療における地域の中核を担う役割に努めている。																														
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																			
こころ	9	12	4	5	10	5	10																																																			
			92	こども	精神保健講座等開催実績 <table><tr><td rowspan="2">区分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td><td>精神保健(児童養護)</td></tr><tr><td rowspan="2">対象</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td><td>こども</td><td>県内小中</td></tr><tr><td>5回</td><td>10回</td><td>5回</td><td>11回</td><td>5回</td><td>10回</td><td>5回</td></tr><tr><td rowspan="2">参加者数等</td><td>135人</td><td>10施設</td><td>136人</td><td>11施設</td><td>138人</td><td>10施設</td><td>96人</td></tr><tr><td>49人</td><td>11施設</td><td>77人</td><td>7施設</td><td>179人</td><td>10施設</td><td></td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回	参加者数等	135人	10施設	136人	11施設	138人	10施設	96人	49人	11施設	77人	7施設	179人	10施設		A			教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図っている。		A	教師を対象とした精神保健講座や児童養護施設の巡回相談を継続的にを行い、学校・地域との連携強化を図っている。	
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度		3年度9月末	3年度見込																																																		
	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)	精神保健(児童養護)																																																			
対象	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中	こども	県内小中																																																			
	5回	10回	5回	11回	5回	10回	5回																																																			
参加者数等	135人	10施設	136人	11施設	138人	10施設	96人																																																			
	49人	11施設	77人	7施設	179人	10施設																																																				

中期目標		中期計画		年度計画		No	行動計画		業務の実績(令3、中期期間)								令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)		重点 数 値		評 価		第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																				
																	説明								説明																																																																																																																																						
					93	①小児慢性特定疾患治療研究事業や障害者総合支援法、児童福祉法、精神保健福祉法等の公費負担医療を実施する。	こども	公費負担患者状況 (単位：人)								A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。	・医療費助成制度(公費負担)においては、患者が自己負担額の助成を受けるため、医療機関受診後に自治体に対して申請を要する。 ・患者家族の手続き上の負担や心情に配慮し、パンフレット等を用いて丁寧な対応を行っている。 ・特に小児においては、疾病に関係なく「こども医療費」の対象になっていることから、あえて申請しないケースもある。				A	公費負担医療を提供するためには、本人による申請が必要となることから、証明書・診断書の発行など公費適用患者の利便性を重視して対応している。	・医療費助成制度(公費負担)においては、患者が自己負担額の助成を受けるため、医療機関受診後に自治体に対して申請を要する。 ・患者家族の手続き上の負担や心情に配慮し、パンフレット等を用いて丁寧な対応を行っている。																																																																																																																																							
								<table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>小児慢性</td><td>1,891</td><td>1,842</td><td>1,837</td><td>1,771</td><td>1,691</td><td>1,524</td><td>1,524</td></tr><tr><td>育成医療</td><td>722</td><td>471</td><td>114</td><td>55</td><td>36</td><td>15</td><td>15</td></tr><tr><td>養育医療</td><td>240</td><td>164</td><td>189</td><td>182</td><td>190</td><td>115</td><td>115</td></tr><tr><td>特定疾患</td><td>6</td><td>5</td><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>特定疾病</td><td>138</td><td>115</td><td>88</td><td>100</td><td>92</td><td>88</td><td>88</td></tr><tr><td>生活保護</td><td>181</td><td>176</td><td>182</td><td>182</td><td>181</td><td>144</td><td>144</td></tr><tr><td>精神保健</td><td>102</td><td>83</td><td>89</td><td>69</td><td>52</td><td>44</td><td>44</td></tr><tr><td>その他</td><td>111</td><td>119</td><td>143</td><td>146</td><td>204</td><td>348</td><td>348</td></tr><tr><td>計</td><td>3,391</td><td>2,975</td><td>2,645</td><td>2,512</td><td>2,452</td><td>2,284</td><td>2,284</td></tr></table>																	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	小児慢性	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691	1,524	1,524	育成医療	722	471	114	55	36	15	15	養育医療	240	164	189	182	190	115	115	特定疾患	6	5	3	7	6	6	6	特定疾病	138	115	88	100	92	88	88	生活保護	181	176	182	182	181	144	144	精神保健	102	83	89	69	52	44	44	その他	111	119	143	146	204	348	348	計	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452	2,284	2,284																																																							
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																								
小児慢性	1,891	1,842	1,837	1,771	1,691	1,524	1,524																																																																																																																																																								
育成医療	722	471	114	55	36	15	15																																																																																																																																																								
養育医療	240	164	189	182	190	115	115																																																																																																																																																								
特定疾患	6	5	3	7	6	6	6																																																																																																																																																								
特定疾病	138	115	88	100	92	88	88																																																																																																																																																								
生活保護	181	176	182	182	181	144	144																																																																																																																																																								
精神保健	102	83	89	69	52	44	44																																																																																																																																																								
その他	111	119	143	146	204	348	348																																																																																																																																																								
計	3,391	2,975	2,645	2,512	2,452	2,284	2,284																																																																																																																																																								
					94	①研究雑費や研究旅費等の予算化等により学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持する。	各病院	(総合) (総合) 海外研修の実績 (3年度9月末) (単位：人)								B	医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。 令和3年については、令和2年度に続き新型コロナウイルス感染症の拡大によりWeb開催には対応しているものの、学会の中止等により参加機会が減少している。 医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。	・全国水準を上回る研究研修費を確保することにより、新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。 ・研修会等の参加者が得た知識をもとに、院内・院外の研修で講師を務めて研修成果の伝達を行うなど工夫している。 ・新型コロナウイルスの影響で学会等の開催数が減少しているため、学会発表実績の減少はやむを得ないが、引き続き学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持していくことが期待される。				B	医師や研修医をはじめとする医療スタッフが研究雑費や研究旅費等の予算化等により国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を確保している。 中期目標期間中、令和2年度以降は新型コロナウイルス感染症の拡大により、Web開催には対応しているものの、学会の中止等により参加機会が減少している。 医師や研修医などの医療スタッフが国内外の学会や研修会等へ参加できる体制を引き続き確保していく。	・全国水準を上回る研究研修費を確保することにより、新技術・知識習得のための各種研修会・講習会への参加、情報収集のための各種図書購入等を推進している。 ・研修会等の参加者が得た知識をもとに、院内・院外の研修で講師を務めて研修成果の伝達を行うなど工夫している。 ・新型コロナウイルスの影響で学会等の開催数が減少しているため、学会発表実績の減少はやむを得ないが、引き続き学会や研修会等への参加がしやすい体制を維持していくことが期待される。																																																																																																																																							
								<table><tr><td colspan="2">内 容</td><td>人数</td></tr><tr><td rowspan="20">令元</td><td>11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY</td><td>2</td></tr><tr><td>AATS 99th Annual Meeting</td><td>2</td></tr><tr><td>米国胸部疾患学会2019国際会議</td><td>3</td></tr><tr><td>Jung Conference in Wroclaw 2019</td><td>1</td></tr><tr><td>24th World Congress of Dermatology Milan 2019</td><td>1</td></tr><tr><td>SSAI 2019</td><td>3</td></tr><tr><td>第31回欧州病理学会</td><td>1</td></tr><tr><td>欧州呼吸器学会国際会議2019</td><td>3</td></tr><tr><td>29th Congress of the European Society of Surgical Oncology</td><td>2</td></tr><tr><td>第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会</td><td>1</td></tr><tr><td>ヨーロッパ救急医学会</td><td>1</td></tr><tr><td>チェスト年次会議2019</td><td>3</td></tr><tr><td>37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY</td><td>2</td></tr><tr><td>American Pancreatic Assosiation</td><td>3</td></tr><tr><td>ANS Kidney Week 2019</td><td>2</td></tr><tr><td>アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019</td><td>2</td></tr><tr><td>EuroEcho 2019</td><td>2</td></tr><tr><td>ASCVTS2020</td><td>2</td></tr><tr><td>第109回 USCAP2020</td><td>1</td></tr><tr><td>臨床研修医U C L A研修</td><td>18</td></tr><tr><td>令2</td><td>実績なし</td><td></td></tr><tr><td>令3</td><td>実績なし</td><td></td></tr><tr><td colspan="2">計</td><td>32</td></tr></table> <table><tr><td colspan="8">学会発表実績(国内外) (単位：人)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>発表数</td><td>578</td><td>600</td><td>596</td><td>547</td><td>51</td><td>38</td><td>150</td></tr></table> (こころ) <table><tr><td colspan="8">学会発表実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>学会発表件数</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>12</td><td>4</td><td>3</td><td>7</td></tr></table> (こども) <table><tr><td colspan="8">学会発表実績 (単位：件)</td></tr><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>事業件数</td><td>496</td><td>396</td><td>414</td><td>448</td><td>141</td><td>130</td><td>245</td></tr></table>																	内 容		人数	令元	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2	AATS 99th Annual Meeting	2	米国胸部疾患学会2019国際会議	3	Jung Conference in Wroclaw 2019	1	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1	SSAI 2019	3	第31回欧州病理学会	1	欧州呼吸器学会国際会議2019	3	29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1	ヨーロッパ救急医学会	1	チェスト年次会議2019	3	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2	American Pancreatic Assosiation	3	ANS Kidney Week 2019	2	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2	EuroEcho 2019	2	ASCVTS2020	2	第109回 USCAP2020	1	臨床研修医U C L A研修	18	令2	実績なし		令3	実績なし		計		32	学会発表実績(国内外) (単位：人)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	発表数	578	600	596	547	51	38	150	学会発表実績 (単位：件)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	学会発表件数	10	10	10	12	4	3	7	学会発表実績 (単位：件)								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	事業件数	496	396	414	448	141	130	245										
内 容		人数																																																																																																																																																													
令元	11th CONGRESS OF THE VASCULAR ACCESS SOCIETY	2																																																																																																																																																													
	AATS 99th Annual Meeting	2																																																																																																																																																													
	米国胸部疾患学会2019国際会議	3																																																																																																																																																													
	Jung Conference in Wroclaw 2019	1																																																																																																																																																													
	24th World Congress of Dermatology Milan 2019	1																																																																																																																																																													
	SSAI 2019	3																																																																																																																																																													
	第31回欧州病理学会	1																																																																																																																																																													
	欧州呼吸器学会国際会議2019	3																																																																																																																																																													
	29th Congress of the European Society of Surgical Oncology	2																																																																																																																																																													
	第28回ヨーロッパ皮膚科学・性病学会学術大会	1																																																																																																																																																													
	ヨーロッパ救急医学会	1																																																																																																																																																													
	チェスト年次会議2019	3																																																																																																																																																													
	37th WORLD CONGRESS OF ENDOUROLOGY	2																																																																																																																																																													
	American Pancreatic Assosiation	3																																																																																																																																																													
	ANS Kidney Week 2019	2																																																																																																																																																													
	アジア太平洋呼吸器学会国際会議2019	2																																																																																																																																																													
	EuroEcho 2019	2																																																																																																																																																													
	ASCVTS2020	2																																																																																																																																																													
	第109回 USCAP2020	1																																																																																																																																																													
	臨床研修医U C L A研修	18																																																																																																																																																													
令2	実績なし																																																																																																																																																														
令3	実績なし																																																																																																																																																														
計		32																																																																																																																																																													
学会発表実績(国内外) (単位：人)																																																																																																																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																																								
発表数	578	600	596	547	51	38	150																																																																																																																																																								
学会発表実績 (単位：件)																																																																																																																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																								
学会発表件数	10	10	10	12	4	3	7																																																																																																																																																								
学会発表実績 (単位：件)																																																																																																																																																															
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																								
事業件数	496	396	414	448	141	130	245																																																																																																																																																								
					95	③院内における資格取得を支援し、活用を促進する。	本部(企画)	資格等取得助成制度利用者 (単位：人)								A	平成24年度以降、資格等取得助成制度により資格取得を支援している。これまで、毎年度一定数の利用者がおり、令和3年度については3人が利用し、14人程度の利用を見込んでいる。	・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。 ・職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられ、専門的知識を有する職員の育成と能力を発揮できるよう、緩和ケアやがん看護の認定看護師をがん相談センターに配置するなど、資格の特性が人事配置にあたっても考慮されている。				A	資格等取得助成制度は、平成24年度から整備し、資格取得を支援している。これまで、毎年度一定数の利用者がいる。令和3年度については14人程度の利用を見込んでいる。	・資格等助成制度は、看護師、コメディカル、事務職員が、診療情報管理士資格等の新たな免許・資格等の積極的取得促進のために、原則として3万円を上限として、支給する助成金である。 ・職員の資格取得の動機付けとなっていると考えられ、専門的知識を有する職員の育成と能力を発揮できるよう、緩和ケアやがん看護の認定看護師をがん相談センターに配置するなど、資格の特性が人事配置にあたっても考慮されている。																																																																																																																																							
								<table><tr><td rowspan="4">総合</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>看護師</td><td>27</td><td>8</td><td>0</td><td>0</td><td>9</td><td>0</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>11</td><td>12</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>38</td><td>20</td><td>0</td><td>0</td><td>10</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="4">こころ</td><td>看護師</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>8</td><td>1</td><td>3</td></tr><tr><td rowspan="4">こども</td><td>看護師</td><td>30</td><td>3</td><td>7</td><td>6</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>0</td><td>0</td><td>4</td><td>4</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>30</td><td>4</td><td>11</td><td>10</td><td>2</td><td>2</td></tr><tr><td rowspan="2">本部</td><td>事務</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td rowspan="4">計</td><td>看護師</td><td>57</td><td>11</td><td>7</td><td>8</td><td>12</td><td>3</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>11</td><td>12</td><td>4</td><td>9</td><td>1</td><td>0</td></tr><tr><td>事務</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td>68</td><td>24</td><td>11</td><td>18</td><td>13</td><td>3</td></tr></table>																	総合	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	看護師	27	8	0	0	9	0	コメディカル	11	12	0	0	1	0	事務	0	0	0	0	0	0	計	38	20	0	0	10	0	こころ	看護師	0	0	0	2	1	1	コメディカル	0	0	0	5	0	2	事務	0	0	0	1	0	0	計	0	0	0	8	1	3	こども	看護師	30	3	7	6	2	2	コメディカル	0	0	4	4	0	0	事務	0	1	0	0	0	0	計	30	4	11	10	2	2	本部	事務	0	0	0	0	0	0	計	0	0	0	0	0	0	計	看護師	57	11	7	8	12	3	コメディカル	11	12	4	9	1	0	事務	0	1	0	1	0	0	計	68	24	11
総合	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																								
	看護師	27	8	0	0	9	0																																																																																																																																																								
	コメディカル	11	12	0	0	1	0																																																																																																																																																								
	事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																								
計	38	20	0	0	10	0																																																																																																																																																									
こころ	看護師	0	0	0	2	1	1																																																																																																																																																								
	コメディカル	0	0	0	5	0	2																																																																																																																																																								
	事務	0	0	0	1	0	0																																																																																																																																																								
	計	0	0	0	8	1	3																																																																																																																																																								
こども	看護師	30	3	7	6	2	2																																																																																																																																																								
	コメディカル	0	0	4	4	0	0																																																																																																																																																								
	事務	0	1	0	0	0	0																																																																																																																																																								
	計	30	4	11	10	2	2																																																																																																																																																								
本部	事務	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																								
	計	0	0	0	0	0	0																																																																																																																																																								
計	看護師	57	11	7	8	12	3																																																																																																																																																								
	コメディカル	11	12	4	9	1	0																																																																																																																																																								
	事務	0	1	0	1	0	0																																																																																																																																																								
	計	68	24	11	18	13	3																																																																																																																																																								

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績（令3、中期期間）	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																		
						説明					説明																																																																																																																																				
(3) 県民への情報提供の充実 公開講座や医療相談の開催、ホームページの活用などを通じて県民へ情報発信し、県民の健康意識の高揚に努めること。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	96	—	各病院（企画）	—		B	27	1	○	B																																																																																																																																			
						各病院、特色を活かした公開講座等を企画、開催した。																																																																																																																																									
						<table><tr><th>病院</th><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3目標</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td rowspan="2">総合</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>4</td><td>10</td><td>6</td><td>9</td><td>3</td><td>1</td><td>10</td><td>6</td></tr><tr><td>参加者</td><td>495</td><td>712</td><td>524</td><td>349</td><td>125</td><td>10</td><td>—</td><td>115</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>29</td><td>27</td><td>21</td><td>27</td><td>10</td><td>3</td><td>27</td><td>6</td><td></td></tr><tr><td>参加者</td><td>1,765</td><td>1,691</td><td>1,193</td><td>1,441</td><td>371</td><td>119</td><td>—</td><td>300</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">こころ</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>2</td><td>0</td><td>0</td><td>2</td><td>0</td></tr><tr><td>参加者</td><td>6</td><td>8</td><td>28</td><td>21</td><td>0</td><td>0</td><td>—</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>3</td><td>5</td><td>3</td><td>8</td><td>3</td><td>0</td><td>5</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td>参加者</td><td>81</td><td>485</td><td>88</td><td>115</td><td>20</td><td>0</td><td>—</td><td>0</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">こども</td><td>県民向け</td><td>実施件数</td><td>2</td><td>3</td><td>3</td><td>6</td><td>1</td><td>2</td><td>5</td><td>5</td></tr><tr><td>参加者</td><td>116</td><td>149</td><td>195</td><td>188</td><td>20</td><td>109</td><td>—</td><td>229</td><td></td></tr><tr><td rowspan="2">医療機関向け</td><td>実施件数</td><td>15</td><td>17</td><td>13</td><td>6</td><td>10</td><td>6</td><td>20</td><td>13</td><td></td></tr><tr><td>参加者</td><td>906</td><td>799</td><td>698</td><td>218</td><td>422</td><td>258</td><td>—</td><td>510</td><td></td></tr></table>								病院	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込	総合	県民向け	実施件数	4	10	6	9	3	1	10	6	参加者	495	712	524	349	125	10	—	115		医療機関向け	実施件数	29	27	21	27	10	3	27	6		参加者	1,765	1,691	1,193	1,441	371	119	—	300		こころ	県民向け	実施件数	2	2	2	2	0	0	2	0	参加者	6	8	28	21	0	0	—	0		医療機関向け	実施件数	3	5	3	8	3	0	5	0		参加者	81	485	88	115	20	0	—	0		こども	県民向け	実施件数	2	3	3	6	1	2	5	5	参加者	116	149	195	188	20	109	—	229		医療機関向け	実施件数	15	17	13	6	10	6	20	13		参加者	906	799	698
病院	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3目標	3年度見込																																																																																																																																						
総合	県民向け	実施件数	4	10	6	9	3	1	10	6																																																																																																																																					
	参加者	495	712	524	349	125	10	—	115																																																																																																																																						
医療機関向け	実施件数	29	27	21	27	10	3	27	6																																																																																																																																						
	参加者	1,765	1,691	1,193	1,441	371	119	—	300																																																																																																																																						
こころ	県民向け	実施件数	2	2	2	2	0	0	2	0																																																																																																																																					
	参加者	6	8	28	21	0	0	—	0																																																																																																																																						
医療機関向け	実施件数	3	5	3	8	3	0	5	0																																																																																																																																						
	参加者	81	485	88	115	20	0	—	0																																																																																																																																						
こども	県民向け	実施件数	2	3	3	6	1	2	5	5																																																																																																																																					
	参加者	116	149	195	188	20	109	—	229																																																																																																																																						
医療機関向け	実施件数	15	17	13	6	10	6	20	13																																																																																																																																						
	参加者	906	799	698	218	422	258	—	510																																																																																																																																						
きこえとことばのセンター主催研修会等の開催件数（単位：件）																																																																																																																																															
<table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>件数</td><td>—</td><td>7</td><td>8</td><td>5</td><td>32</td><td>9</td><td>21</td></tr></table>														区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	件数	—	7	8	5	32	9	21																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																								
件数	—	7	8	5	32	9	21																																																																																																																																								
(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	97	—	総合、こども	①【総/子】・県民向けイベントの開催や参加に努める。		—			A	A																																																																																																																																			
						(総合) 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンホスピタルを開催中止とした。 オープンホスピタル来場者数（単位：人）																																																																																																																																									
						<table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>来場者数</td><td>1,200</td><td>1,400</td><td>1,200</td><td>1,200</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>								区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	来場者数	1,200	1,400	1,200	1,200	—	—	—																																																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																																																								
来場者数	1,200	1,400	1,200	1,200	—	—	—																																																																																																																																								
(こども) 例年、(株)静岡新聞社、静岡放送(株)が主催の「こどもみらいプロジェクト秋まつり in ツインメッセ」に参加し、健康相談及びこども用の医師・ナース服の着用体験のブースを出展しているが、令和2・3年度はコロナ禍の状況を鑑み不参加となった。 こどもみらいプロジェクト来場者数（単位：組、人）																																																																																																																																															
<table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>健康相談</td><td>17</td><td>22</td><td>10</td><td>3</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>写真撮影</td><td>1,288</td><td>957</td><td>1,064</td><td>792</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>														区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	健康相談	17	22	10	3	0	0	0	写真撮影	1,288	957	1,064	792	0	0	0																																																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																								
健康相談	17	22	10	3	0	0	0																																																																																																																																								
写真撮影	1,288	957	1,064	792	0	0	0																																																																																																																																								
※例年2日間開催されるが、令和元年度は台風の影響により、1日のみの開催																																																																																																																																															
(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	98	—	各病院（企画）	②県民及び他の医療機関従事者に、県立病院機構の有する医療情報を積極的に提供するため、機構ホームページを適時、的確に更新する。		—			A	A																																																																																																																																			
						機構全体のトピックスやプレスリリース、各病院の感染症対策情報等を迅速に更新し、積極的に情報発信を行った。																																																																																																																																									
						セクション別アクセス件数（単位：件）																																																																																																																																									
<table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>本部</td><td>214,412</td><td>218,435</td><td>226,519</td><td>232,673</td><td>246,234</td><td>135,862</td><td>235,142</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,864,780</td><td>2,017,729</td><td>2,322,348</td><td>2,902,755</td><td>2,751,715</td><td>1,399,184</td><td>2,658,939</td></tr><tr><td>こころ</td><td>269,084</td><td>275,298</td><td>376,258</td><td>662,762</td><td>659,939</td><td>320,389</td><td>566,320</td></tr><tr><td>こども</td><td>1,452,729</td><td>1,551,263</td><td>1,690,943</td><td>1,772,069</td><td>1,800,380</td><td>938,616</td><td>1,754,464</td></tr><tr><td>合計</td><td>3,801,005</td><td>4,062,725</td><td>4,616,068</td><td>5,570,259</td><td>5,458,268</td><td>2,794,051</td><td>5,214,865</td></tr></table>														区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	本部	214,412	218,435	226,519	232,673	246,234	135,862	235,142	総合	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715	1,399,184	2,658,939	こころ	269,084	275,298	376,258	662,762	659,939	320,389	566,320	こども	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	938,616	1,754,464	合計	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268	2,794,051	5,214,865																																																																																		
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																								
本部	214,412	218,435	226,519	232,673	246,234	135,862	235,142																																																																																																																																								
総合	1,864,780	2,017,729	2,322,348	2,902,755	2,751,715	1,399,184	2,658,939																																																																																																																																								
こころ	269,084	275,298	376,258	662,762	659,939	320,389	566,320																																																																																																																																								
こども	1,452,729	1,551,263	1,690,943	1,772,069	1,800,380	938,616	1,754,464																																																																																																																																								
合計	3,801,005	4,062,725	4,616,068	5,570,259	5,458,268	2,794,051	5,214,865																																																																																																																																								
(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 定期的に公開講座、医療相談会等を開催し、ホームページ等で健康管理・増進などについての情報を提供するなど、様々な方法で県民への情報提供を進め県民の健康意識の高揚や健康に関する知識の充実に努める。	(3) 県民への情報提供の充実 ①定期的な公開講座、医療相談会等の開催 ②ホームページ等による健康管理・増進などについての情報提供 ③報道機関等への情報発信	99	—	各病院（企画）	③県民に病院の運営にかかる情報を戦略的に広報するため、報道機関向けの情報発信の推進を図る。		—			A	A																																																																																																																																			
						最先端医療への取組や各病院で開催する県民向けの公開講座、各種イベントなどについて、積極的に情報提供を行い、情報発信の推進を図った。平成28年度から各病院でのプレスリリース実績を共有ファイルで管理するようにし、各病院の実績の把握及び機構全体での情報共有を図った。																																																																																																																																									
						記者情報提供件数（単位：件）																																																																																																																																									
<table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>提供件数</td><td>48</td><td>47</td><td>43</td><td>36</td><td>19</td><td>9</td><td>18</td></tr><tr><td>掲載件数</td><td>31</td><td>36</td><td>30</td><td>24</td><td>13</td><td>6</td><td>12</td></tr></table>														区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	提供件数	48	47	43	36	19	9	18	掲載件数	31	36	30	24	13	6	12																																																																																																										
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																								
提供件数	48	47	43	36	19	9	18																																																																																																																																								
掲載件数	31	36	30	24	13	6	12																																																																																																																																								
※提供件数1件に対し、掲載件数が複数あった場合も掲載件数1件とカウントする																																																																																																																																															

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																							
						説明	説明																																													
5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	5 災害等における医療救護	—	—	—	—	—				—	—																																								
県民の安心・安全を守るため、医療救護活動の拠点機能を担い、災害医療チームを派遣するなど医療救護に取り組むこと。	地震などによる大規模災害の発生が危惧される静岡県の県立病院として、災害等への日頃からの備えを進め、発生時には静岡県医療救護計画等に基づき、医療救護活動に従事する。	県立病院として、県内外の災害等の発生に対し十分な備えをするとともに、医療救護活動の拠点としての役割を果たす。	—	—	—	—	—				—	—																																								
(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	(1) 医療救護活動の拠点機能	—	—	—	—	—				—	—																																								
災害等における本県の医療救護活動の拠点機能を担うこと。特に、県立総合病院は、基幹災害拠点病院として、県内の災害時医療の中心的役割を果たすことができるよう機能強化を図ること。あわせて、国の原子力災害医療体制の整備に努めること。また、県立こころの医療センターは災害時における精神医療分野の、県立こども病院は災害時における小児医療分野の、それぞれにおける基幹的役割を果たすよう、日頃から備えること。	日頃から実戦的な災害医療訓練を定期的に開催するなど、医療救護活動の拠点となる病院としての機能を維持向上し、災害等の発生時には重篤患者の受入れ、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	①災害拠点病院(小児分野を含む)等として、災害時の医療救護活動の拠点機能を担う ②災害時における精神医療分野の拠点病院として、県内外のDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)との連携など求められる機能を発揮する。特に、県立総合病院は基幹災害拠点病院及び原子力災害拠点病院として県内の災害医療の中心的役割を、県立こころの医療センター及び県立こども病院は、それぞれの分野で基幹的役割を果たすことができるよう体制整備に取り組む。	100 ～ 102	総合 こころ	①災害医療訓練を実施する。 ①災害対応マニュアル等の整備、見直しを行い発生時に迅速な対応ができるようにする。 ①【心】・災害等に対する日頃の備えに努め、大規模災害等における本県の精神分野の災害時医療に対応する。 ①【子】・災害時における小児医療の拠点としての院内体制の整備に努める。 ②【心】・一時避難所機能等災害時における精神医療分野の拠点病院としての役割を担うための訓練を実施する。 ③【子】・小児医療総合施設協議会において実施する小児専門医療機関間の災害時における情報交換システムに参加、協力していく。 大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、DPAT隊を派遣した。 また、令和3年2月1日には県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けた。 防災訓練(避難訓練) 3年度9月末実績 <table><tr><td rowspan="6">令元</td><td>令元.6.20</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令元.7.3</td><td>院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)</td></tr><tr><td>令元.7.11</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令元.11.2～3</td><td>静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td>令元.12.1</td><td>県立総合病院防災訓練</td></tr><tr><td>令2.1.26</td><td>静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施</td></tr><tr><td rowspan="3">令2</td><td>令2.7.10</td><td>院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)</td></tr><tr><td>令2.7.16</td><td>静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加</td></tr><tr><td>令2.9.17</td><td>静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施</td></tr><tr><td rowspan="3">令3</td><td>令3.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>令3.7～</td><td>熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)</td></tr><tr><td>令3.7.7</td><td>院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)</td></tr></table> DPAT派遣 3年度9月末実績 <table><tr><td rowspan="5">令元</td><td>令元.9.10～12</td><td>台風15号で被災した千葉県に派遣。主に千葉県庁、市原市で活動。</td></tr><tr><td>令和元.10.13</td><td>台風19号への対応に係る県障害福祉課対策本部支援</td></tr><tr><td>令2.2.3～5</td><td>新型コロナウイルス対応に係る派遣(埼玉県和光市 桜蔭中学校)</td></tr><tr><td>令2.2.10～15</td><td>新型コロナウイルス対応に係る派遣(神奈川県横浜 クルーズ船)</td></tr><tr><td>令2.12.9</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DPAT派遣(県東部精神科病院)</td></tr><tr><td>令3</td><td>令3.7.3</td><td>熱海市土石流災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)</td></tr></table> ・令和2年度新たに策定したBCPや地震防災マニュアルを活用し、災害時における小児医療の拠点として、院内体制の整備に努めている。 ・令和3年11月にBCPに基づく本部運営訓練と災害時の初動体制確認の訓練等を実施した。感染症に配慮し、規模を縮小しての実施となったが、訓練に先駆けて災害対策本部構成員の見直しを行い、災害対策本部机上訓練を実施するなど、訓練内容の充実を図った。	令元	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加	令元.7.3	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令元.11.2～3	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施	令元.12.1	県立総合病院防災訓練	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施	令2	令2.7.10	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施	令3	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)	令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)	令3.7.7	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)	令元	令元.9.10～12	台風15号で被災した千葉県に派遣。主に千葉県庁、市原市で活動。	令和元.10.13	台風19号への対応に係る県障害福祉課対策本部支援	令2.2.3～5	新型コロナウイルス対応に係る派遣(埼玉県和光市 桜蔭中学校)	令2.2.10～15	新型コロナウイルス対応に係る派遣(神奈川県横浜 クルーズ船)	令2.12.9	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DPAT派遣(県東部精神科病院)	令3	令3.7.3	熱海市土石流災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)	令和3年度においては、熱海市土石流災害の発生に際し、県の派遣要請により、実際に当センターのDPAT隊を派遣し、精神科医療の支援を行った。また、情報伝達訓練の実施等災害時に対する日頃の備えに努めている。 ・総合病院は基幹災害拠点病院として、こころの医療センターは災害拠点精神科病院として、こども病院は災害時における小児の拠点病院として、災害医療訓練の実施、国・県等が実施する訓練への参加、災害対応マニュアルの整備等、県民の安全・安心を守る医療救護活動の拠点としての体制整備と取組の充実が図られている。 ・また、大規模災害に対して、DMAT・DPAT派遣により、積極的に医療救護活動に協力している。令和3年度においては、静岡県新型コロナウイルス感染症調整本部へのDMAT派遣や、熱海市土石流災害の被災地域へのDMAT・DPAT派遣など、災害対応の基幹的役割を果たしている。 災害時の初動体制について、職員が迷わず対応できることを目的に、院内の防災訓練を実施した。 実施に際しては体制の見直しや、災害対策本部机上訓練を実施したほか、前年に策定したこども病院のBCPやマニュアル等の規程類を活用し、訓練の充実を図るなど、小児医療の拠点病院として、体制の整備に努めた。 今後も継続して各種防災訓練を企画・実施していく。	28	○	A	情報伝達・避難訓練等、災害の発生を想定し、基幹災害拠点病院の役割を果たすべく各種訓練を企画、実施している。引き続き、災害発生に備えた病院の機能の充実に努める。 大規模災害等における本県の精神分野における中核的拠点として災害時医療に対応できるよう、各種訓練を実施したほか、DPAT隊の保有やBCPの策定などを含めた体制整備を行い、令和3年2月1日付けで県内初となる災害拠点精神科病院の指定を受けた。 また、県の派遣要請により、実際に当センターのDPAT隊を派遣し、精神科医療の支援を行っており、令和元年度には県外派遣や新型コロナウイルス感染症でクルーズ船支援者等のスクリーニング等を行ったほか、令和3年7月に発生した熱海市土石流災害においても、県の要請に基づきDPATを派遣し、拠点を設置して被災者のこころのケアに従事した。今後も県内における精神科病院の役割を担い、災害時の対応や訓練に努めていく。	・3病院ともに、災害医療訓練の実施、国・県等が実施する訓練への参加、災害対応マニュアルの整備等、県民の安全・安心を守る医療救護活動の拠点としての体制整備と取組の充実が図られている。 ・総合病院は、基幹災害拠点病院として県の中心的役割を果たすため、災害対応マニュアルに基づき訓練を実施した。 ・こころの医療センターは、令和2年度に業務継続計画(BCP)を策定したほか、県の保健医療計画上、災害精神医療の全域拠点機関であることや、DPAT先遣隊を配置していることなどが評価され、令和3年2月に災害拠点精神科病院の指定を受けた。 ・こども病院では、各種防災訓練を実施したほか、令和2年度に業務継続計画(BCP)策定した。 ・新興感染症のまん延等の事態が発生した際の業務継続について、あらかじめ検討しておくことが必要である。 ・令和2、3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により県総合防災訓練やDPAT政府訓練は中止となっているが、速やかに医療チームを派遣できるよう、引き続き、適切に情報共有、伝達できる備えを行うことが必要である。 ・大規模災害等に対しては、DMAT・DPAT派遣により、積極的に医療救護活動に協力している。第3期中期目標期間においては、静岡県新型コロナウイルス感染症調整本部へのDMAT派遣や、熱海市土石流災害の被災地域へのDMAT・DPAT派遣など、災害対応の基幹的役割を果たしている。
令元	令元.6.20	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練に参加																																																		
	令元.7.3	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)																																																		
	令元.7.11	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																		
	令元.11.2～3	静岡DMAT-L隊員養成研修を県立総合病院にて実施																																																		
	令元.12.1	県立総合病院防災訓練																																																		
	令2.1.26	静岡DMATロジスティクス研修を県立総合病院にて実施																																																		
令2	令2.7.10	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)																																																		
	令2.7.16	静岡県健康福祉部防災訓練の情報伝達訓練に参加																																																		
	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練の情報伝達訓練を企画・実施																																																		
令3	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)																																																		
	令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)																																																		
	令3.7.7	院内各セクションに対し、消火設備等の取扱講習を実施(新規採用職員を中心に約100人参加)																																																		
令元	令元.9.10～12	台風15号で被災した千葉県に派遣。主に千葉県庁、市原市で活動。																																																		
	令和元.10.13	台風19号への対応に係る県障害福祉課対策本部支援																																																		
	令2.2.3～5	新型コロナウイルス対応に係る派遣(埼玉県和光市 桜蔭中学校)																																																		
	令2.2.10～15	新型コロナウイルス対応に係る派遣(神奈川県横浜 クルーズ船)																																																		
	令2.12.9	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DPAT派遣(県東部精神科病院)																																																		
令3	令3.7.3	熱海市土石流災害に伴う静岡DPAT派遣(熱海保健所)																																																		
(2) 他県等の医療救護への協力	(2) 他県等の医療救護への協力	(2) 他県等の医療救護への協力	—	—	—	—	—				—	—																																								
他県等の大規模災害等においても、災害医療チームを派遣するなど、積極的に医療救護に協力すること。	災害時医療救護派遣マニュアルに基づき、速やかに医療チームを派遣できるように定期的な要員訓練やマニュアルの点検を行う。	①災害発生初期におけるDMAT(災害派遣医療チーム)・DPAT(災害派遣精神医療チーム)の派遣及び県からの要請に基づく支援等の実施	103	総合	①災害医療救護応援班の訓練を実施する。 年度別実績(令和3年9月時点) <table><tr><td rowspan="5">令元</td><td>令元.8.23</td><td>静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。</td></tr><tr><td>令元.9.1</td><td>静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。</td></tr><tr><td>令元.8.25</td><td>大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。</td></tr><tr><td>令元.12.18</td><td>国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。</td></tr><tr><td>令2.1.17</td><td>地震対策オペレーション2020(大規模図上訓練)にDMAT隊員6人が参加した。</td></tr><tr><td rowspan="2">令2</td><td>令2.9.17</td><td>静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回)</td></tr><tr><td>令2.10.7</td><td>富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名)</td></tr><tr><td rowspan="3">令3</td><td>令2.4～3</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部等)(DMAT隊員8名)</td></tr><tr><td>令3.4～</td><td>新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)</td></tr><tr><td>令3.7～</td><td>熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)</td></tr></table> DMAT訓練回数(単位:回) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>訓練</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>8</td><td>1</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>	令元	令元.8.23	静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。	令元.9.1	静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。	令元.8.25	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。	令元.12.18	国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。	令2.1.17	地震対策オペレーション2020(大規模図上訓練)にDMAT隊員6人が参加した。	令2	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回)	令2.10.7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名)	令3	令2.4～3	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部等)(DMAT隊員8名)	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)	令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	訓練	8	8	8	8	1	0	0	令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、政府や県が主催する訓練が中止となっているが、チーム内では適切に情報を伝達、共有するための準備を行っている。 また、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス対策本部へのDMAT隊員派遣を継続的に実施している。	28	○	A	令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、政府や県が主催する訓練が中止となっているが、チーム内では適切に情報を伝達、共有するための準備を行っている。 また、県からの要請に伴い、新型コロナウイルス対策本部へのDMAT隊員派遣を継続的に実施している。			
令元	令元.8.23	静岡県総合防災訓練(本部運営訓練)にDMAT隊員5人が参加した。																																																		
	令元.9.1	静岡県総合防災訓練(実動訓練)にDMAT隊員14人が参加した。																																																		
	令元.8.25	大規模地震時医療活動訓練(政府訓練)にDMAT隊員6人が参加した。																																																		
	令元.12.18	国民保護共同実動訓練(実動)にDMAT隊員10人が参加した。																																																		
	令2.1.17	地震対策オペレーション2020(大規模図上訓練)にDMAT隊員6人が参加した。																																																		
令2	令2.9.17	静岡県DMAT通信訓練情報伝達訓練の企画・実施(3月までに合計3回)																																																		
	令2.10.7	富士山静岡空港航空機事故対応訓練(DMAT隊員5名)																																																		
令3	令2.4～3	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部等)(DMAT隊員8名)																																																		
	令3.4～	新型コロナウイルス感染症に伴う静岡DMAT隊員派遣(県対策本部・保健所等)(DMAT隊員2名)																																																		
	令3.7～	熱海伊豆山土砂災害派遣へのDMAT派遣(県対策本部・熱海被災地)(DMAT隊員19名)																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																													
訓練	8	8	8	8	1	0	0																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価	県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																																																																																																																																																																																
						説明	説明																																																																																																																																																																																																																																																																					
第3 業務運営の改善及び効率化に関する事項	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 医療の質の向上を目指して、地方独立行政法人制度の特徴を最大限に活かし、一層効果的・効率的な業務運営に努め、生産性の向上を図ること。	第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置 業務運営に関しては、医療の質の向上のため、適切な職員配置や組織づくりに努めるとともに、業務改善への職員の意欲を高め、効率的な業務運営の実現を図る。	-	-	-	-	-				-																																																																																																																																																																																																																																																																	
1 効率的な業務運営体制の強化	1 効率的な業務運営体制の強化 医療環境の変化や県民の医療需要に的確に応じられるよう簡素で効果的、効率的な組織づくりを進め、適時適切な意思決定ができる組織運営に努める。 県立病院が有する人的、物的等医療資源を有効に活用するため、常に効率的な業務運営に取り組み、経営情報を共有し職員の経営意識の醸成を図る。 県立病院の病床については、未稼働病床を含め、社会経済情勢や地域医療の状況を踏まえ、最適な方法での配置や活用を図る。 業務の改善改革への取組を奨励し、その活動を積極的に評価し、職員の意見が反映されやすい風通しの良い組織運営を進めるなど、職員の意欲が高い活気に溢れた病院づくりに取り組む。	1 効率的な業務運営体制の強化 ①意思決定の迅速化・情報の共有化等、機動的な法人運営 ②医療ニーズや業務量の適切な把握と組織体制等への反映 ③効率的な施設運用を行うため、県立総合病院のリニューアル工事等の計画的施工 ④県立総合病院の施設機能が継続的、最適に活用できるよう、修繕計画の策定・実施 ⑤県立こども病院のマスタープランや小児医療をめぐる環境の変化等を踏まえ、今後のあり方などについて検討 ⑥公平・公正な人事評価制度の実施 ⑦効果的な職員採用 ⑧柔軟な採用試験の実施等、業務の質と量に応じた人材の適時採用 ⑨看護師確保のため、看護師修学資金の活用推進や広報活動など多様な確保対策の実施 ⑩経営情報を把握及び適時適切な措置を講じられる体制整備 ⑪経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上 ⑫業務の改善の取組等を通じた職員の意識向上及び病院運営の活性化	-	-	-	-	-				-																																																																																																																																																																																																																																																																	
			104	本部・各病院（総務・企画・経営）	理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を8月を除く原則毎月開催し、意思決定の迅速化に努めた。(7月については中止。) 平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始している。 <リニューアル工事、大規模修繕工事の実施計画及び進捗状況> <table><tr><td>令元</td><td>年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%</td></tr><tr><td>令2</td><td>令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定 令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%</td></tr><tr><td>令3</td><td>令和3年9月末時点における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 78.5% 令和4年2月末 完了予定</td></tr></table> 実施計画(令和3年9月時点) <table><tr><td>令3</td><td>令和3年11月末 内視鏡室改修完了予定 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了予定</td></tr><tr><td>令4</td><td>精神科病棟改修工事着工予定 劣化改修工事設計発注予定</td></tr><tr><td>令5</td><td>精神科病棟改修工事完了予定 劣化改修工事着工予定</td></tr></table> 病棟再編検討会(WG)開催数 <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>開催件数</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>—</td><td>7</td><td>13</td></tr></table> アソシイト採用実績(各年度4月1日現在) (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>看護師</td><td>—</td><td>3</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>2</td><td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>6</td><td>16</td><td>4</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td></tr></table> 正規職員数の状況(各年度4月1日現在) (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>本部</td><td>29</td><td>27</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>38</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,158</td><td>1,224</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,306</td><td>1,306</td></tr><tr><td>こころ</td><td>165</td><td>166</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>172</td><td>172</td></tr><tr><td>こども</td><td>654</td><td>650</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>645</td><td>645</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,006</td><td>2,067</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,161</td><td>2,161</td></tr></table> 看護師修学資金の状況 (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>計</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>決定</td><td>88</td><td>114</td><td>55</td><td>50</td><td>36</td><td>11</td><td>354</td><td>40</td></tr><tr><td>継続</td><td>126</td><td>163</td><td>182</td><td>147</td><td>128</td><td>105</td><td>851</td><td>105</td></tr><tr><td>取消</td><td>▲5</td><td>▲9</td><td>▲8</td><td>▲7</td><td>▲4</td><td>▲4</td><td>▲37</td><td>▲4</td></tr><tr><td>貸与計</td><td>209</td><td>268</td><td>229</td><td>190</td><td>160</td><td>112</td><td>1,168</td><td>141</td></tr><tr><td>採用</td><td>40</td><td>63</td><td>62</td><td>53</td><td>46</td><td>43</td><td>307</td><td>43</td></tr></table> 看護師募集における広報等の実施状況(3年度9月) ・人材広告業者への求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載(看護の日) ・県民だより求人情報掲載 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示 柔軟な採用試験の実施状況 (単位:件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>5</td><td>7</td></tr></table> ホームページアクセス数 <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間 69,291</td><td>88,655</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>59,817</td><td>100,000</td></tr></table> ※平成27年に現システムを使用開始 看護学生向け就職説明会 (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>来場者数</td><td>訪問者数</td><td>受験者数</td></tr><tr><td>ナース専科(静岡)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ナースナビ(浜松)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>マイナビ(静岡)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>(沼津)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>業者計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>PR動画の提供</td><td></td><td></td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>令和4年2月開催予定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>令和4年2月開催予定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>PR動画の提供</td><td></td><td></td></tr><tr><td>養成校計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr></table>	令元	年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%	令2	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定 令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%	令3	令和3年9月末時点における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 78.5% 令和4年2月末 完了予定	令3	令和3年11月末 内視鏡室改修完了予定 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了予定	令4	精神科病棟改修工事着工予定 劣化改修工事設計発注予定	令5	精神科病棟改修工事完了予定 劣化改修工事着工予定	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	開催件数	—	—	—	—	—	7	13	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込	看護師	—	3	—	1	1	1	事務	2	10	3	2	6	6	コメディカル	4	3	1	4	1	1	計	6	16	4	7	8	8	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込	本部	29	27	34	35	34	36	38	38	総合	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306	こころ	165	166	170	170	175	174	172	172	こども	654	650	642	636	648	660	645	645	合計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	計	3年度見込	決定	88	114	55	50	36	11	354	40	継続	126	163	182	147	128	105	851	105	取消	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲4	▲37	▲4	貸与計	209	268	229	190	160	112	1,168	141	採用	40	63	62	53	46	43	307	43	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	件数	7	7	6	7	9	5	7	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	59,817	100,000	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)				ナースナビ(浜松)				マイナビ(静岡)				(沼津)				業者計			0	静岡県立大学	PR動画の提供			常葉大学	令和4年2月開催予定			聖隷クリストファー大学	未定			順天堂大学	未定			静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定			静岡県立看護専門学校	PR動画の提供			養成校計			0	計			0	令和3年度については、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われている。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築(級別標準職務表の見直し)した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につなげることができた。 また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始している。	・医療を取り巻く環境の変化とそのスピードに迅速かつ的確に対応できるよう、毎月定例的に開催する理事会や運営会議、総務・経営担当課長会議等を通じて、各病院の月次の経営状況、各種規程の新設・改廃、予算・決算状況等について、意思決定と情報共有が図られ、効率的な組織運営が行われている。 ・令和3年度には、給与制度について、役職による職責に応じて職務の級が適用されるように見直しを行っており、職員の意欲向上と、将来的な医師確保につながることが期待される。 ・県に準拠した人事評価制度を導入しており、職員の意欲が反映される仕組みづくりに取り組んでいる。	29	☆ A	第3期中期目標期間中において、理事会、運営会議、総務・経営担当課長会議を原則毎月開催し、機構内での情報の共有化、緊急案件についての対応が問題なく行われている。 医師確保を図るため、令和3年4月に職務に応じた適切な給与制度を構築(級別標準職務表の見直し)した。これにより、医師の確保だけでなく、「職務の級」が役職による職責に応じて適用されることで、能力や意欲の高い職員が上位の職位に登用されることとなり、職員の能力や意欲の向上につなげることができた。 また、平成30年4月から試行を開始した人事評価制度については、全職員(有期雇用職員、再雇用職員、休職中の職員等を除く)を対象に令和2年度から給与(勤勉手当)への活用を開始している。	・毎月定例的に開催する理事会や運営会議、総務・経営担当課長会議等を通じて、的確な経営状況の把握と意思決定が可能な体制を確保している。 ・令和3年度には、給与制度について、役職による職責に応じて職務の級が適用されるように見直しを行っており、職員の意欲向上と、将来的な医師確保につながることが期待される。 ・県に準拠した人事評価制度の導入については、平成30年4月から試行を開始しており、令和元年度からすべての職員に対して期首面談を実施し、令和2年度から勤勉手当への活用を開始しており、職員の意欲が反映される評価制度の運用を行っている。
令元	年度末における第1期リニューアル工事進捗率 91.8%																																																																																																																																																																																																																																																																											
令2	令和2年2月 第Ⅱ期リニューアル工事の入札実施、業者決定 令和3年7月 第1期リニューアル工事完了、8月より第Ⅱ期リニューアル工事着工 年度末における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 38.7%																																																																																																																																																																																																																																																																											
令3	令和3年9月末時点における第Ⅱ期リニューアル工事進捗率 78.5% 令和4年2月末 完了予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
令3	令和3年11月末 内視鏡室改修完了予定 令和4年2月 渡り廊下増築工事完了予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
令4	精神科病棟改修工事着工予定 劣化改修工事設計発注予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
令5	精神科病棟改修工事完了予定 劣化改修工事着工予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
開催件数	—	—	—	—	—	7	13																																																																																																																																																																																																																																																																					
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																						
看護師	—	3	—	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																						
事務	2	10	3	2	6	6																																																																																																																																																																																																																																																																						
コメディカル	4	3	1	4	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																						
計	6	16	4	7	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																				
本部	29	27	34	35	34	36	38	38																																																																																																																																																																																																																																																																				
総合	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306																																																																																																																																																																																																																																																																				
こころ	165	166	170	170	175	174	172	172																																																																																																																																																																																																																																																																				
こども	654	650	642	636	648	660	645	645																																																																																																																																																																																																																																																																				
合計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161																																																																																																																																																																																																																																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	計	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																				
決定	88	114	55	50	36	11	354	40																																																																																																																																																																																																																																																																				
継続	126	163	182	147	128	105	851	105																																																																																																																																																																																																																																																																				
取消	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲4	▲37	▲4																																																																																																																																																																																																																																																																				
貸与計	209	268	229	190	160	112	1,168	141																																																																																																																																																																																																																																																																				
採用	40	63	62	53	46	43	307	43																																																																																																																																																																																																																																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
件数	7	7	6	7	9	5	7																																																																																																																																																																																																																																																																					
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																						
アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	59,817	100,000																																																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																									
ナース専科(静岡)																																																																																																																																																																																																																																																																												
ナースナビ(浜松)																																																																																																																																																																																																																																																																												
マイナビ(静岡)																																																																																																																																																																																																																																																																												
(沼津)																																																																																																																																																																																																																																																																												
業者計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									
静岡県立大学	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																											
常葉大学	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
聖隷クリストファー大学	未定																																																																																																																																																																																																																																																																											
順天堂大学	未定																																																																																																																																																																																																																																																																											
静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																											
養成校計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									
計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									
			105	本部・各病院（総務）	アソシイト採用実績(各年度4月1日現在) (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>看護師</td><td>—</td><td>3</td><td>—</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>事務</td><td>2</td><td>10</td><td>3</td><td>2</td><td>6</td><td>6</td></tr><tr><td>コメディカル</td><td>4</td><td>3</td><td>1</td><td>4</td><td>1</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>6</td><td>16</td><td>4</td><td>7</td><td>8</td><td>8</td></tr></table> 正規職員数の状況(各年度4月1日現在) (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>本部</td><td>29</td><td>27</td><td>34</td><td>35</td><td>34</td><td>36</td><td>38</td><td>38</td></tr><tr><td>総合</td><td>1,158</td><td>1,224</td><td>1,242</td><td>1,271</td><td>1,317</td><td>1,331</td><td>1,306</td><td>1,306</td></tr><tr><td>こころ</td><td>165</td><td>166</td><td>170</td><td>170</td><td>175</td><td>174</td><td>172</td><td>172</td></tr><tr><td>こども</td><td>654</td><td>650</td><td>642</td><td>636</td><td>648</td><td>660</td><td>645</td><td>645</td></tr><tr><td>合計</td><td>2,006</td><td>2,067</td><td>2,088</td><td>2,112</td><td>2,174</td><td>2,201</td><td>2,161</td><td>2,161</td></tr></table> 看護師修学資金の状況 (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>計</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>決定</td><td>88</td><td>114</td><td>55</td><td>50</td><td>36</td><td>11</td><td>354</td><td>40</td></tr><tr><td>継続</td><td>126</td><td>163</td><td>182</td><td>147</td><td>128</td><td>105</td><td>851</td><td>105</td></tr><tr><td>取消</td><td>▲5</td><td>▲9</td><td>▲8</td><td>▲7</td><td>▲4</td><td>▲4</td><td>▲37</td><td>▲4</td></tr><tr><td>貸与計</td><td>209</td><td>268</td><td>229</td><td>190</td><td>160</td><td>112</td><td>1,168</td><td>141</td></tr><tr><td>採用</td><td>40</td><td>63</td><td>62</td><td>53</td><td>46</td><td>43</td><td>307</td><td>43</td></tr></table> 看護師募集における広報等の実施状況(3年度9月) ・人材広告業者への求人情報ウェブサイト、雑誌への求人情報掲載 ・静岡新聞求人情報掲載(看護の日) ・県民だより求人情報掲載 ・県内コンビニ、ショッピングモールへの看護師募集ポスター掲示 柔軟な採用試験の実施状況 (単位:件) <table><tr><td>区 分</td><td>28年度</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>件数</td><td>7</td><td>7</td><td>6</td><td>7</td><td>9</td><td>5</td><td>7</td></tr></table> ホームページアクセス数 <table><tr><td>区 分</td><td>29年度</td><td>30年度</td><td>元年度</td><td>2年度</td><td>3年度9月末</td><td>3年度見込</td></tr><tr><td>アクセス数</td><td>年間 69,291</td><td>88,655</td><td>104,100</td><td>107,956</td><td>59,817</td><td>100,000</td></tr></table> ※平成27年に現システムを使用開始 看護学生向け就職説明会 (単位:人) <table><tr><td>区 分</td><td>来場者数</td><td>訪問者数</td><td>受験者数</td></tr><tr><td>ナース専科(静岡)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>ナースナビ(浜松)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>マイナビ(静岡)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>(沼津)</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>業者計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>静岡県立大学</td><td>PR動画の提供</td><td></td><td></td></tr><tr><td>常葉大学</td><td>令和4年2月開催予定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>聖隷クリストファー大学</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>順天堂大学</td><td>未定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>静岡市立看護専門学校</td><td>令和4年2月開催予定</td><td></td><td></td></tr><tr><td>静岡県立看護専門学校</td><td>PR動画の提供</td><td></td><td></td></tr><tr><td>養成校計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr><tr><td>計</td><td></td><td></td><td>0</td></tr></table>	区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込	看護師	—	3	—	1	1	1	事務	2	10	3	2	6	6	コメディカル	4	3	1	4	1	1	計	6	16	4	7	8	8	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込	本部	29	27	34	35	34	36	38	38	総合	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306	こころ	165	166	170	170	175	174	172	172	こども	654	650	642	636	648	660	645	645	合計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	計	3年度見込	決定	88	114	55	50	36	11	354	40	継続	126	163	182	147	128	105	851	105	取消	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲4	▲37	▲4	貸与計	209	268	229	190	160	112	1,168	141	採用	40	63	62	53	46	43	307	43	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	件数	7	7	6	7	9	5	7	区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	59,817	100,000	区 分	来場者数	訪問者数	受験者数	ナース専科(静岡)				ナースナビ(浜松)				マイナビ(静岡)				(沼津)				業者計			0	静岡県立大学	PR動画の提供			常葉大学	令和4年2月開催予定			聖隷クリストファー大学	未定			順天堂大学	未定			静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定			静岡県立看護専門学校	PR動画の提供			養成校計			0	計			0	令和3年度については、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めている。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問に代わるWeb説明会など様々な確保対策を進めている。 こうした取組みの結果、採用数の増加に繋げることができた。今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。	・看護師修学資金は、機構への就職を希望する看護学生の資質の向上に資することを目的に月5万円を貸与する制度であり、就職期間に相当する額の返還が免除される。 ・令和3年度も、安定した制度運用を継続しており、将来、地域医療を支える高い意欲を持つ看護師の継続的な確保に寄与している。 ・下半期に、企業主催の看護学生向けの就職説明会参加や養成校訪問等を予定しており、看護師確保に取り組んでいる。 ・ホームページ、広報誌、ラジオ、ポスター掲示等、各種広報媒体を通じた採用試験情報の周知にも積極的に取り組んでいる。	19	○ A	第3期中期目標期間中は、効果的な職員採用に繋げるため、看護師や事務職員に続き、コメディカルでもアソシエイト職員を採用し、優秀な人材確保を進めた。 また、看護師確保のため、就職説明会への参加や各種広報、修学資金貸与制度の拡充、養成校訪問を実施した。 加えて、令和2年度以降の新型コロナウイルス感染症禍においては、養成校訪問に代わるWeb説明会など様々な確保対策を進めた。 こうした取組みの結果、採用数の増加に繋げることができた。今後も職員確保に向けた取組みを継続していく。	・Web説明会も含め各就職説明会や養成校訪問を行ったほか、看護師修学資金制度の運用など、看護師確保に努めている。 ・ホームページ、広報誌、ラジオ、ポスター掲示等、各種広報媒体を通じた採用試験情報の周知にも積極的に取り組んでいる。																												
区 分	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																						
看護師	—	3	—	1	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																						
事務	2	10	3	2	6	6																																																																																																																																																																																																																																																																						
コメディカル	4	3	1	4	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																						
計	6	16	4	7	8	8																																																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																				
本部	29	27	34	35	34	36	38	38																																																																																																																																																																																																																																																																				
総合	1,158	1,224	1,242	1,271	1,317	1,331	1,306	1,306																																																																																																																																																																																																																																																																				
こころ	165	166	170	170	175	174	172	172																																																																																																																																																																																																																																																																				
こども	654	650	642	636	648	660	645	645																																																																																																																																																																																																																																																																				
合計	2,006	2,067	2,088	2,112	2,174	2,201	2,161	2,161																																																																																																																																																																																																																																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	計	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																				
決定	88	114	55	50	36	11	354	40																																																																																																																																																																																																																																																																				
継続	126	163	182	147	128	105	851	105																																																																																																																																																																																																																																																																				
取消	▲5	▲9	▲8	▲7	▲4	▲4	▲37	▲4																																																																																																																																																																																																																																																																				
貸与計	209	268	229	190	160	112	1,168	141																																																																																																																																																																																																																																																																				
採用	40	63	62	53	46	43	307	43																																																																																																																																																																																																																																																																				
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																					
件数	7	7	6	7	9	5	7																																																																																																																																																																																																																																																																					
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																																																																																																																																																																																																																																						
アクセス数	年間 69,291	88,655	104,100	107,956	59,817	100,000																																																																																																																																																																																																																																																																						
区 分	来場者数	訪問者数	受験者数																																																																																																																																																																																																																																																																									
ナース専科(静岡)																																																																																																																																																																																																																																																																												
ナースナビ(浜松)																																																																																																																																																																																																																																																																												
マイナビ(静岡)																																																																																																																																																																																																																																																																												
(沼津)																																																																																																																																																																																																																																																																												
業者計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									
静岡県立大学	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																											
常葉大学	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
聖隷クリストファー大学	未定																																																																																																																																																																																																																																																																											
順天堂大学	未定																																																																																																																																																																																																																																																																											
静岡市立看護専門学校	令和4年2月開催予定																																																																																																																																																																																																																																																																											
静岡県立看護専門学校	PR動画の提供																																																																																																																																																																																																																																																																											
養成校計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									
計			0																																																																																																																																																																																																																																																																									

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数値	評価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																							
						説明					説明																																																									
			106	⑩月次決算の集計等により、病院の経営状況の早期把握を図る。 本部(経営)	理事会等における月次決算の報告回数 (単位:回) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度</th><th>3年度</th></tr><tr><th>実績</th><th>実績</th><th>実績</th><th>実績</th><th>実績</th><th>9月末</th><th>見込</th></tr><tr><td>回数</td><td>9</td><td>6</td><td>6</td><td>6</td><td>10</td><td>4</td><td>10</td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度	実績	実績	実績	実績	実績	9月末	見込	回数	9	6	6	6	10	4	10	A			A	理事会開催時に月次決算の報告を実施しており、令和2年度、3年度は理事会に併せて毎回報告できており、病院の経営状況の早期把握が可能となっている。	・月次決算報告により経営状況の早期把握が可能な体制を確保している。 ・新型コロナウイルス感染症の影響による経営悪化や診療報酬改定等、外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。																																		
			区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	3年度																																																										
			実績	実績	実績	実績	実績	9月末	見込																																																											
			回数	9	6	6	6	10	4	10																																																										
			107	⑩⑪毎月の理事会や病院幹部会議において、経営状況を報告・分析するとともに、それらの経営状況の職員への周知を図る。 ⑩機構の直近の経営状況を職員(特に病院の幹部職員、県からの新しい派遣職員や新規採用職員)に認識させるため、会議や研修、広報誌等を通じて周知徹底する。 各病院(企画・経営)	理事会や運営会議において、毎月の月次決算により経営状況を分析し、報告を行っている。また、3病院合同幹部会議において各病院の幹部職員に定期的に報告し、周知を図っている。 職員研修などにおいて、病院経営や効率的な業務運営に関する取組等の科目を設け、意識の醸成を図った。 院内コミュニケーションシステムや職員報(トライアングル等)を通じて、理事会資料等の経営情報を全職員に向け提供し、意識醸成を図っている。 主に平成27年度から、上記取り組みを継続して行うことにより、経営情報の把握や適時適切な措置を講じられる体制の整備を図っている。	A			A	月次決算等により、経営状況の報告・分析を着実に進めている。 また、会議や職員報を通じた経営分析結果の職員への周知、理事長、副理事長自らによる研修等により、職員の経営に対する意識啓発を図っている。 令和3年度は、コロナ禍による診療収益の減と、補助金の見込額を随時把握し、月次決算報告に反映させている。	・地方独立行政法人として機動性のある柔軟な経営の実現に向けて、理事会・運営会議では毎月の月次決算報告として令和元、2年度実績との比較等を示して経営状況をチェックしているとともに、各職員の経営意識醸成のため、幹部職員を通じて各職員に対して経営情報を共有することで、各職員の経営意識の向上を図っている。	・第3期中期目標期間においては、新型コロナウイルス感染症が経営状況に大きく影響を与えており、経営状況の的確な把握と収支改善に向けた対策が重要となる。 ・理事会・運営会議では毎月の月次決算報告として新型コロナウイルス感染症感染拡大前後の実績との比較等を示して経営状況をチェックしているとともに、各職員の経営意識醸成のため、幹部職員を通じて各職員に対して経営情報を共有することで、各職員の経営意識の向上を図っている。																																																								
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																									
108	⑫院内コミュニケーションシステムを活用するなどして、職員が経営・業務改善を常時提案できる体制を整備する。 各病院(企画)	業務改善について、院内コミュニケーションシステム等を利用して、誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めた。また、他職員の改善提案を確認できるよう仕組みを整備している。 業務改善運動推進制度実績件数 (単位:件) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3目標</th><th>3年度</th><th>中期計画</th></tr><tr><td>総合</td><td>43</td><td>80</td><td>72</td><td>113</td><td>27</td><td>80件以上</td><td>実施中</td><td>80件以上/毎年度</td></tr><tr><td>こころ</td><td>36</td><td>29</td><td>24</td><td>32</td><td>4</td><td>36件以上</td><td>実施中</td><td>36件以上/毎年度</td></tr><tr><td>こども</td><td>71</td><td>50</td><td>34</td><td>50</td><td>29</td><td>71件以上</td><td>実施中</td><td>71件以上/毎年度</td></tr><tr><td>本部</td><td>16</td><td>19</td><td>10</td><td>8</td><td>8</td><td>19件以上</td><td>実施中</td><td>19件以上/毎年度</td></tr><tr><td>計</td><td>166</td><td>178</td><td>140</td><td>203</td><td>68</td><td>—</td><td>0</td><td></td></tr></table>	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標	3年度	中期計画	総合	43	80	72	113	27	80件以上	実施中	80件以上/毎年度	こころ	36	29	24	32	4	36件以上	実施中	36件以上/毎年度	こども	71	50	34	50	29	71件以上	実施中	71件以上/毎年度	本部	16	19	10	8	8	19件以上	実施中	19件以上/毎年度	計	166	178	140	203	68	—	0		—			29	1	—	B	第3期期間中は誰もが経営・業務改善を常時提案できる体制の整備に努めてきた。 令和2年度は、機構内において新型コロナウイルス感染症対策について様々な取組が取られていたことから、当該事業に特化して表彰を行い、『SARS-CoV-2検査体制確立』を初めとする顕著な取組を表彰した。 令和3年以降は引き続き優れた取組について、取り上げ、ホームページやマスコミを活用して、他の医療機関に広く周知を図っていく。	・業務改善改革運動の取組内容は機構内のシステムで共有されており、優良提案は病院内・機構内で審査・表彰し、表彰事業を県のひとり一改革運動の年間表彰に推薦するなど、職員の業務改善に向けたモチベーションの維持・向上を図っている。 ・第3期中期目標期間中の各年度とも目標値を下回っているが、令和2年度については新型コロナウイルス感染症に関連した取組のみを募集したためであり、新型コロナウイルス感染症に対して様々な策を講じた結果である。 ・令和2年度の総合病院の取組は、県の「ひとり1改革運動」部門大賞(県民サービス部門)を受賞している。			
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3目標	3年度	中期計画																																																												
総合	43	80	72	113	27	80件以上	実施中	80件以上/毎年度																																																												
こころ	36	29	24	32	4	36件以上	実施中	36件以上/毎年度																																																												
こども	71	50	34	50	29	71件以上	実施中	71件以上/毎年度																																																												
本部	16	19	10	8	8	19件以上	実施中	19件以上/毎年度																																																												
計	166	178	140	203	68	—	0																																																													
—	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	【目標値】 ・業務改善運動推進制度実績件数(総合、こころ、こども、本部)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																							
2	事務部門の専門性の向上 事務部門において、病院特有の事務に精通した職員を確保及び育成することにより、専門性の向上を図ること。	事務部門の専門性の向上 経営管理機能を強化するため、引き続き法人固有の事務職員を採用して業務量に応じた柔軟な職員配置に努め、専門性を十分に発揮できるよう体制を整備する。また、急速な経営環境の変化にも迅速に対応できるように病院運営や医療事務等に精通した人材の確保にも努める。	2	事務部門の専門性の向上 ①階層や職務に応じた効果的な研修の実施、学会発表等への事務職員の参加など ②異動方針の弾力的運用及び各部署におけるOJT(on-the-job training)をはじめとする人材の育成・研修の推進 ③診療情報管理機能の強化	本部(総務)	事務職員に対する研修状況 <table><tr><th>受講時期</th><th>研修名</th><th colspan="2">開催状況</th></tr><tr><td>新採年度</td><td>新規採用職員研修</td><td>7月</td><td>2日間</td></tr><tr><td>係長級昇任時</td><td>新規役付職員研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td rowspan="2">管理者</td><td>新任監督者研修</td><td>7月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>労務管理者研修</td><td>6月</td><td>2時間</td></tr><tr><td rowspan="6">希望により任意参加</td><td>コーチング研修</td><td>10月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>コミュニケーション研修</td><td>9月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>ファシリテーション研修</td><td>10月</td><td>1日間</td></tr><tr><td>メンタルサポート研修</td><td>12月</td><td>4時間</td></tr><tr><td>事務職員基礎研修</td><td>4月</td><td>0.5時間</td></tr><tr><td>会計講座</td><td>9月</td><td>2.5時間</td></tr><tr><td>医療保険制度・診療報酬基礎講座</td><td>9月</td><td>2.0時間</td></tr></table>	受講時期	研修名	開催状況		新採年度	新規採用職員研修	7月	2日間	係長級昇任時	新規役付職員研修	9月	1日間	管理者	新任監督者研修	7月	1日間	労務管理者研修	6月	2時間	希望により任意参加	コーチング研修	10月	1日間	コミュニケーション研修	9月	1日間	ファシリテーション研修	10月	1日間	メンタルサポート研修	12月	4時間	事務職員基礎研修	4月	0.5時間	会計講座	9月	2.5時間	医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	2.0時間	A			A	階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を実施している。 ・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計研修座、内部統制講座等を実施するなど、事務部門の専門性の向上に努めている。 ・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた貸付制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。			A	第3期中期目標期間中は、階層別、業務に必要なスキルを身につける専門研修を継続的に実施している。 また、令和2年度から管理職員を対象に必要な労働基準法の知識を取得するために、階層別研修として労務管理研修を新設した。	・事務職員の定期的な必修研修以外にも、直接的な実務能力の向上に向けて、会計研修座、内部統制講座など、階層や職務に応じた各種研修を実施することで事務部門の専門性向上に努めており、令和2年度からは管理職員を対象に労務管理研修を新設した。 ・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、通信教育の団体割引や診療情報管理士資格取得に向けた貸付制度を設けるなど、自己啓発支援を行っている。											
受講時期	研修名	開催状況																																																																		
新採年度	新規採用職員研修	7月	2日間																																																																	
係長級昇任時	新規役付職員研修	9月	1日間																																																																	
管理者	新任監督者研修	7月	1日間																																																																	
	労務管理者研修	6月	2時間																																																																	
希望により任意参加	コーチング研修	10月	1日間																																																																	
	コミュニケーション研修	9月	1日間																																																																	
	ファシリテーション研修	10月	1日間																																																																	
	メンタルサポート研修	12月	4時間																																																																	
	事務職員基礎研修	4月	0.5時間																																																																	
	会計講座	9月	2.5時間																																																																	
医療保険制度・診療報酬基礎講座	9月	2.0時間																																																																		
110	③診療情報管理業務に専門的に携わることができる知識・技能を有する職員を育成する。 本部・各病院(総務)	診療情報管理士資格取得状況 (単位:人) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td></td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td><td>専門課程修了者</td><td>資格取得者</td></tr><tr><td>総合</td><td>5</td><td>11</td><td>6</td><td>10</td><td>7</td><td>9</td><td>9</td></tr><tr><td>こころ</td><td>1</td><td>1</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>3</td><td>2</td></tr><tr><td>こども</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>4</td><td>3</td><td>3</td><td>5</td></tr><tr><td>本部</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>1</td><td>2</td><td>0</td><td>1</td></tr><tr><td>計</td><td>11</td><td>17</td><td>12</td><td>17</td><td>13</td><td>14</td><td>17</td></tr></table> ※ 専門課程修了者：資格試験受験資格を有する者	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込		資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	総合	5	11	6	10	7	9	9	こころ	1	1	1	2	1	3	2	こども	3	4	3	4	3	3	5	本部	2	1	2	1	2	0	1	計	11	17	12	17	13	14	17	A			A	令和3年度については、診療情報管理機能の強化をするため、引き続き診療情報管理士資格の取得支援制度を活用するなど、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行っている。 ・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。			A	第3期中期目標期間中においては、診療情報管理機能の強化をするため、診療情報管理士資格の取得支援制度を活用し、必要な資格者を育成するとともに、適切な人員配置を行っている。	・診療情報の適正な管理は診療報酬の適正算定につながることから、知識を有する職員の育成は必要である。 ・病院特有の事務に精通した職員の確保・養成に向けて、診療報酬の適正算定に寄与する診療情報管理士資格取得者の育成と効果的な配置に努めている。
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込																																																													
	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者	専門課程修了者	資格取得者																																																													
総合	5	11	6	10	7	9	9																																																													
こころ	1	1	1	2	1	3	2																																																													
こども	3	4	3	4	3	3	5																																																													
本部	2	1	2	1	2	0	1																																																													
計	11	17	12	17	13	14	17																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																												
						説明	説明																																																																																																		
			114	④SPD導入により、薬品・診療材料の期限切れ、病棟の在庫額減少に努める。	薬品、診療材料期限切れ廃棄額 (単位：千円) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>薬品</td><td>2,127</td><td>2,832</td><td>2,931</td><td>2,279</td><td>2,553</td><td>1,822</td><td>3,644</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>1,615</td><td>675</td><td>969</td><td>973</td><td>627</td><td>483</td><td>966</td></tr></table> 薬品・診療材料在庫額 (単位：千円) <table><tr><th>区分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月</th><th>3年度見込</th></tr><tr><td>薬品</td><td>101,066</td><td>102,777</td><td>92,244</td><td>136,694</td><td>153,688</td><td>160,032</td><td>160,032</td></tr><tr><td>診療材料</td><td>191,861</td><td>216,079</td><td>224,292</td><td>221,511</td><td>227,708</td><td>230,036</td><td>230,036</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	薬品	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553	1,822	3,644	診療材料	1,615	675	969	973	627	483	966	区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込	薬品	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688	160,032	160,032	診療材料	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708	230,036	230,036	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カードを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。 令和3年度も、新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を増やすなど診療に支障がないよう取り組んでいる。	30	○	A	薬品及び診療材料については、使用期限を確認し、期限切迫品の表示や使用頻度の高い部署へ移管を行うことにより、多くのロスを防ぐなどSPD業務の改善を図っている。 薬品は、SPDによる在庫管理に加え、3病院間における移管や担当職員の関与により、期限切れ廃棄額の削減と在庫額減少に努めている。 診療材料は、手術室において期限切迫品カードを設置し、使用を促している。医療の高度化により高額材料が増加したが、ピッキングリストの見直し提案を行う等、在庫の削減に努めている。 新型コロナウイルス感染症の影響により、マスクや手袋等、供給体制が不安定な物品について、在庫量を増やすなど診療に支障がないよう取り組んでいる。	・SPDによる在庫管理により、在庫の適正種類・量の確保、期限切れ廃棄の削減等に努めている。 ・薬品在庫額については、高度な手術や高額薬剤を使用する化学療法の件数増加等の要因により増加しているが、期限切迫品の可視化による周知、使用状況に応じた他部署への移管、不動在庫のリスト化など、期限切れの抑止に努めている。 ・診療材料在庫額については、新型コロナウイルス感染症の影響で供給が不安定な物品の在庫量を増やしたためであり、適切な対応をとっている。																																													
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																		
薬品	2,127	2,832	2,931	2,279	2,553	1,822	3,644																																																																																																		
診療材料	1,615	675	969	973	627	483	966																																																																																																		
区分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月	3年度見込																																																																																																		
薬品	101,066	102,777	92,244	136,694	153,688	160,032	160,032																																																																																																		
診療材料	191,861	216,079	224,292	221,511	227,708	230,036	230,036																																																																																																		
			115	④材料費等の節減のための対策を実施する。	診療材料コスト縮減実績 (単位：千円) <table><tr><th>区 分</th><th>28年度 実績</th><th>29年度 実績</th><th>30年度 実績</th><th>元年度 実績</th><th>2年度 実績</th><th>3年度 9月末</th><th>3年度 見込</th></tr><tr><td>総 合</td><td>34,307</td><td>27,923</td><td>85,869</td><td>82,971</td><td>71,680</td><td>82,242</td><td>117,242</td></tr><tr><td>こころ</td><td>107</td><td>446</td><td>95</td><td>13</td><td>3</td><td>291</td><td>58</td></tr><tr><td>こども</td><td>8,320</td><td>6,182</td><td>15,458</td><td>16,734</td><td>12,229</td><td>4,699</td><td>10,338</td></tr><tr><td>合 計</td><td>42,734</td><td>34,551</td><td>101,422</td><td>99,718</td><td>83,912</td><td>87,232</td><td>127,638</td></tr></table> 3年度9月末 新規導入・廃止した診療材料・薬品 品目数の実績 (単位：件) <table><tr><th rowspan="2">区 分</th><th colspan="4">診療材料品目数</th><th colspan="4">薬品目数</th></tr><tr><th>3年度当初 契約数(a)</th><th>新規採用数 (b)</th><th>廃止数 (c)</th><th>契約数 (a+b-c)</th><th>3年度当初 契約数(a)</th><th>新規採用数 (b)</th><th>廃止数 (c)</th><th>契約数 (a+b-c)</th></tr><tr><td>総合</td><td>17,570</td><td>1,006</td><td>35</td><td>18,541</td><td>1,647</td><td>15</td><td>7</td><td>1,655</td></tr><tr><td>こころ</td><td>397</td><td>6</td><td>3</td><td>400</td><td>607</td><td>37</td><td>58</td><td>586</td></tr><tr><td>こども</td><td>4,212</td><td>119</td><td>102</td><td>4,229</td><td>1,337</td><td>55</td><td>49</td><td>1,343</td></tr><tr><td>合 計</td><td>22,179</td><td>1,131</td><td>140</td><td>23,170</td><td>3,591</td><td>107</td><td>114</td><td>3,584</td></tr></table>	区 分	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	元年度 実績	2年度 実績	3年度 9月末	3年度 見込	総 合	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680	82,242	117,242	こころ	107	446	95	13	3	291	58	こども	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229	4,699	10,338	合 計	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912	87,232	127,638	区 分	診療材料品目数				薬品目数				3年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	3年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	総合	17,570	1,006	35	18,541	1,647	15	7	1,655	こころ	397	6	3	400	607	37	58	586	こども	4,212	119	102	4,229	1,337	55	49	1,343	合 計	22,179	1,131	140	23,170	3,591	107	114	3,584	A	(総合) 診療材料については、価格交渉により約5,260万円削減した。また共同購入の成果により約2,960万円還元となった。品目数は誤接続防止に対応したISO品採用等により増加しているが、年度末に既存品の廃止を実施予定である。 (こころ) 後発品の採用率は前年度と比較して上昇した。また、診療材料については、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響もあって上昇していたメーカーの販売単価が下降傾向に入ったことに加え、入院患者の持参薬の臨時採用の見直しなどを進めた結果、大幅なコスト縮減を図ることができている。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定している。 また、診療材料は、令和元年から引き続き共同購入の取組を継続しており、一層の価格削減を進めている。	30	○	A	(総合) 第3期中期期間中、薬品については、競合する薬を引き合いに出した交渉により大幅な値引を実現したほか、入院使用分はDPC包括となるため、後発品への切り替えを積極的に進めた。診療材料についても価格交渉や共同購入を積極的に行い、第3期中期目標期間を通じて成果を上げている。 (こころ) 後発医薬品の採用実績は年々増加傾向にある。 薬品については在庫薬の発生する原因となっていた入院患者の持参薬のうち、当院で採用がないものの臨時採用について、総合病院のフォーミュラーを活用した結果、臨時採用を減らすことができた。 また、3病院間の譲受・譲渡を行うことによって在庫薬の削減を図り、コストの削減につなげている。 今後も、積極的な見直しを実施し、コストの削減に努めていく。 (こども) 後発医薬品への切り替えに当たっては、小児病院の特性から、先発品との同等性を十分に確認することが必要であるため、第3期中期期間中は、安全性・使用性・生物学的同等性の視点を重視し、他の小児専門病院の採用状況を参考にしながら切替え候補品目を選定している。 また、診療材料は、令和元年度以降、引き続き共同購入の取組を継続しており、令和3年度までに39,301千円の削減を達成する見込みである。	・材料費の節減については、「トップダウン」としての診療材料採用の「一増、一減」方針の徹底、「ミドルマネジメント」としての診療材料委員会と中央材料室の機能向上、「ボトムアップ」としての全国的ベンチマークデータを活用した価格交渉など、一貫した節減努力の方向性のもとに取り組んでいる。 ・また、総合病院及びこども病院では、共同購入組織(一般社団法人日本ホスピタルアライアンス)に加盟し、期間を通じて材料費節減成果をあげている。 ・こころの医療センターにおいても、フォーミュラーの活用による臨時採用薬の削減や、患者持参薬の3病院間の採用薬への切り替えなどにより、在庫の削減に取り組んでいる。 ・診療報酬改定等の外的要因が病院経営に及ぼす影響を迅速・的確に把握し、分析結果を業務運営に反映することが重要である。
区 分	28年度 実績	29年度 実績	30年度 実績	元年度 実績	2年度 実績	3年度 9月末	3年度 見込																																																																																																		
総 合	34,307	27,923	85,869	82,971	71,680	82,242	117,242																																																																																																		
こころ	107	446	95	13	3	291	58																																																																																																		
こども	8,320	6,182	15,458	16,734	12,229	4,699	10,338																																																																																																		
合 計	42,734	34,551	101,422	99,718	83,912	87,232	127,638																																																																																																		
区 分	診療材料品目数				薬品目数																																																																																																				
	3年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)	3年度当初 契約数(a)	新規採用数 (b)	廃止数 (c)	契約数 (a+b-c)																																																																																																	
総合	17,570	1,006	35	18,541	1,647	15	7	1,655																																																																																																	
こころ	397	6	3	400	607	37	58	586																																																																																																	
こども	4,212	119	102	4,229	1,337	55	49	1,343																																																																																																	
合 計	22,179	1,131	140	23,170	3,591	107	114	3,584																																																																																																	
			116	④効率的な医療機器購入及び管理のための対策を実施する。	各病院において、徹底した価格交渉や価格調査を行い、入札・見積合わせ等により競争性を確保することなどにより、効率的な購入及び管理に努めている。 価格交渉では事務と連携して医師等自らも業者と交渉するほか、スケールメリットを生かした複数台購入も行っている。 機種選定では複数機種を原則とし、1機種に限定する場合でも複数業者間の競争を維持するよう努めている。 価格調査では、他病院実績の調査や関係団体への照会、ベンチマーク調査により目安となる金額の把握を徹底し、適正な金額設計に生かしている。 保守委託では、3病院一括の契約を結ぶなど、機器に応じた契約や不要になった保守機器の随時の見直しを行いコスト低減を図っている。	A	総合病院において、令和3年9月に購入したPET-CT装置は、ベンチマークシステムを活用した価格調査に加え、2メーカーによる入札を実施した結果、5年間の保守を含めて317,658千円(予定価格より▲179,494千円)で契約することができた。 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約している。 引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。	30	○	A	各病院における医療機器の購入は、徹底した価格交渉やベンチマークシステムを活用した価格調査により効率的な購入を進めている。 3病院一括での契約については、保守の必要性が低下した機器につき、随時必要性の見直しを行い変更契約をすることで令和2年度には約454万円の縮減を達成した。 引き続き各病院と連携し、コスト低減を図っていく。	・医療機器導入にあたっては、業者間・機種間の競争性を確保するとともに、ベンチマークを活用した徹底した価格調査や価格交渉等により、効率的な調達を図っている。 ・保守の必要性が低下した機器については、随時必要性の見直しを行い変更契約を結ぶなど、コスト削減に向けた工夫が継続されている。																																																																																													

中期目標	中期計画	年度計画	No	行動計画	業務の実績(令3、中期期間)	令和3年度実績(暫定) 自己評価		県評価 (R3年度暫定評価)	重 点 数 値	評 価	第3期(平31・令元～令3(見込)) 自己評価		県評価 (第3期暫定評価)																																																																																																						
						説明	説明																																																																																																												
			117	④複数年契約や集約化等による契約方法の見直しを継続的に実施する。	各病院（企画） 委託費の節減を図るため、契約の更新時に引き続き一括化・複数年化に適合するか見直した。 委託の仕様の徹底した見直しを行った。 コスト削減による業務水準の低下を防ぐため、一部の委託については、定期的にモニタリング（委託業者の業務を評価）を行い、質の維持・向上を図った。 3年度9月末 委託契約等の見直し状況（単年度ベース）（単位：千円） <table><tr><th>業務名(連携)</th><th>連携</th><th>年数</th><th>期間</th><th>種類</th><th>令3決裁額</th></tr><tr><td>RⅠ施設管理業務委託</td><td>3病院</td><td>5年</td><td>令3.4～令8.3</td><td>定額</td><td>14,410</td></tr><tr><td>集配金警送業務委託</td><td>3病院</td><td>5年</td><td>令3.4～令8.3</td><td>定額</td><td>3,578</td></tr><tr><td>被曝放射線量測定検査業務</td><td>3病院</td><td>5年</td><td>令3.4～令8.3</td><td>単価</td><td>3,947</td></tr><tr><td>産業廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令3.4～令6.3</td><td>単価</td><td>7,752</td></tr><tr><td>一般廃棄物処理業務委託</td><td>3病院</td><td>3年</td><td>令3.4～令6.3</td><td>単価</td><td>7,718</td></tr><tr><td>装飾用植木賃貸借</td><td>心・子</td><td>3年</td><td>令3.4～令6.3</td><td>定額</td><td>214</td></tr><tr><td>医療機器等保守点検業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令3.4～令4.3</td><td>定額</td><td>232,430</td></tr><tr><td>放射線機器保守管理等業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令3.4～令4.3</td><td>定額</td><td>223,344</td></tr><tr><td>シーメンス社製医療機器保守業務委託</td><td>総・子</td><td>1年</td><td>令3.4～令4.3</td><td>定額</td><td>92,309</td></tr><tr><td>建築基準法の定期報告業務委託</td><td>3病院</td><td>1年</td><td>令3.8～令4.3</td><td>定額</td><td>6,435</td></tr><tr><td colspan="5">合計</td><td>592,137</td></tr></table> 3年度9月末 委託モニタリング評価結果 <table><tr><th>区 分</th><th>第1期</th><th>第2期</th><th>第3期</th><th></th></tr><tr><td>給食</td><td>可</td><td>可</td><td>-</td><td></td></tr><tr><th>区 分</th><th>第1四半期</th><th>第2四半期</th><th>第3四半期</th><th>第4四半期</th></tr><tr><td>清掃</td><td>可</td><td>可</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>警備（心・子）</td><td>可</td><td>可</td><td>-</td><td>-</td></tr><tr><td>医事（総・心）</td><td>可</td><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr></table>	業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令3決裁額	RⅠ施設管理業務委託	3病院	5年	令3.4～令8.3	定額	14,410	集配金警送業務委託	3病院	5年	令3.4～令8.3	定額	3,578	被曝放射線量測定検査業務	3病院	5年	令3.4～令8.3	単価	3,947	産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4～令6.3	単価	7,752	一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4～令6.3	単価	7,718	装飾用植木賃貸借	心・子	3年	令3.4～令6.3	定額	214	医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令3.4～令4.3	定額	232,430	放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令3.4～令4.3	定額	223,344	シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令3.4～令4.3	定額	92,309	建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令3.8～令4.3	定額	6,435	合計					592,137	区 分	第1期	第2期	第3期		給食	可	可	-		区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	清掃	可	可	-	-	警備（心・子）	可	可	-	-	医事（総・心）	可	-	-	-	A	複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 医事や警備を始めとした一部の委託については、定期的にモニタリング(委託業者の業務を評価)を行い、質の維持・向上が図られている。	・委託業務については、複数年契約、複数病院一括契約等の工夫により、経費節減を図っている。 ・委託モニタリング制度は、成績不良の場合、契約解除や委託料の減額等の対応が取られる一方、努力すれば契約延長等のメリットが企業にあることから、緊張感を持った業務執行により、業務の質の向上が期待できる工夫である。	30	○	A	複数病院で集約化した委託費等の契約は20件、うち複数年化を行ったものは、16件となり、一括化・複数年化による費用削減及び事務の簡素化につながっている。 複数年化及び複数病院一括化の見直しが一巡したので、今後はそれらの契約更新に当たり、前回の削減効果の検証及び更なる改善に取組む。	・委託業務については、複数年契約、複数病院一括契約等の工夫により、経費節減を図っている。 ・委託モニタリング制度は、成績不良の場合、契約解除や委託料の減額等の対応が取られる一方、努力すれば契約延長等のメリットが企業にあることから、緊張感を持った業務執行により、業務の質の向上が期待できる工夫である。
業務名(連携)	連携	年数	期間	種類	令3決裁額																																																																																																														
RⅠ施設管理業務委託	3病院	5年	令3.4～令8.3	定額	14,410																																																																																																														
集配金警送業務委託	3病院	5年	令3.4～令8.3	定額	3,578																																																																																																														
被曝放射線量測定検査業務	3病院	5年	令3.4～令8.3	単価	3,947																																																																																																														
産業廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4～令6.3	単価	7,752																																																																																																														
一般廃棄物処理業務委託	3病院	3年	令3.4～令6.3	単価	7,718																																																																																																														
装飾用植木賃貸借	心・子	3年	令3.4～令6.3	定額	214																																																																																																														
医療機器等保守点検業務委託	3病院	1年	令3.4～令4.3	定額	232,430																																																																																																														
放射線機器保守管理等業務委託	3病院	1年	令3.4～令4.3	定額	223,344																																																																																																														
シーメンス社製医療機器保守業務委託	総・子	1年	令3.4～令4.3	定額	92,309																																																																																																														
建築基準法の定期報告業務委託	3病院	1年	令3.8～令4.3	定額	6,435																																																																																																														
合計					592,137																																																																																																														
区 分	第1期	第2期	第3期																																																																																																																
給食	可	可	-																																																																																																																
区 分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期																																																																																																															
清掃	可	可	-	-																																																																																																															
警備（心・子）	可	可	-	-																																																																																																															
医事（総・心）	可	-	-	-																																																																																																															
			118	⑤弁護士事務所への未収金回収業務委託を活用し、未収金の縮減、効率的な回収を実施する。 ⑤未収金に関する研修や、弁護士事務所への相談により、事務担当者のレベルアップを図る。	本部・各病院（経営） 平成24年度から弁護士法人へ委託先を変更。 令和3年度9月末 未収金回収実績(弁護士事務所委託分)（単位：百万円） <table><tr><th>年度</th><th>委任金額</th><th>回収額</th><th>累計回収率</th></tr><tr><td>24～27年度</td><td>139</td><td>60</td><td>43.4%</td></tr><tr><td>28年度</td><td>24</td><td>15</td><td>46.3%</td></tr><tr><td>29年度</td><td>38</td><td>17</td><td>46.1%</td></tr><tr><td>30年度</td><td>23</td><td>16</td><td>48.7%</td></tr><tr><td>元年度</td><td>26</td><td>20</td><td>51.6%</td></tr><tr><td>2年度</td><td>30</td><td>16</td><td>51.7%</td></tr><tr><td>3年度9月末</td><td>8</td><td>6</td><td>52.4%</td></tr><tr><td>3年度見込</td><td>16</td><td>12</td><td>53.0%</td></tr></table>	年度	委任金額	回収額	累計回収率	24～27年度	139	60	43.4%	28年度	24	15	46.3%	29年度	38	17	46.1%	30年度	23	16	48.7%	元年度	26	20	51.6%	2年度	30	16	51.7%	3年度9月末	8	6	52.4%	3年度見込	16	12	53.0%	A	累計回収率については、令和元年度に50%を超え、令和3年度には53%程度に達すると見込んでいる。 平成23年度以前に委託していたサービサーの回収率が20.4%だったのと比較し、非常に高い回収率を維持している。	・平成24年度に未収金回収業務の委託先を債権回収会社から弁護士法人に改めて以降、回収率は高水準を維持している。 ・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで、一貫して適切な手順が取れるよう体制が整備されている。			A	累計回収率については、令和元年度に50%を超え、令和3年度には53%程度に達すると見込んでいる。 平成23年度以前に委託していたサービサーの回収率が20.4%だったのと比較し、非常に高い回収率を維持している。 なお、委託している弁護士事務所への報酬についても価格交渉を行い、令和元年度からは成功報酬率を10%削減した。	・未収金の累計回収率は年々増加しており、高水準を維持している。 ・未収金が発生した場合の処理マニュアルから最終的な貸倒損失処理対応に至るまで、一貫して適切な手順が取れるよう体制が整備されている。																																																																		
年度	委任金額	回収額	累計回収率																																																																																																																
24～27年度	139	60	43.4%																																																																																																																
28年度	24	15	46.3%																																																																																																																
29年度	38	17	46.1%																																																																																																																
30年度	23	16	48.7%																																																																																																																
元年度	26	20	51.6%																																																																																																																
2年度	30	16	51.7%																																																																																																																
3年度9月末	8	6	52.4%																																																																																																																
3年度見込	16	12	53.0%																																																																																																																
第4 財務内容の改善に関する事項	第4 予算、収支計画及び資金計画	第3 予算、収支計画、資金計画及び収支予算等	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																						
業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすること。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握するとともに、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図ること。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図ること。	「第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置」で定めた計画を確実に実施することにより、業務運営の改善及び効率化を進めるなどして、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを目指す。 業務運営に当たっては、日頃から経営状況を的確に把握し、社会保障制度の見直しや診療報酬制度の改定など、病院経営に大きく関わる環境変化に対しても適切な対応を図り、経営情報を職員が共有するなど、職員全員の経営意識の向上に努める。これら取組を通じて、中長期的な病院運営の健全化や経営基盤の強化を図る。		119	・新規施設基準取得などによる増収への取組みと業務見直しによる支出節減への取組みを効率的に進めることにより、各年度での3病院黒字化を図る。	各病院（経営） 経常収支の状況（単位：％） <table><tr><th>区 分</th><th>28年度</th><th>29年度</th><th>30年度</th><th>元年度</th><th>2年度</th><th>3年度9月末</th><th>3年度見込</th><th>5目標</th><th>5年度見込</th></tr><tr><td>総 合</td><td>100.4</td><td>100.4</td><td>100.8</td><td>100.6</td><td>100.6</td><td>98.0</td><td>101.3</td><td>-</td><td>100.5</td></tr><tr><td>こころ</td><td>114.2</td><td>113.3</td><td>112.9</td><td>103.1</td><td>108.6</td><td>103.6</td><td>106.5</td><td>-</td><td>103.6</td></tr><tr><td>こども</td><td>105.3</td><td>103.1</td><td>103.4</td><td>101.4</td><td>102.3</td><td>94.3</td><td>99.0</td><td>-</td><td>100.5</td></tr><tr><td>機構全体</td><td>102.6</td><td>101.9</td><td>102.2</td><td>100.9</td><td>101.5</td><td>98.0</td><td>101.0</td><td>100.0</td><td>100.7</td></tr></table>	区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	5目標	5年度見込	総 合	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6	98.0	101.3	-	100.5	こころ	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6	103.6	106.5	-	103.6	こども	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3	94.3	99.0	-	100.5	機構全体	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5	98.0	101.0	100.0	100.7	A	令和3年度も、前年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響により医療収益が悪化するものの、空床補償等の各種補助金により補填が行われ、経常収支比率100%以上を達成する見込みである。	・中期目標においては、第3期中期目標期間を累計した損益計算において、経常収支比率を100%以上とすることを求めている。 ・令和3年度まで、平成21年度の法人移行後連続で経常収支比率100%以上を継続して達成する見込みである。 ・令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響からの回復傾向が見られ、令和2年度の上半期時点と比較して、外来患者数が約10%増加したことなどにより、医療収益が増加している。下半期には新型コロナウイルス感染症患者受入れのための病床確保に対する補助金など、各種補助金が交付されるほか、延期していた手術の実施等もあり、機構全体としては、経常収支比率101.0%、年間で約4.9億円の経常収支黒字を見込んでいる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続く見込まれるため、引き続き収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化を一層進める取組を注視していく。	31	1	○	A	令和2～3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により医療収益が悪化するものの、空床補償等の各種補助金により補填が行われ、中期計画期間を累計した経常収支比率については、目標の100%以上を達成する見込みである。 ・新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続く見込まれるため、収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化を一層進める取組を注視していく必要がある。 ・貸付残高については、先端医学棟の整備等により、第2期に大幅に増加したが、移行前地方債償還債務及び長期借入金の償還は、毎年度適切に行われている。 ・資金残高は、貸付金償還の増加や電子カルデシシステムの更新への前中期目標期間繰越積立金充当により令和4年度に一時的に減少する見込みではあるものの、経営の安定性に問題はない。	・法人化初年度から経常収支は黒字を継続しており、第3期においても、中期目標で示した「5年間累計の経常収支比率100%以上」を達成する見込みである。 ・新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けており、特に令和2年度に医療収益が大幅に減少した一方で、新型コロナウイルス感染症関連の補助金の交付等により、経常収支比率は100%以上を維持している。 ・経常収支比率、医療収支比率、給与費対医療収益比率、材料費対医療収益比率といった経営状況を示す指標について、全国の類似病院との比較では、総合病院及びこころの医療センターは平均値と同等程度かそれ以上の高い水準となっている。こども病院については、その特殊性から、やや低い水準となっている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響は今後も続く見込まれるため、収益確保及び費用の節減、業務運営の改善・効率化を一層進める取組を注視していく必要がある。																																																			
区 分	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度9月末	3年度見込	5目標	5年度見込																																																																																																										
総 合	100.4	100.4	100.8	100.6	100.6	98.0	101.3	-	100.5																																																																																																										
こころ	114.2	113.3	112.9	103.1	108.6	103.6	106.5	-	103.6																																																																																																										
こども	105.3	103.1	103.4	101.4	102.3	94.3	99.0	-	100.5																																																																																																										
機構全体	102.6	101.9	102.2	100.9	101.5	98.0	101.0	100.0	100.7																																																																																																										